

デジタルカメラ

EXILIM^{エクシム}
EX-ZR500
EX-ZR510

取扱説明書(保証書付き)

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- 本機をご使用になる前に、必ず「安全上のご注意」(13ページ)をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も、大切に保管してください。
- 本製品に関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト (<http://casio.jp/dc/>) またはカシオホームページ (<http://casio.jp/>) でご覧になることができます。

ユーザー登録のおすすめ

ユーザー登録していただくと、サポート情報の配信などをさせていただきます。下記のWebサイトから登録手続きを行ってください。

<http://casio.jp/reg/dc/>

CASIO®

JA

▶ はじめにご覧ください
(基本的な操作)

静止画を撮影する(応用)

動画を撮影する

撮りたいシーンを選んで撮影する
(ベストショット)

よりよい撮影のための設定(REC MENU)

静止画や動画を再生する

再生時のその他の機能(PLAY MENU)

プリント(印刷)する

パソコンを利用する

その他の設定について(SETTING)

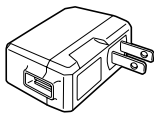
付録

付属品を確認する

箱を開けたら、以下の付属品がそろっているか確認してください。そろっていないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。



リチウムイオン充電電池
(NP-130AまたはNP-130)



USB-ACアダプター
(AD-C54UJ)

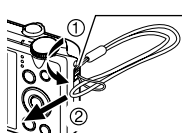


USBケーブル



ストラップ

取り付けかた



ストラップ
取り付け部

あらかじめご承知ください

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えません。
- 取扱説明書に記載している画面やイラストは、実際の製品と異なる場合があります。

液晶パネルについて

液晶モニターに使用されている液晶パネルは、高精度な技術で作られており、有効画素は99.99%以上です。点灯しない画素や常時点灯する画素が存在することがありますが、液晶パネルの特性で、故障ではありません。

撮影前は試し撮りを

必ず事前に試し撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

目次

付属品を確認する	2
あらかじめご承知ください.....	3

■ 安全上のご注意 13

■ 各部の名称 22

■ 液晶モニターの表示内容と切り替えかた 25

■ はじめにご覧ください(基本的な操作) 31

このカメラでできること	31
箱を開けたら、電池を充電する.....	34
■ 電池を入れる	34
■ 充電する	36
最初に電源を入れたら時計を合わせる	43
メモリーカードを準備する.....	44
■ 使用できるメモリーカード	44
■ メモリーカードを入れる	45
■ 新しいメモリーカードをフォーマット(初期化)する.....	47
電源を入れる/切る	49
カメラの正しい構えかた	50

静止画を撮影する.....	52
■ オート撮影モードを設定する	52
■ 撮影する.....	54
撮影した静止画を見る.....	59
撮影した静止画や動画を消去する	60
静止画撮影時のご注意.....	62

■ 静止画を撮影する(応用) 65

撮影モードを設定する.....	65
操作パネルを使う.....	68
セルフタイマーを使う..... (セルフタイマー)	69
色合いを調整する..... (ホワイトバランス)	71
ピントの合わせ方を変える..... (フォーカス方式)	74
ISO感度を変える..... (ISO感度)	78
人物の顔を美しく撮影する..... (メイクアップレベル)	79
明るさを補正する..... (EVシフト)	80
フラッシュを使う..... (フラッシュ)	82
光の測りかたを変える..... (測光方式)	85
ズーム撮影する.....	86
■ ズーム時の画面表示について	88
■ 静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる..... (超解像ズーム)	91
■ ズーム領域を拡大し解像感を高めた写真を撮影する..... (プレミアムズーム)	92
何枚も連続して撮影する..... (高速連写)	93

いろいろな作風で撮影する.....(アートショット)...	98
■ HDRアートでの撮影で効果なしの画像も	
同時に保存する.....(ダブル保存(HDRアート))...	101
撮りたい瞬間を逃さず撮影する.....(トリプルショット)...	101

■ 動画を撮影する 103

動画を撮影する.....	103
■ 音声について.....	106
高精細な動画を撮影する.....	108
ハイスピード動画を撮影する.....	109
撮影開始前のシーンも動画に記録する.....(パストムービー)...	112
タイムラプス動画を撮影する.....(タイムラプス)...	115
YouTube用の動画を撮影する.....(YouTube)...	118
動画撮影中に静止画を撮影する.....(スチルインムービー)...	121

■ 撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット) 122

ベストショットで撮影する.....	122
自分好みの設定を登録して撮影する.....(カスタムショット)...	125
暗い場所でフラッシュを使わずに明るく撮影する.....(HSナイトショット)...	127
デジタル処理で白とびや黒つぶれのない写真を撮影する.....(HDR)...	128
デジタル処理で手ブレ補正をする.....(HS手ブレ補正)...	129
背景をぼかした写真を撮影する.....(背景ぼかし)...	130
画像全体にピントを合わせて撮影する.....(全焦点マクロ)...	132
オートフォーカスしながら連写撮影する.....(AF連写)...	133

良い顔の画像だけ撮影する	(いち押しショット) ..134
パノラマ画像を撮影する	(スライドパノラマ) ..135
超広角画像を撮影する	(ワイドショット) ..138
スナップ写真を撮影する	(スナップ撮影) ..142
テレビに映しながら静止画を撮影する	(HDMIテレビ出力) ..143

II よりよい撮影のための設定(REC MENU) 145

撮影設定を変更する	145
被写体の動きを感知してセルフタイマーを動かす	(モーションシャッター) ..148
動きを感知する場所を設定する	(モーション位置) ..150
左右キーに機能を割り当てる	(左右キー) ..151
HDRアートでの撮影で効果なしの画像も 保存する	(ダブル保存(HDRアート)) ..152
静止画の画像サイズを設定する	(静止画サイズ) ..152
静止画の画質を設定する	(静止画画質) ..156
動画の画質を設定する	(動画画質) ..157
ISO感度を変える	(ISO感度) ..159
ISO感度の上限を設定する	(ISO感度上限) ..159
静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる	(超解像ズーム) ..160
オートフォーカスの測定範囲を変更する	(AFエリア) ..161
手ブレや被写体ブレを軽減する	(手ブレ補正) ..163
画像の明るさを最適化する	(ライティング) ..165
常にオートフォーカスを動作させる	(コンティニューAF) ..165
人物の顔にピントと明るさを合わせて撮影する	(顔検出) ..166

デジタルズームを設定する.....	(デジタルズーム) ..	168
動画撮影時の風の音を低減する.....	(風音低減) ..	168
人物の顔を美しく撮影する.....	(メイクアップレベル) ..	168
明るさを補正する.....	(EVシフト) ..	169
色合いを調整する.....	(ホワイトバランス) ..	169
ピントの合わせ方を変える.....	(フォーカス方式) ..	169
セルフタイマーを使う.....	(セルフタイマー) ..	170
光の測りかたを変える.....	(測光方式) ..	170
フラッシュの明るさを変える.....	(フラッシュ光量) ..	170
鮮鋭さを変える.....	(シャープネス) ..	171
色の鮮やかさを変える.....	(彩度) ..	171
明暗の差を変える.....	(コントラスト) ..	171
ピント合わせを補助するライト.....	(AF補助光) ..	172
撮影直後の画像を表示する.....	(撮影レビュー) ..	172
画面上のアイコンの意味を確認する.....	(アイコンガイド) ..	173
撮影時の液晶モニター表示を変更する.....	(アシスト表示) ..	174
各種設定を記憶させる.....	(モードメモリー) ..	177

■ 静止画や動画を再生する

178

撮影した静止画を見る.....	178
撮影した動画を見る.....	178
撮影したパノラマ画像を見る.....	180

連写した静止画を見る	181
■ 連写画像の消去	182
■ 連写画像をグループ解除する	(連写グループ解除) 185
■ 連写画像をコピーする	(コピー) 187
画像を拡大して表示する	188
画像を一覧表示する	189
テレビで静止画や動画を見る	190
■ ハイビジョンテレビで高画質で見たいときは	192

II 再生時のその他の機能(PLAY MENU)

196

自動的にページ送りして楽しむ	(スライドショー) 196
■ 好みのBGMをパソコンからメモリーへコピーする	198
動画から静止画を作成する	(モーションプリント) 200
動画をカットする	(ムービーカット) 200
2つの動画をつなぎ合わせて1つの動画にする	(ムービー結合) 202
画像の明るさを最適化する	(ライティング) 203
画像の色味を変える	(ホワイトバランス) 204
画像の明るさを変える	(明るさ編集) 205
印刷する画像を選ぶ	(プリント設定) 205
ファイルを消去できないようにする	(プロテクト) 206
撮影画像の日時を修正する	(日時編集) 209
画像を回転させる	(回転表示) 209
画像サイズを小さくする	(リサイズ) 210
静止画の一部を切り抜く	(トリミング) 211

ファイルをコピーする	(コピー).. 212
連写画像をグループ解除する	(連写グループ解除).. 213
連写画像を1枚の静止画にまとめる	(連写マルチプリント).. 213
連写画像を編集する	(連写フレーム編集).. 214

■ プリント(印刷)する 215

静止画のプリント方法	215
カメラをPictBridge対応のプリンターにつないでプリントする	216
プリントする画像や枚数を指定しておく	(プリント設定(DPOF)).. 219

■ パソコンを利用する 225

パソコンを使ってできること	225
Windowsパソコンを利用する	226
■ 画像をパソコンに保存する／パソコンで見る	227
■ 動画を再生する	233
Macintoshを利用する	234
■ 画像をパソコンに保存する／パソコンで見る	235
■ 動画を再生する	238
無線LAN内蔵SDメモリーカードを使う	240
■ Eye-Fiカードを使って画像を転送する	(Eye-Fi).. 240
■ FlashAirカードに保存された画像を スマートフォンなどから再生する	(FlashAir).. 242
ファイルとフォルダーについて	244
メモリー内のデータについて	245

省電力状態にして、撮影可能枚数を増やす	(エコモード)	..248
液晶モニターの明るさを変える	(液晶設定)	..249
Eye-Fiカードによる通信を切る	(Eye-Fi)	..249
FlashAirカードの通信を設定する	(FlashAir)	..250
カメラの音を設定する	(操作音)	..250
画像保存用のフォルダーを作成する	(フォルダー作成)	..251
日付や時刻を写し込む	(タイムスタンプ)	..251
撮影時のカメラの向きに合わせて画像を表示する	(縦画像回転再生)	..252
画像の連番のカウント方法を切り替える	(ファイルNo.)	..252
電池の消耗を抑える	(スリープ)	..253
電池の消耗を抑える	(オートパワーオフ)	..253
【REC】 の動作を設定する	(REC)	..254
【PLAY】 の動作を設定する	(PLAY)	..254
画像の消去操作ができないようにする	(消去キー)	..255
海外旅行先での時刻を設定する	(ワールドタイム)	..255
カメラの日時を設定し直す	(日時設定)	..256
日付の表示の並びを変える	(表示スタイル)	..257
表示言語を切り替える	(Language)	..257
USBの通信方法を切り替える	(USB)	..258
画面の横縦比とビデオ出力の方式を変更する	(ビデオ出力)	..258
HDMI端子の出力方法を変える	(HDMI出力)	..259
メモリーをフォーマットする	(フォーマット)	..259

各種設定を購入直後の設定に戻す.....(リセット).. 260

■ 付録

261

使用上のご注意.....	261
電源について.....	268
■ 充電について.....	268
■ 電池に関するご注意.....	269
■ 海外で使うときは.....	270
メモリーカードについて.....	271
リセット操作でリセットされる内容.....	273
故障かな？と思ったら.....	277
■ 現象と対処方法.....	277
■ 画面に表示されるメッセージ.....	285
撮影可能枚数／撮影可能時間.....	289
主な仕様／別売品.....	294
索引.....	300
保証・アフターサービスについて.....	306
アフターサービス窓口について.....	308
デジタルカメラ引取修理サービスのご案内.....	309
保証規定.....	311

安全上のご注意



危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり財産が損害を受ける危険の恐れがある内容を示しています。

絵表示の例









⊘記号は「してはいけないこと」を意味しています(左の例は分解禁止)。



●記号は「しなければならないこと」を意味しています(左の例は電源プラグをコンセントから抜く)。

⚠ 危険

充電式電池について

- 電池の充電は指定以外の方法で充電しないでください。その他の充電条件で充電すると、電池を発熱・発火・破裂させる恐れがあります。 
- 電池を水や海水などにつけたり、濡らしたりしないでください。電池の破損や性能・寿命を低下させる原因となります。 
- 電池は、カシオデジタルカメラ専用です。指定機器以外の用途に使用すると、電池の破損や性能・寿命を低下させる原因となります。 
- 電池を使用する場合、次のことを必ずお守りください。電池を発熱・発火・破裂させる原因となります。
 - － 電池を火の側で使用したり、放置したりしないでください。 
 - － 火の中に投入したり、加熱しないでください。
 - － 誤った向きにして充電しないでください。
 - － 導電性異物(ネックレス・鉛筆の芯等)などと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
 - － 分解・改造をしたり針を刺したり、強い衝撃(ハンマーで叩く、踏みつけるなど)を与えたり、直接ハンダ付けしないでください。電池を電子レンジ・乾燥機・高圧容器などに入れたりしないでください。
 - － 外装シールをはがさないでください。
- 電池の使用・充電中・保管時に、漏液・異臭・発熱・変色・変形・外傷・その他異常と思われるときは、機器や充電器からただちに取り出し、火気から遠ざけてください。また、その電池は使用しないでください。 
- 電池を直射日光の強い所や炎天下の車内などの高温の場所で使用したり、放置しないでください。発熱・発火や性能・寿命を低下させる原因となることがあります。また、電池の膨れにより電池が取り出せなくなる恐れがあります。 

危険

- 液が目に入ったときは、障害を起こす恐れがあるので、きれいな水で洗いすぐに医師の治療を受けてください。



警告

煙、臭い、発熱などの異常について

- 煙が出ている、へんな臭いがする、発熱しているなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。
1. 電源を切る。
 2. USB-ACアダプター使用時は、電源プラグをコンセントから抜く。また、やけどに注意してカメラから電池を取り出す。
 3. 「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店に連絡する。



火中に投入しない

- 本機を火中に投入しないでください。破裂による火災・けがの原因となります。



移動しながら撮影しない

- 自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、モニターを見ないでください。転倒、交通事故の原因となります。









フラッシュなど光を発する機能について

- 可燃性ガスおよび爆発性ガスなどが大気中に存在する恐れがある場所では使用しないでください。引火・爆発の原因となります。
- 運転者に向けてフラッシュなど光を発する機能を使用しないでください。目がくらんで運転不可能になり、事故を起こす原因となります。



⚠ 警告

USB-ACアダプターについて

- USB-ACアダプターは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となります。次のことを必ずお守りください。
 - － 指定のUSB-AC アダプター以外は絶対に使用しない 
 - － 指定の機器以外には絶対に使用しない
 - － 電源は、AC100V(50/60Hz)以外のコンセントは使用しない
 - － 1つのコンセントにいくつもの電気製品をつなぐ、いわゆるタコ足配線をしない
 - － ストープなどの熱器具に近づけない
- USB-ACアダプターは使いかたを誤ると、傷ついたり破損して、火災、感電の原因となります。次のことを必ずお守りください。
 - － 重いものを乗せたり、加熱しない 
 - － 加工したり、傷つけたり、無理に曲げない
 - － ケーブルをねじったり、引っ張ったりしない
 - － ケーブルに足を引っ掛けず、ケーブルを蹴らない
- 濡れた手で電源プラグに触れないでください。
感電の原因となります。 
- 電源プラグは傷んだら、「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店に連絡してください。 
- USB-ACアダプターは液体※のかからない状態で使用してください。液体がかかると火災・感電の原因となります。 
 - ※ 液体：水やスポーツドリンク、海水、動物・ペットの尿など
- USB-ACアダプターの上に花瓶などの液体の入ったものを置かないでください。水がかかると火災や感電の原因となります。 

警告

● 雷が鳴ったら本機やUSB-ACアダプターに触れないでください。



● 外出時は、動物・ペットが本機に近づけないようにして、USB-ACアダプターはコンセントから抜いてください。
ペットがケーブルに噛みつくと、ショート(短絡)による火災の原因となります。



水、異物はさける

● 水、液体、異物(金属片など)が本機内部に入ると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。雨天、降雪中、海岸、水辺、風呂場での使用は特にご注意ください。



1. 電源を切る。
2. USB-ACアダプター使用時は、電源プラグをコンセントから抜く。また、カメラから電池を取り出す。
3. 「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店に連絡する。


分解・改造しない

● 本機を分解・改造しないでください。感電・やけど・けがをする原因となります。内部の点検・調整・修理は「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にご依頼ください。




警告


落とさない、ぶつけない

- 本機を落としたときなど、破損したまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。 
- 1. 電源を切る。
- 2. USB-ACアダプター使用時は、電源プラグをコンセントから抜く。また、カメラから電池を取り出す。
- 3. 「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店に連絡する。

メモリーカードについて



- メモリーカードは小さいため、乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。 

通電中のカメラについて






- 通電中のカメラに長時間直接接触しないでください。使用中に温度の高くなる部分があり、低温やけどの原因となることがあります。 

⚠ 注意

USB-ACアダプターについて

- USB-ACアダプターは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。
- － 布団、毛布等をかぶせての使用や、熱器具のそばで使用しない(放熱を妨げ、周辺温度が上昇します) 
- － USB-ACアダプター(特にプラグやジャック部分)、USBケーブル(特にプラグ部分)の清掃には、洗剤を使用しない
- － 電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む 
- － 旅行などの長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く
- － 電源プラグは年1回以上電源プラグの刃と刃の周辺部分にほりかたまらないように乾いた布や掃除機で清掃する

充電式電池について

- 充電時に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。 
- 電池を使用・充電する前に必ず、カメラ・専用充電器の取扱説明書をお読みください。 
- 電池は乳幼児の手の届かない所へ保管し、使用するときも、乳幼児が充電器や機器から電池を取り出さないよう注意してください。 
- ペットの近くに電池を置かないでください。電池に噛みついた場合、電池の液もれや発熱、破裂により、故障の原因となることがあります。 
- 電池からもれた液が皮膚や衣服に付着した場合、皮膚がかぶれる恐れがあるので、すぐにきれいな水で洗い流してください。 

⚠ 注意

コネクタ一部への接続

- コネクタ一部には、指定品以外は接続しないでください。火災・感電の原因となることがあります。



不安定な場所に置かない

- ぐらついた台の上や高い棚の上など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。



置き場所について

- 本機を次のような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
 - － 湿気やほこりの多い場所
 - － 調理台のそばなど油煙が当たるような場所
 - － 暖房器具の近く、ホットカーベットの、直射日光が当たる場所、炎天下の車中など本機が高温になる場所



表示画面について

- 液晶表示画面を強く押ししたり、強い衝撃を与えないでください。液晶表示画面のガラスが割れてけがの原因となることがあります。
- 液晶表示画面が割れた場合、表示画面内部の液体には絶対に触れないでください。皮膚の炎症の原因となることがあります。
- 万一、口に入った場合は、すぐにうがいをして医師に相談してください。
- 目に入ったり、皮膚に付着した場合は、清浄な流水で最低15分以上洗浄したあと、医師に相談してください。



⚠ 注意

大切なデータは控えをとる

- 本機に記憶させた内容は、パソコンなどに転送してバックアップとして保管してください。本機の故障、修理などにより、記憶内容が消えることがあります。



メモリー保護

- 電池交換を行う際は、取扱説明書をよくお読みになり、正しく行ってください。電池交換のしかたを誤ると、データが消えたり、変化したりすることがあります。



フラッシュなど光を発する機能について

- フラッシュなど光を発する機能を人(特に顔)に向けて至近距離で使用しないでください。視力の低下などの障害を起こす原因となることがあります。特に、乳幼児を撮影するときには、1m以上はなれてください。
- フラッシュ発光部を指、手袋、その他のもので触れないでください。やけど、発煙、変色、故障の原因となることがあります。
- フラッシュの発光部が汚れていたり、ゴミなどの異物がついた状態で、フラッシュを発光しないでください。発煙や変色の原因となることがあります。



持ち運びのとき

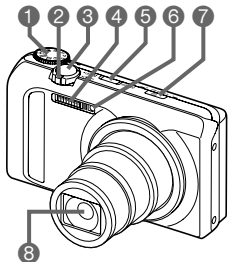
- 航空機内や病院内では、航空会社や病院の指示に従ってください。本機からの電磁波などが、計器類に影響を与えるおそれがあります。




各部の名称

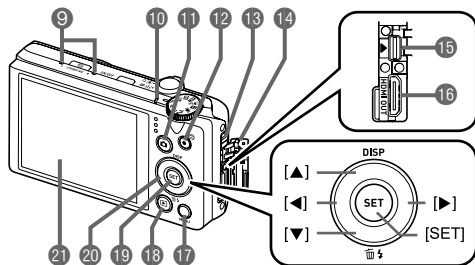
各部の説明が記載されている主なページを()内に示します。

前面



- ① モードダイヤル
(53、65、103ページ)
- ② ズームレバー
(54、87、188ページ)
- ③ シャッター
(49、53ページ)
- ④ フラッシュ(82ページ)
- ⑤ 【ON/OFF】(電源)
(43、49ページ)
- ⑥ 前面ランプ
(70、172ページ)
- ⑦ 【】(連続撮影切替)
ボタン(93ページ)
- ⑧ レンズ

後面



⑨ マイク (106ページ)

⑩ 後面ランプ (37、40、49、
55、83ページ)

⑪ **【📷】** (撮影) ボタン
(49ページ)

⑫ **【●】** (ムービー) ボタン
(103ページ)

⑬ ストラップ取り付け部
(2ページ)

⑭ 端子カバー

⑮ **【USB/AV】** 端子
(36、38ページ)

⑯ **【HDMI OUT】**
HDMI output (ミニ) 端子
(143、192ページ)

⑰ **【MENU】** ボタン
(103、145ページ)

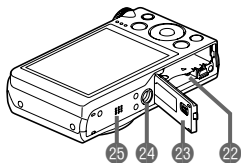
⑱ **【▶】** (再生) ボタン
(49、59ページ)

⑲ **【SET】** ボタン
(68、103、145ページ)

⑳ コントロールボタン
(**【▲】****【▼】****【◀】****【▶】**)
(68、103、122、
145ページ)

㉑ 液晶モニター
(25、53ページ)

底面



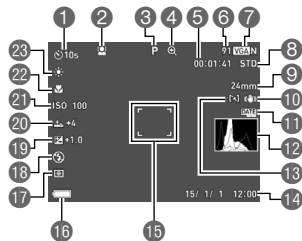
- 22 電池／メモリーカード挿入部 (34、45ページ)
- 23 電池カバー
- 24 三脚穴
三脚に取り付けるときに使用します。
- 25 スピーカー

液晶モニター の表示内容 と切り替えかた

液晶モニターには、さまざまな情報がアイコンや数字などで表示されます。

- 下の画面は、情報が表示される位置を示すためのものです。液晶モニターが実際にこの画面のようになることはありません。

■ 静止画撮影時(1枚撮影時)



- 1 セルフタイマー (69ページ)
- 2 顔検出 (166ページ)
- 3 撮影モード (52ページ)
- 4 画像劣化表示/超解像ズーム (89ページ)
- 5 動画撮影可能時間 (104ページ)
- 6 静止画撮影可能枚数 (289ページ)

- 7 静止画の画像サイズ/画質 (152、156ページ)
- 8 動画画質 (FHD/STD動画) (103、108ページ) / 撮影速度 (ハイスピード動画) (109ページ)
- 9 焦点距離 (35mmフィルム換算) (88ページ)
- 10 手ブレ補正 (163ページ)
- 11 タイムスタンプ (251ページ)
- 12 ヒストグラム (174ページ)
- 13 AFエリア (161ページ)
- 14 日付/時刻 (43、256ページ)
- 15 フォーカスフレーム (55、162ページ)
- 16 電池残量表示 (42ページ)
- 17 測光方式 (85ページ)
- 18 フラッシュ (82ページ)
- 19 露出補正 (80ページ)

20 メイクアップレベル(79ページ)

21 ISO感度(78ページ)

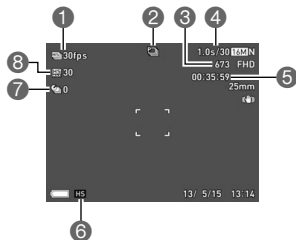
22 フォーカス方式(74ページ)

23 ホワイトバランス(71ページ)

参考

- 撮影時の設定によっては、絞り値、シャッター速度、ISO感度が表示されない場合があります。AE(自動露出)が適正でないときは赤色に表示されます。

■ 静止画撮影時(連写時)



① 連写撮影速度(93ページ)

② 撮影モード(52ページ)

③ 静止画撮影可能枚数(289ページ)

④ 連続撮影可能時間/連続撮影可能枚数
(93ページ)

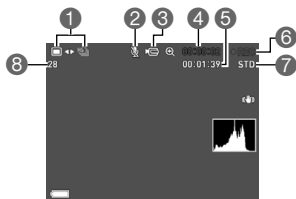
⑤ 動画撮影可能時間(290ページ)

⑥ 連写モード(93ページ)

⑦ パスト連写枚数(95ページ)

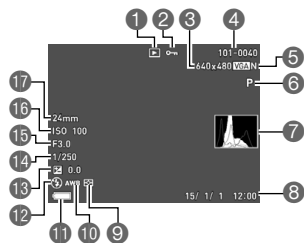
⑧ 最大連写枚数(93ページ)

■ 動画撮影時



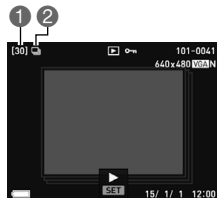
- ① 静止画撮影モード(スチルインムービー)
(121ページ)
- ② 録音オフ(109ページ)
- ③ 動画アイコン(104ページ)
- ④ 動画の撮影時間(104ページ)
- ⑤ 動画の残り撮影時間(104ページ)
- ⑥ 動画撮影中(104ページ)
- ⑦ 動画画質(FHD/STD動画)(103、108ページ) /
撮影速度(ハイスピード動画)(109ページ)
- ⑧ 静止画撮影可能枚数(289ページ)

■ 静止画再生時



- 1 ファイル形態
- 2 プロテクト表示(206ページ)
- 3 静止画の画像サイズ(152ページ)
- 4 フォルダ名/ファイル名(244ページ)
- 5 静止画の画質(156ページ)
- 6 撮影モード(52ページ)
- 7 ヒストグラム(174ページ)
- 8 日付/時刻(256ページ)
- 9 測光方式(85ページ)
- 10 ホワイトバランス(204ページ)
- 11 電池残量表示(42ページ)
- 12 フラッシュ(82ページ)
- 13 露出補正(80ページ)
- 14 シャッター速度
- 15 絞り値
- 16 ISO感度(78ページ)
- 17 焦点距離(35mmフィルム換算)

■ 連写画像再生時



- ① グループ内の画像総数(181ページ)
- ② 連写グループアイコン(181ページ)

■ 動画再生時



- ① 音声なし
- ② 動画の撮影時間(178ページ)
- ③ 動画の撮影モード／画質／スピード
(103、108、109ページ)
- ④ YouTube(118ページ)

■ 液晶モニターの表示内容を切り替える

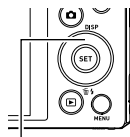
【▲】(DISP)を押すごとに、画面に表示される情報表示の有無が選べます。撮影モード、再生モードでそれぞれ設定できます。

撮影モード

情報表示あり	設定内容などの情報を表示します。
情報表示なし	設定内容などの情報を表示しません。

再生モード

情報表示あり	撮影時の設定内容や日付、時刻などの情報に加え、ヒストグラム(174ページ)が画面の右側に表示されます。
情報表示なし	撮影時の情報が表示されません。



【▲】(DISP)

はじめにご覧ください(基本的な操作)

このカメラでできること

このカメラに搭載されているさまざまな機能から、代表的な機能を紹介します。



タイムラプス

自然の移り変わりや街の流れをまるで早送りしているかのように見える動画を作成できます。

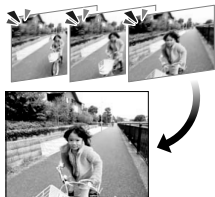
→115ページ



アートショット

見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に上げることができます。本機には次の効果が搭載されています。HDRアート、トイカメラ、ソフトフォーカス、ライトトーン、ポップ、セピア、モノクロ、ミニチュア、フィッシュアイ、トゥインクルショット

→98ページ



トリプルショット

シャッターを全押しした時点の画像と、その前後の画像の合計3枚が一度に撮影できます。子どものちょっとしたしぐさなどを逃さず撮影できます。

→ 101ページ



背景ぼかし

連写で撮影した複数の画像を解析して、主な被写体の背景をぼかし、一眼レフカメラで撮影したように被写体が浮き上がって見える写真を撮影することができます。

→ 130ページ



全焦点マクロ

連写で撮影した複数の画像を解析して、近景から遠景まですべての領域にピントが合った写真を撮影できます。

→ 132ページ



プレミアムオート PRO

被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、一般的なオート撮影よりも高画質で撮影することができます。

→ 52ページ



ハイスピード動画

最高1秒間に1000コマ(1000fps)の動画が撮影できます。通常目では見えない瞬間をスロー再生で見ることができます。

→ 109ページ



FHD動画撮影

高画質のFHD動画(1920×1080 pixels、30fps)が撮影できます。

→ 108ページ

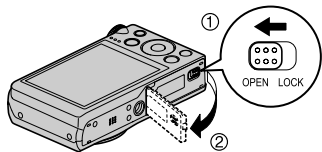
箱を開いたら、電池を充電する

お買い上げ直後は、電池はフル充電されていません。次の手順でカメラに電池を入れた後に充電してください。

- 本機は、当社の専用リチウムイオン充電電池(NP-130AまたはNP-130)を電源として使用します(NP-130AまたはNP-130以外の電池は使用できません)。

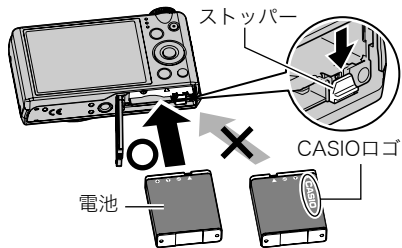
電池を入れる

1. 電池カバーを開ける

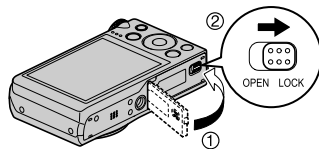


2. 電池を入れる

電池のCASIOのロゴのある面を下(レンズ側)にして、電池の側面でストッパーを矢印の方向にずらしながら電池を入れます。ストッパーが電池にかかるまでしっかり押し込んでください。



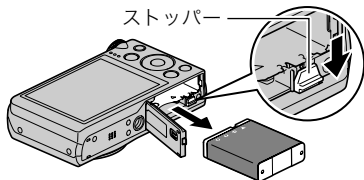
3. 電池カバーを閉める



電池を交換する

1. 電池カバーを開き、電池を取り出す

2. 新しい電池を入れる



充電する

本製品は、以下の3つの方法で充電できます。

- ① USB-ACアダプター (AD-C54UJ) で充電する
 - ・ 別売品のUSB-ACアダプター「AD-C53U」も使用できます。
- ② パソコンのUSB端子から充電する (付属のUSBケーブルを使用)
- ③ 専用充電器 (BC-130L (別売品)) で充電する

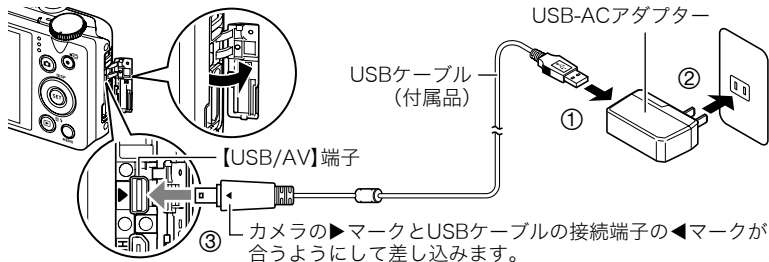
■ USB-ACアダプターで充電する

電池をカメラに装着したまま充電します。

カメラの電源が切れた状態で、①、②、③の順に接続します。

後面ランプが赤色に点灯し、充電を開始します。充電が完了すると、後面ランプが消灯します。

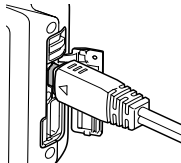
充電時間：約4時間



カメラからアダプターを外す場合は、必ずカメラ側(上の図の③)から先に外してください。

重要

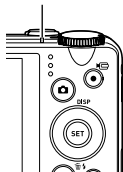
- ・ 長期間電池を使わなかった場合や周囲の温度によっては、充電時間がさらに延びる場合もあります。また、充電時間が約6時間を越えるとタイマーが動き、フル充電でない場合でも充電を停止し、後面ランプが赤く点滅することがあります。他にも、電池の未使用期間が更に長期化した場合は約45分で充電を停止し、後面ランプが赤く点滅することがあります。その場合は、一度USBケーブルをカメラから抜いて、もう一度差し込んで充電しなおしてください。
- ・ USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。
- ・ 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。
- ・ 充電中、USB-ACアダプターは若干熱を持ちますが、故障ではありません。



後面ランプの動作

動作	内容
赤点灯	充電中
赤点滅	周辺温度の異常 / USB-ACアダプターの異常 / 電池の異常(268ページ) / タイマーによる充電終了
消灯	充電完了

後面ランプ

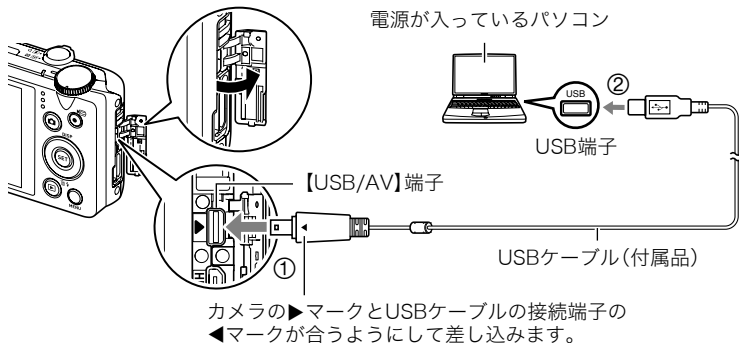


■ パソコンのUSB端子から充電する

電池をカメラに装着したまま充電します。

カメラの電源が切れた状態で、①と②の接続をします。

後面ランプが赤色に点灯します。しばらくすると、カメラの電源が自動的に入り、後面ランプがオレンジ色に点灯して充電を開始します。充電が完了すると、後面ランプが緑色に点灯します。ただし、パソコンの種類や接続環境により給電能力が低い場合は、カメラの電源が切れた状態のまま充電のみを開始し、後面ランプが赤色に点灯します。この状態のまま充電が完了すると、後面ランプが消灯します。



- パソコンに接続する前にカメラの電源が入っているときは、【ON/OFF】(電源)を押して電源を切ってください。

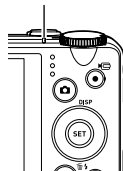
重要

- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。
- 長期間電池を使わなかった場合や、パソコンの種類や接続環境によっては充電時間が約6時間を越えるとタイマーが働き、フル充電でない場合でも充電を停止します。フル充電できなかった場合はUSBケーブルを抜き差しし、再度充電してください。より早く充電を完了するためには、付属のUSB-ACアダプターで充電されることをおすすめします。また、電池の未使用期間が更に長期化した場合は約45分で充電を停止し、後面ランプが赤く点滅または消灯することがあります。その場合は、付属のUSB-ACアダプターで充電してください。
- パソコンが休止状態のときは充電できません。
- 充電を開始してからすぐに、またはしばらく経ってから、充電エラーが起こる場合があります。充電エラーが起こると、後面ランプが赤色に点滅します。
- パソコンの種類や接続環境により給電能力が低い場合は、カメラの電源が切れた状態のまま充電のみを開始しますが、カメラの電源を入れると充電が停止し、パソコンとのUSB通信状態に移行します。このとき、後面ランプが緑色に点灯します。

後面ランプの動作

動作	内容
オレンジ点灯	充電中
赤点灯	充電中(このときパソコンとのデータ転送はできません。)
赤点滅/消灯	周辺温度の異常/電池の異常(268ページ)/ タイマーによる充電終了
緑点灯	充電完了/充電停止

後面ランプ



参考

- パソコンのUSB端子からの充電中にカメラの電源を切っても、充電は続きます。ただし、後面ランプの動作は37ページの「後面ランプの動作」と同じ動作に変わります。

■ 専用充電器(BC-130L(別売品))で充電する

充電電池(NP-130AまたはNP-130)を直接充電できます。充電方法については、BC-130Lに付属の取扱説明書を参照ください。





約4時間でフル充電されます。

その他充電についてのご注意


- 充電電池(NP-130AまたはNP-130)は本書指定の方法で充電してください。
- 本機はUSB2.0準拠のUSB端子からのみ充電できます。
- USB充電に対応する機器や電源機器には、一定の規格があります。粗悪なもの、規格から外れるもののご使用は、機器の誤動作、故障の原因になることがあります。
- 自作のパソコンや改造したパソコンでの動作は保証できません。市販のパソコンでもUSBポートの仕様によっては、USBケーブルを接続しても充電されないことがあります。
- 使用直後の熱くなった電池は、十分に充電されない場合があります。電池が冷えるのを待ってから充電してください。
- 電池は使用しない場合でも、自己放電します。必ず充電してからご使用ください。
- 充電中、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。その場合、テレビやラジオからできるだけ離れたコンセントをご使用ください。
- 充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって若干変化します。
- USB-ACアダプター(AD-C54UJ)は本機以外には使用しないでください。
- 充電は、本書で指定したUSB-ACアダプター、USBケーブルをご使用ください。指定以外のもので充電した場合は、正しく充電できないことがあります。

電池の残量を確認するには

電池が消耗すると、液晶モニターに表示される電池残量表示が下記のように変化します。


電池の残量	多い	←	→	少ない			
電池残量表示		→		→		→	
残量表示の色	白色	→	白色	→	赤色	→	赤色

“”は電池残量が少ないことを表しています。早めに充電してください。

“”の状態では撮影できません。すぐに充電してください。

- 撮影モードと再生モードを切り替えた場合、電池残量表示の状態が変わることがあります。
- 電池が入っていない、または消耗している状態でカメラを約30日放置すると、日時の設定がリセットされます。新たに電源を入れたとき、日付の設定をお知らせする画面が表示されますので、日付を設定してください(256ページ)。
- 電池寿命と撮影枚数に関しては296ページをご覧ください。

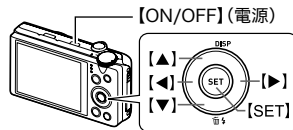
電池を長持ちさせるために

- エコモードに設定することで、省電力状態になります(248ページ)。
- フラッシュを使用しなくてよいときは、フラッシュの発光方法を“” (発光禁止)にする(82ページ)。
- オートパワーオフ機能やスリープ機能を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな消費電力をおさえることができます(253、253ページ)。
- “コンティニューアスAF”を“切”にする(165ページ)。

最初に電源を入れたら時計を合わせる

お買い上げ後、最初に電源を入れたときは時計を設定する画面が表示されます。時計を設定しないと、撮影した画像に正しい日時が記録されません。

1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を入れる



2. 日付と時刻を合わせる

【◀】【▶】で年、月、日、時、分を選び、【▲】【▼】で数字を合わせます。

12時間/24時間表示を切り替えるには、“24h”を選び、【▲】【▼】で切り替えます。



3. 日付/時刻合わせが終了したら、【◀】【▶】を押して“決定”を選び、【SET】を押す

日付/時刻を間違っ設定した場合、上記の手順では直せません。256ページをご覧ください。設定し直してください。

参考

- 時計を設定しても、すぐに電池を抜くと、設定した時刻がリセットされる場合があります。時計を設定後、24時間以上は電池を入れたままにしておいてください。

メモリーカードを準備する

撮影する画像を保存するため、市販のメモリーカードをご用意ください(本機にメモリーカードは付属していません)。本機はメモリーを内蔵しており、この内蔵メモリーだけでも数枚程度の静止画や短い動画の撮影はできます。メモリーカードを入れているときはメモリーカードに、入れていないときは内蔵メモリーに記録されます。

- 保存できる映像の数量については289ページをご覧ください。

使用できるメモリーカード

- SDメモリーカード
- SDHCメモリーカード
- SDXCメモリーカード



- 使用できるメモリーカードの種類は2013年11月現在のものです。
- SD規格に準拠したメモリーカードに対応しており、規格上の容量は、SDメモリーカードが2GB以下、SDHCメモリーカードが2GB超～32GB以下、SDXCメモリーカードが32GB超～2TB以下となります。上記のメモリーカードであっても容量をはじめ、すべてのカードで動作を保証するものではありません。
- 本機では、Eye-FiカードおよびFlashAirカードを使用することができます。

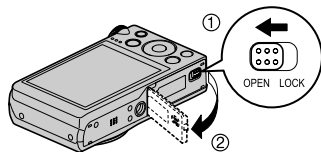
当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。具体的なメーカー名や対応容量などの詳細は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトの「デジタルカメラお客様サポートメニュー」(<http://casio.jp/support/dc/>)をご覧ください。また、「お客様相談窓口」(308ページ)にお問い合わせください。

■ メモリーカードのご使用上の注意

カードの種類によって処理速度が遅くなる場合があります。特に高品質の動画は正常に記録できない場合があります。また、使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。コマ落ちしている場合は、画面に表示されている“REC”が黄色になります。

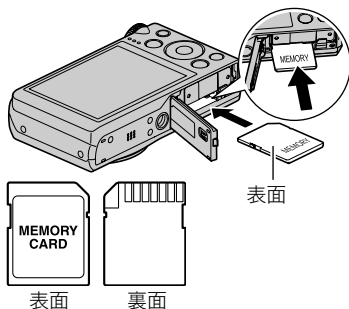
メモリーカードを入れる

1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を切り、電池カバーを開ける

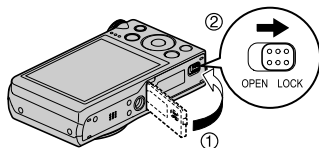


2. メモリーカードを入れる

メモリーカードの表面を上(液晶モニター側)にして、メモリーカード挿入口にカチッと音がするまで押し込みます。



3. 電池カバーを閉める



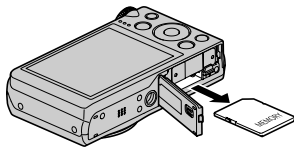
重要

- メモリーカード挿入口には指定のメモリーカード(44ページ)以外のものは入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池を抜いて、「修理に関するお問い合わせ窓口」(308ページ)またはお買い上げの販売店にご連絡ください。

メモリーカードを交換する

メモリーカードを押すとカードが少し出てきますので、引き抜いて別のメモリーカードを入れます。

- 後面ランプが緑色に点滅している間にメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像が記録されなかったり、メモリーカードを破壊する恐れがあります。



新しいメモリーカードをフォーマット(初期化)する

本機で初めて使用するメモリーカードはカメラでフォーマットしてください。

重要

- すでに静止画などが保存されているメモリーカードをフォーマットすると、その内容がすべて消去されます。フォーマットは普段行う必要はありませんが、画像の記録速度が遅くなったなどの異常が見られる場合にフォーマットしてください。
- メモリーカードをフォーマットするときは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットするとSD規格非準拠となり、処理速度が著しく遅くなるなど、互換性や性能等で問題が生じる場合があります。
- 新しいEye-Fiカードを初めて使用するときは、カードをフォーマットする前にカード内に書き込まれているEye-Fiのインストールファイルをパソコン上にコピーしてからフォーマットしてください。

- FlashAirカードをカメラでフォーマットすると、メモリーカード内の通信関連のファイルが消去されてしまいます。フォーマットについては、FlashAirカードに付属の取扱説明書をご覧ください。

1. 電源を入れて【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“⚙️ SETTING”タブを選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押す

5. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

電源を入れる／切る

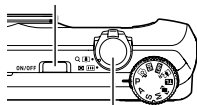
■ 電源を入れる

【ON/OFF】(電源)を押すと、撮影モードになり、撮影できる状態になります。

この状態で、【▶】(再生)を押すと再生モードになり、撮影した静止画や動画を見ることができます。(59、178ページ)

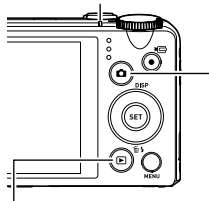
- 【▶】(再生)を押して電源を入れることもできます。
- 再生モード中に【📷】(撮影)やシャッターを押すと、撮影できる状態に戻ります。
- レンズを押さえたりぶつかけたりしないようにしてください。レンズを手で押さえ込んでレンズの動きを妨げると、故障の原因になります。
- 【▶】(再生)を押して再生モードに切り替えると、約10秒後にレンズが収納されます。
- スリープ機能(253ページ)、オートパワーオフ機能(253ページ)により、一定時間操作しないと、自動的に液晶モニターが消灯したり電源が切れたりします。

【ON/OFF】(電源)



シャッター

後面ランプ





【▶】(再生)

【📷】(撮影)

■ 電源を切る

【ON/OFF】(電源)を押します。

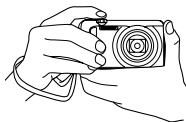
参考

- 【】(撮影)を押して、電源を入れたり切ったりすることもできます(254ページ)。
- 【】(再生)を押して、電源が切れるように設定することもできます(254ページ)。

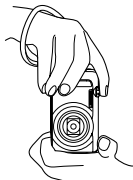
カメラの正しい構えかた

シャッターを押すときにカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。図のように持ち、脇をしっかり締めて正しく構えてください。シャッターを静かに押し、シャッターを押し切った瞬間とその直後はカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときはシャッター速度が遅くなるので、注意してください。

横に持つとき



縦に持つとき



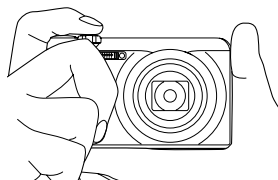
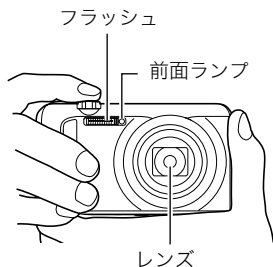
レンズよりフラッシュが上にくるように持ちます。

参考

- 指やストラップが図に示す部分をふさがないようにしてください。
- 誤ってカメラを落とすことのないように、必ずストラップを取り付け、ストラップに指や手首をかけて操作してください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途には使用しないでください。
- “縦画像回転再生”の設定が“入”のときは、縦に持って撮影した画像は再生時に自動的に90度回転して表示されます(252ページ)。

重要



- フラッシュに指がかかったり、近づきすぎないでください。フラッシュ撮影時、影が写り込んだりする原因になります。



静止画を撮影する

オート撮影モードを設定する

本機には2つのオート撮影モードがあり、目的に応じて切り替えることができます。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
P プログラムオート		一般的なオート撮影モードです。
📷 プレミアムオート PRO		被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、プログラムオートよりも高画質で撮影します。 <ul style="list-style-type: none">• 撮影に関する設定の変更は制限されます。• プログラムオートよりも、電池寿命はやや短くなります。

1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を入れる

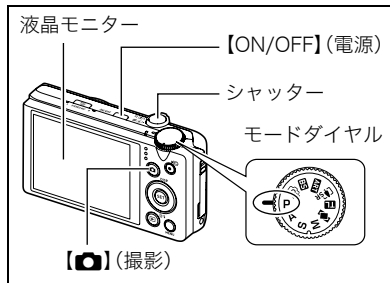
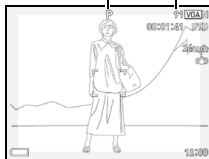
撮影モードになり、カメラが撮影できる状態になります。

- 再生モードになっているときは、**【📷】**(撮影)またはシャッターを押してください。

2. モードダイヤルを【P】(プログラムオート)または【】(プレミアムオート PRO)に合わせて、オート撮影モードを設定する

オート撮影モードアイコン

撮影可能枚数(289ページ)

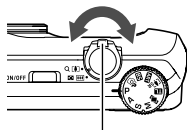


撮影する

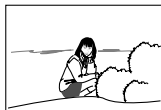
1. カメラを被写体に向ける

プレミアムオート PROで撮影しようとする、カメラが検出した撮影環境が画面の下に表示されます。

- ズームの倍率を変更できます。



ズームレバー



📐 広角



🔍 望遠



カメラが三脚に乗って静止していることを検出すると表示されます

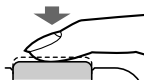


連写撮影が必要と判断された場合に「HS」が表示されます。手ブレや被写体ブレに気をつけて、撮影が完了するまでカメラを動かさないでください。

2. シャッターを半押ししてピントを合わせる

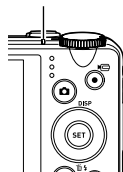
ピントが合うと“ピピッ”と音がして、後面ランプとフォーカスフレームが緑になります。

半押し 軽く押して止まる
ところまで

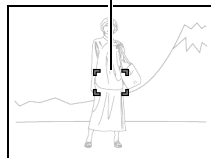


ピピッ(ピントが合います)

後面ランプ



フォーカスフレーム

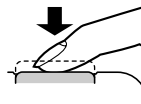


シャッターを半押しすると、カメラを向けている被写体に対して自動的に露出やピントを合わせます。どのくらいの力で押し込むと半押しになるかを覚えるのが、きれいな静止画を撮影するコツです。

3. カメラを固定したままシャッターを最後まで押し込む

静止画が撮影されます。

全押し 最後まで



カシャッ(撮影されます)

動画を撮影するには

【●】(ムービー)を押すと動画の撮影が開始されます。もう一度

【●】(ムービー)を押すと終了します。

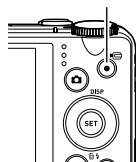
詳しくは下記をご覧ください。

標準的な動画(STD動画) → 103ページ

高精細な動画(FHD動画) → 108ページ

ハイスピード動画(HS動画) → 109ページ

【●】(ムービー)



■ ピントが合っていないとき


フォーカスフレームが赤のまま、後面ランプが緑に点滅しているときは、ピントが合いません(被写体との距離が近すぎるときなど)。カメラを被写体に向け直して、ピントを合わせてみてください。

■ オートで撮影するとき

被写体が中央にない場合は

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したい場合は、フォーカスロック(77ページ)を使います。

動く被写体を追いかけてピントを合わせるには

シャッターを半押しすることで、動く被写体を追いかけてピントを合わせることができます(“追尾”(161ページ))。

■ プレミアムオート PROで撮影するとき

- プレミアムオートPROでは使用できないメニューがあります(146ページ)。設定できる機能のみがメニュー画面に表示されます。
- シャッター速度、絞り値、ISO感度などに加えて、カメラが次の機能なども自動的に作動させて撮影します。
 - コンティニュアスAF(165ページ)
 - インテリジェントAF(161ページ)
 - 顔検出(166ページ)
 - HSシーン撮影(58ページ)
- プレミアムオート PROで撮影中はレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。
- プレミアムオート PROで撮影すると、“プレミアムオート高画質化の処理中です”と表示される場合があります。画像処理時間が気になる場合は、プログラムオートに切り替えて撮影することをおすすめします。
- プレミアムオート PROでは、撮影環境の検出が適切にできない場合があります。その場合は、プログラムオートに切り替えて撮影してください。
- “HS”が表示されたときは連写撮影によって1枚の画像が撮影されます。手ブレや被写体ブレに気をつけて、撮影が完了するまでカメラを動かさないでください。連写撮影をやめたい場合は、操作パネル(68ページ)の“HSシーン撮影”を“切”に設定してください。
- フラッシュ(82ページ)の設定状態によっては、プレミアムオート PROで検出できる撮影環境が限定されます。

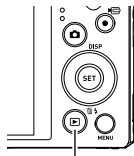
撮影した静止画を見る

撮影した静止画を液晶モニターで見ることができます。

- 動画の再生方法については178ページをご覧ください。
- 連写で撮影した画像については181ページをご覧ください。

1. 電源を入れ、**[▶]**(再生)を押して、再生モードにする

- 記録されている静止画の1つが液晶モニターに表示されます。
- 表示されている静止画についての情報も表示されます(28ページ)。
- 情報表示を消して、静止画だけを見ることもできます(30ページ)。
- ズームレバーを**[Z]**側にスライドさせると画像を拡大して表示します(188ページ)。大切な写真を撮影したときは、撮影した画像を拡大表示して画像を確認することをおすすめします。



[▶](再生)



2. 【◀】【▶】で前後の静止画に切り替える

- 押し続けると、早送りができます。





参考

- 再生モード時やメニュー画面を表示している最中にシャッターを半押しすると、すぐに撮影モードに切り替わります。



撮影した静止画や動画を消去する

メモリーがいっぱいになっても、撮影した静止画や動画を消去することによりメモリーの残り容量を確保して、また新しい写真撮影ができるようになります。

重要

- 消去したファイルは元に戻せません。
- 連写で撮影した画像については182ページをご覧ください。
- “ SETTING”のメニュー内にある“消去キー”(255ページ)を“無効”に設定すると、【▼】() (消去)を押しても、消去メニューは表示されません。画像を消去したいときは、“消去キー”を“有効”にしてください。

■ 1ファイルずつ消去する

1. **[▶]**(再生)を押して再生モードにしたあと、**[▼]**( )を押す





2. **[◀]****[▶]**で消去したいファイルを表示させる

3. **[▲]****[▼]**で“消去”を選び、**[SET]**を押す

- 続けて別のファイルを消去する場合は手順2~3を繰り返します。
- 消去をやめるには、**[MENU]**を押してください。
- 連写グループ(181ページ)を表示しているときは、表示中の連写グループ内にある全画像が消去されます。


■ 選択したファイルを消去する

1. **[▶]**(再生)を押して再生モードにしたあと、**[▼]**( )を押す

2. **[▲]****[▼]**で“選択ファイル消去”を選び、**[SET]**を押す

- 消去ファイル選択用の一覧画面が表示されます。

3. **[▲]****[▼]****[◀]****[▶]**で消去したいファイルに青枠を移動し、**[SET]**を押す

- 選択したファイル左下の□にチェックが入り、青枠が次の画像に移動します。
- ズームレバーを**[Q]**()側にスライドさせると画像を拡大して表示します。

4. 手順3を繰り返して、消去したいファイルをすべて選択したら、**[MENU]**を押す

5. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

- 選択したファイルが消去されます。
- 消去をやめるには、手順5で“いいえ”を選び、【SET】を押してください。

■ すべてのファイルを消去する

1. 【▶】(再生)を押して再生モードにしたあと、【▼】(🗑️)を押す

2. 【▲】【▼】で“全ファイル消去”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

すべてのファイルが消去され、“ファイルがありません”と表示されます。

静止画撮影時のご注意

操作について

- 後面ランプが緑に点滅しているときに電池カバーを開けないでください。撮影した画像が正しく保存されない、記録されている画像が壊れてしまう、カメラが正常に動作しなくなる、などの原因になります。
- 不要な光がレンズに当たるときは、手でレンズを覆って撮影してください。

撮影時の画面について

- 被写体の明るさにより、液晶モニターの表示の反応が遅くなったり、ノイズが出ることがあります。
- 液晶モニターに表示される被写体の画像は、確認のための画像です。実際は、設定した画質(156ページ)で撮影されます。

蛍光灯の部屋での撮影について

- 蛍光灯のごく微妙なちらつきにより、撮影画像の明るさや色合いが変わることがあります。

その他のご注意

- CMOS撮像素子の特性上、シャッター速度が遅くなるほど、撮影した画像にノイズが目立って発生するようになります。そのため、本機ではシャッター速度が遅くなると自動的にノイズ低減処理を行います。このノイズ低減処理により、撮影が終了するまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。ノイズ低減処理が行われるシャッター速度は、設定や環境によって異なります。
- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間が長くなります。その間はキー操作を行わないでください。
- CMOS撮像素子の原理上、撮影モードによっては、動きの速い被写体が歪むことがあります。

■ オートフォーカスの制限事項

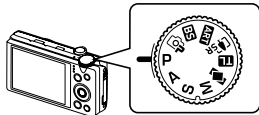
- 次のような被写体に対しては、ピントが正確に合わないことがあります。
 - 階調のない壁など、コントラストが少ない被写体
 - 強い逆光のもとにある被写体
 - 明るく光っている被写体
 - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
 - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
 - 暗い場所にある被写体
 - AF補助光が届かないほど遠くにある被写体
 - 手ブレをしているとき
 - 動きの速い被写体
 - 撮影範囲外の被写体
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック(77ページ)やマニュアルフォーカス(76ページ)で撮影してみてください。

静止画を撮影する(応用)

撮影モードを設定する

本機にはさまざまな撮影モードがあります。撮影する前に、モードダイヤルを回して被写体に合った撮影モードに設定してください。

モードダイヤル



P プログラムオート

一般的なオート撮影モードです(52ページ)。

📷 プレミアムオート PRO

被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、プログラムオートよりも高画質で撮影します(52ページ)。

BS ベストショット

あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、選んだシーンに合わせてカメラの設定が切り替わります(122ページ)。

ART アートショット

見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に上げることができます(98ページ)。

SR プレミアムズーム

マルチ超解像技術の応用と連写した複数枚の画像を用いることにより、ズーム領域を拡大し、画像全体の解像感をさらに高めた画像を撮影することができます(プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム))(92ページ)。

TL タイムラプス

自然の移り変わりや街の流れをまるで早送りしているかのように見える動画を作成できます(115ページ)。

トリプルショット

動きが速い子どもなどの場合でも、決定的な瞬間を逃さず撮影できます(101ページ)。

M M(マニュアル露出)モード

絞り値、シャッター速度を自由に設定して撮影することができます。

- ①【SET】を押して操作パネルを開く
- ②【▲】【▼】で操作パネルの“A”(絞り)を選ぶ
- ③【◀】【▶】で希望の絞り値に設定する
- ④【▲】【▼】で操作パネルの“S”(シャッター速度)を選ぶ
- ⑤【◀】【▶】で希望のシャッター速度に設定し、【SET】を押す

S S(シャッター速度優先)モード

任意のシャッター速度に固定して撮影することができます。

- ① **[SET]** を押して操作パネルを開く
- ② **[▲][▼]** で操作パネルの “**S**” (シャッタースピード) を選ぶ
- ③ **[◀][▶]** で希望のシャッター速度に設定し、**[SET]** を押す
 - ・ シャッター速度の下の段に表示されているEVシフトを選び、露出値(EV値)を設定することもできます。

A A(絞り優先)モード

任意の絞りに固定して撮影することができます。

- ① **[SET]** を押して操作パネルを開く
- ② **[▲][▼]** で操作パネルの “**A**” (絞り) を選ぶ
- ③ **[◀][▶]** で希望の絞り値に設定し、**[SET]** を押す
 - ・ 絞り値の下の段に表示されているEVシフトを選び、露出値(EV値)を設定することもできます。

重要

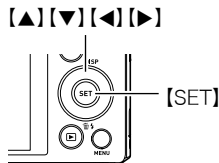
- ・ Sモードでは、“ISO感度”(78ページ)は常に“Auto”で動作し、設定をすることはできません。
- ・ 撮影モードがA、S、Mモードのフラッシュの設定では、“**4A**”(フラッシュオート)と“**☹**”(赤目軽減)に設定できません。フラッシュを発光させるときは、フラッシュの設定を“**!**”(強制発光)にしてください。
- ・ 露出オーバー、露出アンダー時は、シャッターの半押し時にISO感度とシャッター速度と絞り値が赤色に表示されます。

操作パネルを使う

本機では、操作パネルを使って、撮影に関する設定を変更することができます。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

- ・【▼】を押して操作パネルを表示させることもできます。

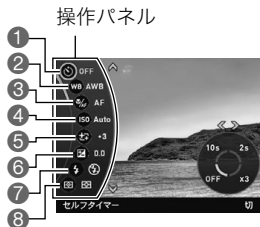


2. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【◀】【▶】で設定したい内容を選ぶ

操作パネルのアイコン部分の設定が可能になります。*

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| ① セルフタイマー
(69ページ) | ④ ISO感度(78ページ) |
| ② ホワイトバランス
(71ページ) | ⑤ メイクアップレベル
(79ページ) |
| ③ フォーカス方式
(74ページ) | ⑥ EVシフト(80ページ) |
| | ⑦ フラッシュ(82ページ) |
| | ⑧ 測光方式(85ページ) |

※撮影モードによって、項目が変わります。



3. 【SET】を押して決定する

選んだ内容に決定され、撮影モードの画面に戻ります。

参考

- 前記以外に、撮影に関してさまざまな内容の設定を変更することができます(145ページ)。




セルフタイマーを使う(セルフタイマー)

シャッターを押してから一定の時間後にシャッターが切れる(撮影される)ようにすることができます。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

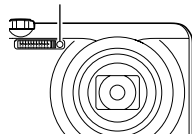
2. 【▲】【▼】で操作パネルの“” (セルフタイマー)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
10s 10秒		10秒後に撮影されます。
2s 2秒		2秒後に撮影されます。シャッター速度が遅くなる条件下で撮影するときに使うと、手ブレ防止ができます。
x3x3 (トリプル セルフタイマー)		10秒後に1枚、その後撮影準備完了ごとに2枚の合計3枚撮影されます。撮影準備ができるまでの時間は、画像サイズ、画質の設定やメモリーカードの有無、フラッシュの充電状態によって異なります。
OFF 切	なし	セルフタイマー撮影は行いません。

- 設定した時間をカウントしている最中は前面ランプが点滅します。
- カウントダウン中に【SET】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。

前面ランプ



参考







- セルフタイマーが使用できない撮影機能
高速連写でパスト連写を行っているとき、パストムービー、スライドパノラマ、ワイドショット、トリプルショット
- トリプルセルフタイマーのみが使用できない撮影機能
動画撮影、タイムラプス、高速連写、プレミアムズーム、HSナイトショット、いち押しショット、YouTube、背景ぼかし、全焦点マクロ
- 操作パネルからセルフタイマーを起動すると、モーションシャッター(148ページ)での撮影はできません。通常の撮影になります。



色合いを調整する(ホワイトバランス)

曇りの日に写真を撮ると被写体が青っぽく写る、または白色蛍光灯の光で撮ると被写体が緑がかって写るなどの現象を防ぎ、光源に合わせて被写体を自然な色合いで撮影できるように調整します。

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で操作パネルの“WB” (ホワイトバランス)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で撮影条件を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
AWB オートWB	なし	自動的にホワイトバランスを調整
 太陽光		晴天時の野外での撮影用
 曇天		薄雲～雨天の野外や木陰などの撮影用
 日陰		晴天時のビルや木の陰などの撮影用
 昼白色 蛍光灯		白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
 昼光色 蛍光灯		昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
 電球		電球の雰囲気を消した撮影用

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
MWB マニュアル WB		<p>さまざまな光源下で適正な色に手動で調整することができます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① “マニュアルWB” を選ぶ ② 撮影場所で画面全体に白い紙を写した状態でシャッターを押す ③ 【SET】を押す <p>設定したホワイトバランスは電源を切っても保持されます。</p> 

- “**AWB** オートWB” では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。この場合は、太陽光、曇天などの撮影条件を指定してください。








ピントの合わせ方を変える(フォーカス方式)


- “顔検出”(166ページ)を使用すると“フォーカス方式”は必ず“AF”(オートフォーカス)に固定されません。“フォーカス方式”を切り替えたいときは“顔検出”を“切”にしてください。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの“” (フォーカス方式)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	用途	ピントの合わせかた		ピントが合う距離※1	
			静止画	動画	静止画	動画
 AF (オートフォーカス)	なし	一般的な撮影	自動	自動※3	約5cm~∞(無限遠) (W端)※2	
 マクロ		近くのを撮影			約1cm~約50cm (W端から5段ズーム時)※2	
 スーパーマクロ		近くのを大きく撮影			約1cm~約50cm	
 無限遠		景色などの遠景の撮影	固定		無限遠(W端)	

設定項目	撮影画面の アイコン表示	用途	ピントの合わせかた		ピントが合う距離※1	
			静止画	動画	静止画	動画
MF MF (マニュアル フォーカス)		手でピントを 合わせたい場合	手動		約5cm~∞(無限遠) (W端)※2	

※1 ピントが合う距離はレンズ表面からの距離です。

※2 ピントが合う距離は光学ズームの位置で変わります。

※3 ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。
ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめの前にシャッターを半押しするか、
“MF”(マニュアルフォーカス)でピントを合わせてから撮影してください。

スーパーマクロについて

被写体にもっとも近寄って撮影できる状態に光学ズームを固定することにより、被写体をより近くで、より大きく撮影することができます。

参考

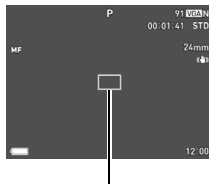
- スーパーマクロに設定するとズーム状態は固定され、ズームレバーをスライドさせてもズームは作動しなくなります。

マニュアルフォーカス時のピント合わせ方法

1. ピントを合わせたい被写体を黄色枠に入れる

2. 液晶モニターを見ながら【◀】(近く)【▶】(遠く)でピントを合わせる

- このとき、ピント合わせがしやすいように拡大表示になります。約2秒間操作をしないと、手順1の画面に戻ります。





ピント合わせの黄色枠

参考

- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカスの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像にレンズ部の影が映し込まれることがあります。
- AF(オートフォーカス)/マクロ/MF(マニュアルフォーカス)撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。オートフォーカスの時のみオートマクロの範囲を含んだ距離の範囲を表示します。
例:○○*cm - ∞
※ ○○には数字が入ります。
- マニュアルフォーカスを選択しているとき、「左右キー」で設定した【◀】【▶】の設定は使用できません(151ページ)。


フォーカスロックについて

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロックを使います。

- AFエリアは、“スポット”または“追尾”にしておきます(161ページ)。

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、シャッターを半押しする

2. シャッターを半押ししたまま、撮影したい構図にカメラを動かす

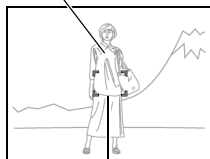
- AFエリアを“追尾”にした場合は、被写体と一緒にフォーカスフレームが動きます。

3. シャッターを最後まで押し込む

参考

- フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

ピントを合わせたい被写体



フォーカスフレーム



ISO感度を変える(ISO感度)

ISO感度とは、光に対する感度を表したものです。

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で操作パネルの“ISO” (ISO感度) を選ぶ
3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容		
Auto(オート)	なし	撮影条件により自動調整します。		
ISO 80	ISO 80	感度が低い ↑ ↓ 感度が高い	シャッター速度が遅い	なめらかに撮れる (ノイズが減る) ↑ ↓ 多少ざらつく (ノイズが増える)
ISO 100	ISO 100			
ISO 200	ISO 200			
ISO 400	ISO 400			
ISO 800	ISO 800			
ISO 1600	ISO 1600			
ISO 3200	ISO 3200			
			シャッター速度が速い (暗い場所での撮影向き)	

- “Auto”設定時のみ被写体ブレ補正(163ページ)が働きます。
- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間が長くなります。その間はキー操作を行わないでください。
- S(シャッター速度優先)モードでは、常に“Auto”になります。
- M(マニュアル露出)モードでは、“Auto”に設定することはできません。

人物の顔を美しく撮影する(メイクアップレベル)

メイクアップ機能により、人物の肌のコンディションをなめらかに整えたり、日差しによる顔の影をやわらげたりして、人物の顔を美しく撮影することができます。メイクアップレベルは、“0”(切)～“+12”(強)で調整できます。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの“”(メイクアップレベル)を選ぶ

3. 【◀】【▶】でメイクアップレベルを設定し、【SET】を押す

- メイクアップレベルは、“0”(切)～“+12”(強)で調整できます。

4. 撮影する

参考

- メイクアップレベルを“+1”（弱）～“+12”（強）にすると、以下の設定になります。
 - 顔検出：“入”
 - フォーカス方式：“AF”（オートフォーカス）
- 下記の機能では、メイクアップを使用できません。
ベストショット撮影の一部、アートショット、プレミアムズーム、高速連写、タイムラプス

明るさを補正する(EVシフト)

撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を手動で補正することができます。

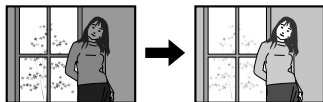
- 露出補正值：-2.0EV～+2.0EV
- 補正単位：1/3EV

1. 撮影モードにして【SET】を押す

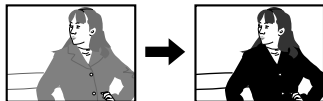
2. 【▲】【▼】で操作パネルの“” (EVシフト)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で露出補正值を選ぶ

【▶】：+方向に補正。白い物の撮影や逆光での撮影に向きます。



【◀】：-方向に補正。黒い物の撮影や晴天の野外などの撮影に向きます。



露出補正值を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。



4. 【SET】を押す

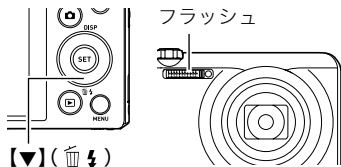
露出値が補正されます。次に露出補正を変えるまで、設定した露出補正值で撮影できます。ただし、電源を切ると設定は“0.0”に戻ります。

参考

- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

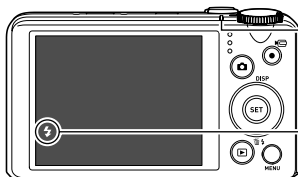
フラッシュを使う(フラッシュ)

1. 撮影モードで【▼】(🗑️⚡)を1回押す
2. 【◀】【▶】で発光方法を選び、【SET】を押す




設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
🔦 フラッシュオート	なし	露出(光の量や明るさ)に応じて自動的に発光します。
🚫 発光禁止		常に発光しません。
⚡ 強制発光		常に発光します。日中、逆光で被写体が暗く写るときに設定すると、明るく撮影できます(日中シンク口撮影)。
👁️ 赤目軽減		自動的に発光します。人の目が赤く写る現象を軽減できます。

3. シャッターを押して撮影する



後面ランプ





フラッシュ充電中はオレンジ色に点滅します。
• 充電が完了してオレンジ色の点滅が消えるまでは、次のフラッシュ撮影はできません。

フラッシュ発光時は“”を表示

- フラッシュが届く範囲については、296ページをご覧ください。

重要

- フラッシュの発光面が汚れている場合、汚れがフラッシュの光に反応し、多少、煙や異臭が発生する場合がありますが故障ではありません。フラッシュの発光面に手の脂などの汚れが残ると落としにくくなりますので、こまめに乾いた柔らかい布などで、軽く拭き取ってください。

- フラッシュが指やストラップで隠れないようにしてください。
- 被写体までの距離が遠すぎたり近すぎたりすると、適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間(296ページ)は、使用条件(電池の状態や周囲の温度など)により異なります。
- 暗い場所でフラッシュを発光禁止にして撮影すると、シャッター速度が遅くなり、手ブレの原因になります。この場合、カメラを三脚などで固定してください。
- 赤目軽減機能では、フラッシュは露出に合わせて自動的に発光します。明るい場所では発光しません。
- 外光や蛍光灯など他の光源があると、色味が変わることがあります。
- フラッシュ撮影が禁止されている場所では指示に従い、フラッシュを“” (発光禁止) に設定してください。
- 撮影モードがA、S、Mモードのフラッシュの設定では、“” (フラッシュオート) と“” (赤目軽減) に設定できません。フラッシュを発光させるときは、フラッシュの設定を“” (強制発光) にしてください。

赤目軽減について


夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写される人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)をすることにより、人の目が赤く写ることを軽減します。






赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。

- 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。
- 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

光の測りかたを変える(測光方式)

測光方式とは、被写体のどの部分の露出を測るかを決定する方式のことです。

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で操作パネルの“” (測光方式) を選ぶ
3. 【◀】【▶】で測光方式を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
 マルチ	なし	画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。さまざまなシーンで失敗の少ない露出で撮影できます。
 中央重点		中央部を重点的に測光します。自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。
 スポット		センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。

ズーム撮影する

本機のズームには光学ズーム、HDズーム、超解像ズーム(シングル超解像ズーム)、プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム)、デジタルズームがあります。最大倍率は画像サイズ、デジタルズーム入/切の設定によって異なります。

光学ズーム	レンズの焦点距離を変える方式で、画質の劣化はありません。
HDズーム	切り出した画像を拡大することなくズームアップ効果を得る方式で、画質の劣化はありません。
超解像ズーム (シングル超解像 ズーム)	シングル超解像技術により画質の劣化を抑える方式(91ページ)です。
プレミアムズーム (マルチ超解像 ズーム)	高速連写撮影を行い、画像を合成することで、画質の劣化を抑える方式です。撮影モードを“プレミアムズーム”に切り替えたときのみ、プレミアムズームが有効になります(92ページ)。
デジタルズーム	画像中央をデジタル処理で拡大する方式で、画質の劣化が起こりません。

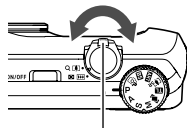
1. 撮影モードにして、ズームレバーをスライドさせる




 広角




 望遠



ズームレバー

 (広角) : 被写体が小さくなり、写る範囲が広がります。

 (望遠) : 被写体が大きくなり、写る範囲が狭くなります。

2. シャッターを押して撮影する

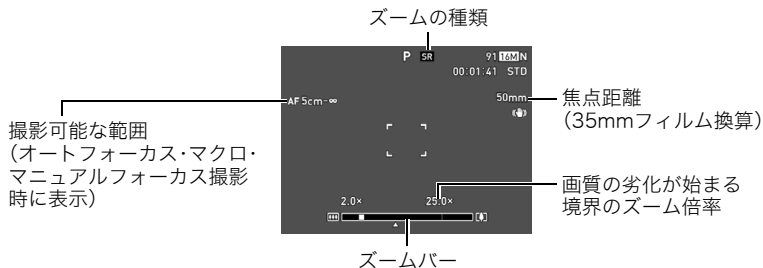
参考

- 望遠で撮影するときは、手ブレがおきやすくなるため三脚の使用をおすすめします。
- 光学ズームを動かせると、レンズの絞り値が変わります。
- 動画撮影中もズームの操作ができます。ただし、ハイスピード動画撮影中はズーム操作はできません。ズームを使いたいときは、**【●】**(ムービー)を押す前にズーム操作をしてください。
- 下記の撮影では、ズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
スライドパノラマ、ワイドショット、全焦点マクロ

ズーム時の画面表示について

ズーム操作時にはズームについてさまざまな情報が表示されます。

■ ズームの種類を示すアイコン



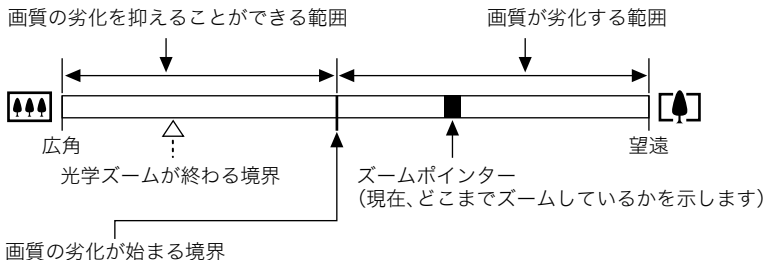
ズーム倍率によって画面上に表示されるズームの種類を示すアイコンが変化します。

ズームの種類	画面に表示されるアイコン
光学ズーム	なし
HDズーム	なし
超解像ズーム(シングル超解像ズーム)	SR(白)

ズームの種類	画面に表示されるアイコン
プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム)	SR (黒)
デジタルズーム	⊕

■ ズームバーの見かた

ズーム中は、ズームバーでおおよその倍率が確認できます。



- 画像サイズ、超解像ズームの設定やプレミアムズームの使用の有無によって境界の位置が変わります。

■ ズーム倍率について

デジタルズームの倍率は画像サイズ(152ページ)、超解像ズームの設定、“プレミアムズーム”の使用の有無(92ページ)によって異なります。

- 撮影モードを“プレミアムズーム”に切り替えた場合のみ、プレミアムズームが有効になります。

画像サイズ	光学ズーム	画質の劣化を抑えることができる最大倍率		総合最大倍率 (デジタルズーム併用時)
		超解像ズーム:切 (HDズーム)	プレミアムズーム 超解像ズーム:シングル	
16M	12.5倍	12.5倍	25.0倍	50.0倍
3:2	12.5倍	12.5倍	25.0倍	50.0倍
16:9	12.5倍	12.5倍	25.0倍	50.0倍
10M	12.5倍	15.8倍	31.6倍	63.1倍
5M	12.5倍	22.5倍	45.0倍	90.0倍
3M	12.5倍	28.1倍	56.3倍	112.3倍
VGA	12.5倍	90.0倍	179.6倍	199.3倍

静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる(超解像ズーム)

超解像ズームには“シングル超解像ズーム”と“プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム)”があります。シングル超解像ズームは、超解像技術により、画質の劣化を最小限に抑えながらズームの範囲を広げることができます。プレミアムズームは、高速連写撮影を行い、画像を合成することで、解像感のある高品位な画質のままズームの範囲を広げることができます。超解像ズームが有効な倍率の範囲については90ページをご覧ください。ここでは、シングル超解像ズームの設定方法を説明します。プレミアムズームについては92ページをご覧ください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“📷 REC MENU”タブを選んで【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“超解像ズーム”を選び、【SET】を押す
4. 【▲】【▼】で“シングル”(シングル超解像ズーム)を選び、【SET】を押す

参考

- この機能はきめ細かい模様などを撮影するときに効果があります。
- 動画撮影時は機能しません。
- 超解像ズーム(シングル超解像ズーム)では、下記の機能は使用できません。
トリプルセルフタイマー、アートショット、プレミアムズーム、タイムラプス、トリプルショット、ベストショット撮影の一部


ズーム領域を拡大し解像感を高めた写真を撮影する(プレミアムズーム)

マルチ超解像技術の応用と連写した複数枚の画像を用いることにより、ズーム領域を拡大し、画像全体の解像感をさらに高めた画像を撮影することができます(プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム))。

1. モードダイヤルを【SR】(プレミアムズーム)に合わせる

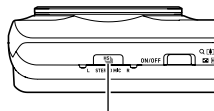
2. シャッターを押して撮影する

参考

- この機能はきめ細かい模様などを撮影するとき効果があります。
- この機能での撮影では、下記の機能は使用できません。
超解像ズーム、トリプルセルフタイマー、シャープネス、コントラスト
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“” (発光禁止)になります。
- この機能での撮影では、手ブレ補正(163ページ)が自動的に“標準”になりますが、手ブレや被写体ブレが大きい場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- 撮影する環境や構図によっては、十分な効果が得られない場合があります。
- この機能での撮影では、“ISO感度”(78ページ)は“ISO3200”に設定することはできません。

何枚も連続して撮影する(高速連写)

連続撮影を行うには、【HS】(連続撮影切替)を押して1枚撮影モード(52ページ)から連続撮影モードに切り替えます。連続撮影モードで【HS】(連続撮影切替)を押すと1枚撮影モードに戻ります。



【HS】(連続撮影切替)



■ 高速連写で撮影する

シャッターを押している間、連続撮影されます。設定できる撮影速度と1回の撮影で記録できる画像枚数は、以下のとおりです。

撮影速度 (高速連写fps)	3枚/秒(3fps)、5枚/秒(5fps)、 10枚/秒(10fps)、15枚/秒(15fps)、 30枚/秒(30fps)
最大連写枚数	5枚、10枚、20枚、30枚

撮影速度 最大連写枚数



高速連写アイコン

1. モードダイヤルを【P】(プログラムオート)に合わせる

2. 【HS】(連続撮影切替)を押す

- “HS” (高速連写)が表示されます。この表示にならないときは、もう一度【HS】を押してください。
-

3. 【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で操作パネルの“” (高速連写fps)を選ぶ

5. 【◀】【▶】で連写の速度を選ぶ

- 被写体の動きが速いときは、“高速連写fps”を上げてください。
-

6. 【▲】【▼】で操作パネルの“” (最大連写枚数)を選ぶ

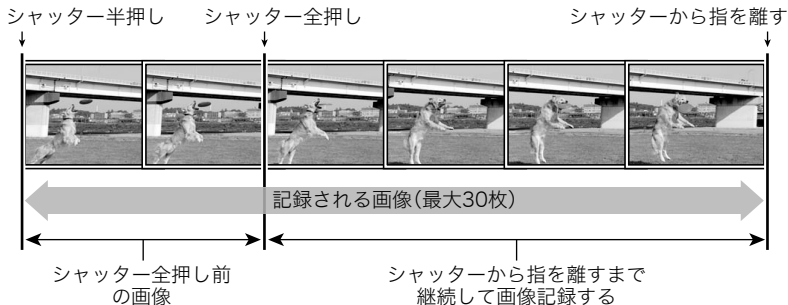
7. 【◀】【▶】で記録する最大枚数を選び、【SET】を押す

8. シャッターを全押しし続ける


シャッターを押し続けている間、または“高速連写fps”で設定した枚数が撮影されるまで連続撮影されます。

■ パスト連写で撮影する

シャッターを半押ししている間、常に静止画を一時的に記録することができるので、シャッターを全押しする前の画像を撮影することができます。決定的シーンの撮り逃しを防ぐのに利用できます。




1. モードダイヤルを【P】(プログラムオート)に合わせる
2. 【】(連続撮影切替)を押す
3. 【SET】を押す


4. **【▲】【▼】**で操作パネルの“” (高速連写fps) を選ぶ

5. **【◀】【▶】**で連写の速度を選ぶ

- 被写体の動きが速いときは、“高速連写fps”を上げてください。
-

6. **【▲】【▼】**で操作パネルの“” (最大連写枚数) を選ぶ

7. **【◀】【▶】**で記録する最大枚数を選ぶ

8. **【▲】【▼】**で操作パネルの“” (パスト連写枚数) を選び、**【SET】**を押す

9. **【◀】【▶】**でシャッター全押し前の連写枚数を選び、**【SET】**を押す

- “0枚”、“3枚”、“5枚”、“10枚”、“15枚”、“20枚”、“25枚”から選ぶことができます。
 - “0枚”を選ぶと、シャッター半押し中の画像は保存されません。
-

10. シャッターを半押しして、パスト連写を開始する


シャッターを半押し中は、一時的にシャッター全押し前までの画像を設定枚数分繰り返し記憶します。

- シャッター半押し中は、シャッター音は出ません。
 - シャッターの半押しをやめると、それまでに記録した画像は消去されます。
-

11. シャッターを全押しし続ける

シャッターを全押しすると、全押しする直前からの画像とシャッターを全押ししていたときの画像を記録します。シャッターを押し続けている間、または“高速連写fps”で設定した枚数が撮影されるまで連続撮影されます。

■ 連写時のご注意

- 連写撮影時はマニュアルモード撮影が可能です。モードダイヤルを【A】、【S】、【M】にしてください。
- 連写枚数が多いほど、撮影後の保存に時間がかかります。
- 連写中は、撮影が終了するまで、カメラを動かさないでください。
- 連写中はズーム操作はできません。
- この機能での撮影では、静止画の画質が自動的に“標準-N”となります。
- この機能での撮影では、露出/フォーカス位置は1枚目を撮影した際に固定されます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“”（発光禁止）となります。
- この機能での撮影では、画像サイズを“3:2”、“16:9”に設定することはできません。他のモードですでに設定していた場合は、“16M”で撮影されます。
- この機能での撮影では、以下の機能を使用できません。
モーションシャッター、トリプルセルフタイマー、超解像ズーム、プレミアムズーム
- パスト連写ではセルフタイマー機能が使用できません。


いろいろな作風で撮影する(アートショット)

見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に上げることができます。

シーン	内容
HDRアート	HDR撮影(128ページ)を応用し、従来の映像表現を超えた写真に仕上げます。
トイカメラ	周辺を暗くし、色合いを変えて、トイカメラ風に仕上げます。
ソフトフォーカス	全体をぼかして、やわらかく幻想的に仕上げます。
ライトトーン	コントラストを弱めにして、上品で落ち着いた雰囲気仕上げます。
ポップ	彩度を強調して、色彩豊かに仕上げます。
セピア	セピアカラーにしてレトロ風に仕上げます。
モノクロ	コントラストを強調し、粒状感をつけ、印象的に仕上げます。
ミニチュア	一部をぼかして、ミニチュア模型を撮影したように仕上げます。
フィッシュアイ	魚眼レンズで撮影したような、ユーモラスな作風に仕上げます。
トゥインクルショット	やわらかい雰囲気にして、光の点をキラキラ輝かせた写真に仕上げます。

1. モードダイヤルを【ART】(アートショット)に合わせる

2. 【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“”を選び、【SET】を押す

4. 用途に合ったシーンを選び、【SET】を押す

5. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの上から5番目の項目を選ぶ
選んだシーンの効果の強弱等が設定できます。

シーン	調節内容
HDRアート	効果の強さ
トイカメラ	色合い
ソフトフォーカス	効果の強さ
ライトトーン	色合い
ポップ	効果の強さ
セピア	効果の強さ
モノクロ	効果の強さ
ミニチュア	ピントが合う位置
フィッシュアイ	効果の強さ
トゥインクルショット	効果の種類

6. 【◀】【▶】で設定する

7. 【SET】を押す

8. シャッターを押して撮影する


■ シーンの説明画面での操作

選んだシーンの説明画面を見たいときは、シーン一覧でズームレバーをスライドさせてください。

- 一覧表示に戻る → ズームレバーをスライドさせる
- 次の(前の)シーンを表示する → 【◀】【▶】
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る → 【SET】



参考

- アートショットのシーンによっては、使用できないメニュー項目があります。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“” (発光禁止)になります。
- “トゥインクルショット”では、動画撮影はできません。
- “動画画質”の設定は“HD”または“STD”のみとなります(157ページ)。他のモードで“STD”以外に設定されていた場合は、“HD”で撮影されます。
- “HDRアート”で動画を撮影する場合、アート効果の強さは動画用の設定に固定されます。


HDRアートでの撮影で効果なしの画像も同時に保存する (ダブル保存(HDRアート))

HDRアートで撮影したときに、選択したシーンで撮影された画像と同時に、アート効果がない状態(プログラムオートで撮影)の画像も保存できます。

1. モードダイヤルを【ART】にして、【MENU】を押す
2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“ダブル保存(HDRアート)”を選び、【SET】を押す
4. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押す
“切”を選ぶと、選んだシーンに加工された画像のみが保存されます。
5. シャッターを押して撮影する

撮りたい瞬間を逃さず撮影する(トリプルショット)

シャッターを押すと、連写によって3枚の画像が保存されます。子どものちょっとしたしぐさなどを逃さず撮影できます。

1. モードダイヤルを【】(トリプルショット)に合わせる

2. 被写体にカメラを向けてシャッターを半押しする

カメラ内に静止画を一時的に記録します。

- シャッターを全押しする前にシャッターの半押しをやめると、それまでの半押し中に記録した画像は消去されます。

3. シャッターを全押しして撮影する




連写によって、全押ししたときの画像とその前後の画像の合計3枚が保存されます。

- シャッターを半押しせずに全押しすると、連写によって全押し時と、全押し後の合計2枚が保存されます。

参考

- この機能での撮影は、以下の設定に固定されます。

セルフタイマー	切
フラッシュ	発光禁止
静止画画質	標準-N
超解像ズーム	切
顔検出	入
フォーカス方式	AF
AFエリア	インテリジェントまたはスポット※

※ほかのモードで「マルチ」または「追尾」を選んでいた場合は、「スポット」で撮影されます。

動画を撮影する



動画を撮影する

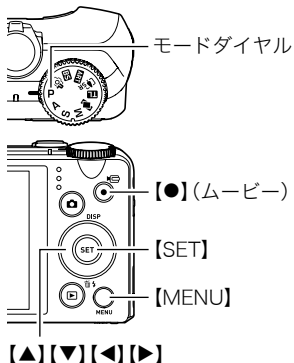
ここでは、標準的な動画(STD動画)の撮影方法を説明します。

本機はプレミアムオート PRO(105ページ)での動画撮影に対応しています。他の動画撮影については下記をご覧ください。

高精細な動画(FHD動画)→108ページ

ハイスピード動画(HS動画)→109ページ

1. モードダイヤルを【P】(プログラムオート)または【】(プレミアムオート PRO)に合わせる
2. 【MENU】を押す
3. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【SET】を押す
4. 【▲】【▼】で“動画画質”を選び、【▶】を押す



5. 【▲】【▼】で“STD”(スタンダード)を選び、【SET】を押す

- 画像サイズが640×480 pixels、フレームレートが30フレーム/秒で撮影されます(STD動画)。画像サイズの変更はできません。
- 動画で撮影できる範囲は、静止画よりも狭くなります。動画の撮影範囲は、“アシスト表示”(174ページ)で表示させることができます。

6. 【●】(ムービー)を押す

撮影が開始され、液晶モニターに“●REC”が表示されます。
撮影中は音声(ステレオ)も録音されます。

7. もう一度【●】(ムービー)を押して撮影を終了する

- 撮影可能な動画は、1ファイル最大4GBまでです。これを越えると自動的に撮影は終了します。



プレミアムオート PROを利用した動画撮影

プレミアムオート PROに設定した状態(52ページ)で撮影すると、被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、プログラムオートよりも高画質で撮影することができます。撮影時には、カメラが検出した撮影環境が画面の下に表示されます。

- FHD動画とSTD動画の撮影のみで有効です。
- プログラムオートでの動画撮影よりも電池寿命はやや短くなります。



ベストショットを利用した動画撮影

ベストショット(122ページ)を利用して、カメラが提案するシーンを選ぶだけできれいな動画を撮影できます(一部のシーンでは動画撮影できません)。

動画撮影時の手ブレ軽減

FHD動画、STD動画(HDRアート動画を除く)では、手ブレを軽減しながら動画撮影することができます(163ページ)。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません。

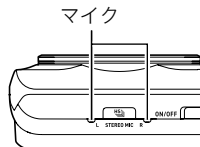
音声について

撮影中は音声(ステレオ)もマイクで録音されます。

- 本機では、動画撮影時の風の音を低減する機能(風音低減)を搭載しています(168ページ)。

■ 録音時のご注意

- 音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
 - 指などでマイクをふさがないようにください。
 - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
 - 撮影中にズーム操作を行うと、ズームやオートフォーカスの動作音が録音されることがあります。
 - 撮影中にボタン操作をすると、操作音が録音されることがあります。
- ムービーモードが“HS”の場合は、フレームレートが“30-120fps”または“30-240fps”の場合に限り、30fpsでの撮影中のみ音声は録音されます。これ以外のフレームレートでは録音されません。



☀ 重要

- 動画を長時間撮影した場合、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。

- 高い気温など高温の環境で動画を長時間撮影した場合、撮影画像にノイズ(輝点)が入ることがあります。また、内部温度の上昇により動画撮影の途中で強制的に動画撮影が終了する場合があります。その場合は本機の温度が下がってから動画撮影を行うようにしてください。
- 内蔵メモリー使用時やメモリーカードの種類によっては処理速度が遅くなる場合がありますので、できるだけ超高速タイプのメモリーカードをご使用ください。ただし、超高速タイプのメモリーカードであっても、すべての動作を保証することはできません。動画の画質設定によっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、“●RED”が黄色になります。

参考

- 動画撮影中もズームの操作ができます(86ページ)。ただし、ハイスピード動画撮影中はズーム操作はできません。ハイスピード動画撮影でズームを使いたいときは、【●】(ムービー)を押す前にズーム操作をしてください。
- 動画撮影時は超解像ズーム、プレミアムズームは無効です(91、92ページ)。
- アップで撮影したり、高倍率ズームにしたとき、被写体のブレが目立つため手ブレにご注意ください。三脚を使用することをおすすめします。
- “フォーカス方式”を“AF”(オートフォーカス)または“マクロ”にした場合、動画撮影中(ハイスピード動画を除く)は常時“コンティニュアスAF”が動作します(165ページ)。
- 動画(FHD、STD、ハイスピード)撮影中は、顔検出機能は無効となります。ただし、プレミアムオートPROの動画(FHD、STD)撮影中は、顔検出機能は動作します。
- 下記の機能では動画撮影はできません。
トリプルショット、プレミアムズーム、ベストショット撮影の一部
- 動画撮影、パストムービー、YouTubeでは、Aモード、Sモード、Mモードでの撮影はできません。“P”(プログラムオート)での撮影になります。

高精細な動画を撮影する

本機は高精細な動画(FHD動画)が撮影できます。この動画はアスペクト比が16:9、画像サイズが1920×1080 pixels、フレームレートが30フレーム/秒になります。画質、画像サイズの変更はできません。

1. モードダイヤルを【P】(プログラムオート)または【@P】(プレミアムオート PRO)に合わせる

2. 【MENU】を押す

3. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“📷 REC MENU”タブを選んで【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で“動画画質”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で“FHD”を選び、【SET】を押す

6. 通常の動画撮影と同様に撮影する(103ページ)
【●】(ムービー)を押すと撮影が開始し、再度押すと終了します。

ハイスピード動画を撮影する

本機では最高1000コマ/秒のハイスピード動画が撮影できます。動画のアスペクト比はフレームレート(動画の撮影速度)によって異なります。



- フレームレートが“30-120fps”または“30-240fps”の場合に限り、30fpsでの撮影中のみ音声録音されます。これ以外のフレームレートでは録音されません。

1. モードダイヤルを【P】(プログラムオート)に合わせる







2. 【MENU】を押す

3. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“📷 REC MENU”タブを選んで【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で“動画画質”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で撮影速度(フレームレート)を選び、【SET】を押す

フレームレートを速く(1000fps)すると画像サイズが小さくなります。

動画画質	撮影画面の アイコン表示	撮影速度 (フレームレート)	画像サイズ (pixels)
HS1000		1000fps	224×64
HS480		480fps	224×160
HS240		240fps	512×384
HS120		120fps	640×480
HS30-240		30-240fps	512×384
HS30-120		30-120fps	640×480

- fps(frame per second)は1秒間あたりの画像の数を示す単位です。

6. 通常の動画撮影と同様に撮影する(103ページ)

【●】(ムービー)を押すと撮影が開始し、再度押すと終了します。

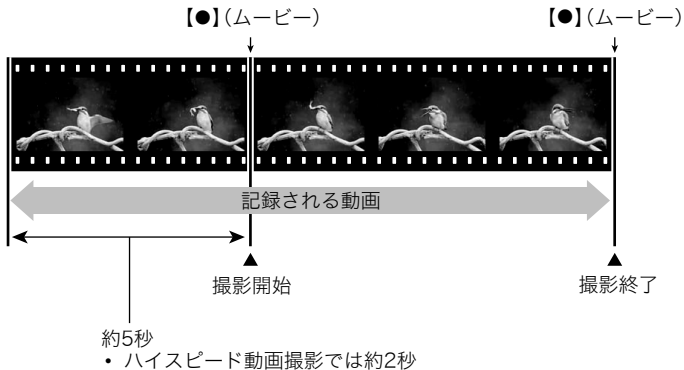
- ハイスピード動画(HS120、HS240、HS480、HS1000時)の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影を始める前にシャッターを半押しするか、マニュアルフォーカスでピントを合わせてから撮影してください。
- “HS30-120”または“HS30-240”の30fpsでの撮影時はコンティニュアスAFが動作しますが、120fpsまたは240fpsに切り替わったときはその時点でフォーカス位置が固定されます。
- “HS30-120”または“HS30-240”の撮影では、撮影前は30fpsに固定されます。撮影中のみ30fpsと120fps、または30fpsと240fpsのスピードに切り替えが可能です。スピードの調節は、【◀】【▶】または【SET】を押して切り替えてください。30fpsでの撮影中のみ音声録音されます。

参考

- 撮影速度(フレームレート)が高くなるほど、撮影時の周囲の明るさが必要になります。ハイスピード動画撮影時は明るい環境で撮影してください。
- 動画の種類によっては、撮影中の画面が狭くなります。ハイスピード動画の撮影時は画面の上下左右に黒い帯が入ります。
- ハイスピード動画では光源フリッカ(ちらつき)が横帯として写ることがあります。
- ハイスピード動画撮影時は、液晶モニターの表示内容の切り替えはできません。

撮影開始前のシーンも動画に記録する(パストムービー)

撮影開始の約5秒前(ハイスピード動画時は約2秒前)から動画を記録することができ、決定的シーンの撮り逃しを防ぐことができます。



■ パストムービーの準備をする

1. モードダイヤルを【BS】(ベストショット)に合わせる

2. 【MENU】を押す

3. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“📷 REC MENU”タブを選んで【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で“動画画質”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で撮影したいムービーモードを選び、【SET】を押す

6. 【SET】を押す

7. 【▲】【▼】で“BS”を選び、【SET】を押す


8. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“パストムービー”のシーンを選び、【SET】を押す
液晶モニターに“📷” (パストムービー)が表示されます。

■ パストムービーを撮影する

1. カメラを被写体に向け、【●】(ムービー)を押して撮影を開始する

【●】(ムービー)を押す約5秒前(ハイスピード動画撮影時は約2秒前)から動画の撮影が始まっています。

2. もう一度【●】(ムービー)を押して撮影を終了する

- パストムービー撮影をやめ、静止画撮影状態に戻るには、モードダイヤルを【P】(プログラムオート)または【】(プレミアムオート PRO)に合わせます。
- ハイスピード動画撮影の“HS30-120”または“HS30-240”でのパストムービー撮影では、過去の動画撮影記録時は、fpsの切り替えができません。【●】(ムービー)を押したあとは、fpsの切り替えができます。

参考

- パストムービーで動画撮影を開始する前は、シャッターを押しても、静止画撮影はできません。動画撮影中は静止画の撮影ができます(FHD動画/STD動画の場合のみ)。
- パストムービーでハイスピード動画を撮影するときは、“左右キー”を“EVシフト”や“ホワイトバランス”に設定していても、左右キーを押して“EVシフト”や“ホワイトバランス”の設定を変更することはできません。これらの設定を変更する場合は、操作パネルから変更してください。


タイムラプス動画を撮影する(タイムラプス)

自然の移り変わりや街の流れをまるで早送りしているかのように見える動画を作成できます。


- カメラを三脚に固定して撮影することをおすすめします。
- 撮影中の電池切れを防ぐため、十分に充電された電池を使用してください。
- 撮影時は、空き容量が十分にあるメモリーカードを使用してください。
- ピントは撮影開始時に固定されます。
- 明るさ、ホワイトバランスはシーンによっては撮影開始時に固定されます。

1. モードダイヤルを【TL】(タイムラプス)に合わせる



2. 【SET】を押す



3. 【▲】【▼】で操作パネルの“”を選び、【SET】を押す

4. 用途に合ったシーンを選び、【SET】を押す

5. 【SET】を押し、“” (タイムラプス設定)を選び、【SET】を押す

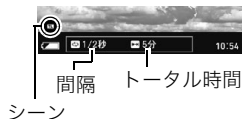
6. 【▲】【▼】で“間隔”または“トータル時間”を選んで【▶】を押したあと、【▲】【▼】で値を設定する

各シーンにはシーンに合った“ 間隔”と“ トータル時間”があらかじめ設定されています。必要に応じて設定を変更することができます。


 間隔	何秒ごとに撮影するかを決めます。
 トータル時間	撮影時間を決めます。“OFF”を選んだ場合は、撮影中に再度シャッターを押すまで撮影が続きます。

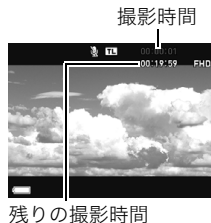
7. 【SET】を押す

- タイムラプスの設定内容は画面下部に表示されません。



8. シャッターを押し、撮影を開始する

- 手順6で設定した撮影間隔ごとに撮影を繰り返します。
- 手順6で設定した撮影時間が経過する、または再度シャッターを押すと、撮影が終了します。
- 残りの撮影時間は、“ トータル時間”が“OFF”の場合は表示されません。



参考

- “スリープ” (253ページ)を設定した場合は、撮影中に一定時間操作しないと液晶モニターの表示が消えますが、撮影は継続しています。このとき、後面ランプが点滅します。液晶モニターの表示が消えているときにカメラを操作すると、表示が元に戻ります。ただし、以下の操作ではカメラの表示は元に戻りません。
 - 【ON/OFF】(電源)を押す
 - シャッターを全押しする
 - モードダイヤルを操作する
- この機能での撮影では、以下の機能は使用できません。
超解像ズーム、手ブレ補正、ライティング、コンティニューAF、トリプルセルフタイマー、
モーションシャッター、顔検出、測光方式、ISO感度、ISO感度上限、メイクアップ
- この機能での再生は、フレームレートは20フレーム/秒になります。また、動画画質は選んだシーンによって異なります。
シーン1~6:FHD
シーン7~11:HD
- この機能での撮影では、音声は録音されません。
- タイムラプス動画をスライドショーで再生するとき、タイムラプス動画のみを再生するように設定することもできます(196ページ)。
- “HDRアート”で動画を撮影する場合、アート効果の強さは動画用の設定に固定されます。
- タイムラプスで動画撮影中に、シャッターを押して静止画を撮影する(スチルインムービー)ことはできません。
- タイムラプスの“間隔”および“トータル時間”の設定内容は、リセット操作(260ページ)を行うと初期値にリセットされます。設定内容はタイムラプスの各シーンによって異なります。

- タイムラプスでの撮影中は“スリープ”(253ページ)の設定に従って液晶モニターが消えますが、消したくない場合は“スリープ”を“切”に設定してください。ただし電池寿命は短くなります。
- タイムラプスの“夜景”のシーンでの撮影で、明るさを調整する場合は、操作パネルの“S” (シャッタースピード)(67ページ)で調整してください。

■ シーンの説明画面での操作

選んだシーンの説明画面を見たいときは、シーン一覧でズームレバーをスライドさせてください。

- 一覧表示に戻る → ズームレバーをスライドさせる
- 次の(前の)シーンを表示する → **[◀] [▶]**
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る → **[SET]**



YouTube用の動画を撮影する(YouTube)

YouTube, LLC社が運営する動画サイトYouTubeに掲載するのに最適な動画データを、撮影することができます。標準的な動画(STD動画)、高精細な動画(FHD動画)、ハイスピード動画(HS動画)のいずれのムービーモードでも、YouTubeに掲載できる動画の撮影が可能です。

1. モードダイヤルを[BS]**(ベストショット)に合わせる**

2. **[MENU]を押す**


3. **[◀]を押し、**[▲]****[▼]**で“**📷 REC MENU**”タブを選んで**[SET]**を押す**

4. 【▲】【▼】で“動画画質”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で撮影したいムービーモードを選び、【SET】を押す


6. 【SET】を押す

7. 【▲】【▼】で“BS”を選び、【SET】を押す

8. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“YouTube”のシーンを選び、【SET】を押す
液晶モニターに“” (YouTube)が表示されます。

9. 動画を撮影する

動画データは、メモリー内の「100YOUTB」という記録フォルダーに保存されます。

- YouTubeの撮影をやめ、静止画撮影状態に戻るには、モードダイヤルを【P】(プログラムオート)または【】(プレミアムオート PRO)に合わせます。







参考

- “YouTube”で撮影した動画は専用のフォルダーに記録されますので、パソコンで簡単に検索することができます(246ページ)。なお、このシーンでは、ムービーモードの設定(103ページ)で設定した画像サイズ、撮影速度、画質で撮影されます。
- “YouTube”では動画の撮影中、撮影前にかかわらず静止画の撮影はできません。
- 1回の撮影で保存できるファイルのサイズは、1つのファイルにつき最大2048MBまたは、再生時間が15分までです。撮影するムービーモードによって、1回の撮影での最大撮影可能時間は異なります(292ページ)。

動画撮影中に静止画を撮影する(スチルインムービー)

本機では動画撮影中でも静止画を撮影することができます。1枚撮影モードでは1枚ずつ撮影できます。また、連写撮影モードでは1回の撮影で約10fps(1秒間で約10枚)の速さで、最大7枚まで連写撮影可能です。1回の動画撮影中には合計で、最大28枚まで撮影可能です。

1. 動画撮影中に、シャッターを押す

- 連写撮影モードでは、シャッターを押し続けている間、連続撮影します。
-  (連続撮影切替)、、、 のいずれかを押しと、1枚撮影モードと連写撮影モードの切り替えができます。画面の  が白くなると連写撮影モードになり、 が白くなると1枚撮影モードになります。

静止画の撮影モード



静止画撮影可能枚数

参考

- 動画撮影中の静止画撮影(スチルインムービー)では、フラッシュ撮影はできません。
- FHD動画、STD動画撮影時以外はスチルインムービーでの静止画撮影はできません。
- スチルインムービーでの静止画撮影ではピント合わせはできません。動画撮影時のピントと同じになります。
- FHD動画撮影中に撮影した静止画は、FHD動画より広い範囲で撮影されます。
- 静止画の画質は自動的に“標準-N”になります。
- スチルインムービーは“P”(プログラムオート)で撮影されます。
- モーションシャッターおよびタイムラプスで動画撮影中は、静止画を撮影できません。

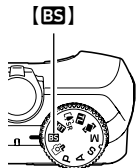
撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット)

さまざまな撮影シーンがカメラに収録されています。各シーンには被写体や撮影条件に合った最適なカメラの設定が記録されています。望みのシーン(ベストショット)を選ぶだけで最適なカメラの設定が完了します。



ベストショットで撮影する

1. モードダイヤルを【BS】(ベストショット)に合わせる
2. 【SET】を押す
3. 【▲】【▼】で“BS”を選び、【SET】を押す
ベストショットのシーン一覧が表示されます。



4. 【▲】【▼】【◀】【▶】で枠を移動し、シーンを選ぶ

- 【▲】【▼】を押していくと、別のシーン一覧が表示されます。
- 通常の静止画撮影に戻るには、モードダイヤルを【P】(プログラムオート)に合わせてください。

現在のシーン(枠部分)



シーン名

シーン番号

5. 【SET】を押して、選んだシーンに決める

撮影できる状態に戻ります。

- 別のシーンを選び直すには、手順2からの操作を繰り返します。

6. 静止画を撮影するときはシャッターを、動画を撮影するときは【●】(ムービー)を押す

- シーンによっては、シャッターを押したあと、“処理中です しばらくお待ちください”とメッセージが表示されます。メッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。メッセージが表示されてから処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

■ シーンの説明画面での操作

選んだシーンの説明画面を見たいときは、シーン一覧でズームレバーをスライドさせてください。

- 一覧表示に戻る→ズームレバーをスライドさせる
- 次の(前の)シーンを表示する→【◀】【▶】
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る→【SET】



■ ベストショット撮影の注意

- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではなく、効果や効能を説明するためのイメージです。
- 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。
- 下記のベストショット撮影では、静止画撮影はできません。
パストムービー、YouTube
- 下記のベストショット撮影では、動画撮影はできません。
背景ぼかし、全焦点マクロ、いち押しショット、HS手ブレ補正、ワイドショット、HSナイトショット、スライドパノラマ、スナップ撮影、HDMIテレビ出力
- 各ベストショットのシーンが選ばれているときの動画撮影は、FHD/STD動画撮影では各シーンに適した動画撮影となりますが、ハイスピード動画撮影では、選択されているシーンには依存せずプログラムオートでの動画撮影となります。
- 高速連写を応用したベストショットでは、“超解像ズーム”の設定は無効になります。

- 下記のベストショット撮影では、撮影環境によって撮影範囲が狭くなることがあります。
HS夜景と人物、HSナイトショット

自分好みの設定を登録して撮影する(カスタムショット)

本機で撮影した静止画の撮影設定を、カスタムシーンとして本機に登録できます(最大999件)。登録したカスタムシーンを選ぶと、同じ設定で撮影できます。カスタムシーンとして登録できるのは、以下の静止画です。

- プログラムオート
- Aモード
- Sモード
- Mモード
- ベストショット(“パストムービー”、“YouTube”、“HDMIテレビ出力”を除く)



■ カスタムシーンを登録する

1. ベストショットのシーンで「CUSTOM SHOT(新規登録)」のシーンを選び、
【SET】を押す

2. 【◀】【▶】で登録したい静止画を選ぶ

3. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す
登録したシーンには、“カスタムシーン”という名前が付きます。

参考

- 動画はカスタムショットとして登録できません。
- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- 登録したシーン番号は、登録した順に、U1、U2・・・となります。
- 登録される設定内容
顔検出、フォーカス方式、EVシフト、ホワイトバランス、フラッシュ、ISO感度、測光方式、ライティング、フラッシュ光量、シャープネス、彩度、コントラスト
- カスタム登録したシーンは、内蔵メモリー内の「SCENE」(静止画用)フォルダーに保存されます(245ページ)。
- 内蔵メモリーをフォーマット(259ページ)すると、カスタム登録したシーンファイルは消えてしまいます。
- 登録したシーンを削除する場合は下記の手順で削除してください。
 - ①シーンの説明画面(124ページ)から削除したいシーンを表示させる
 - ②【▼】( )を押したあと“解除”を選び、【SET】を押す

■ 登録したシーンで撮影する

1. ベストショットモードで、登録した“カスタムシーン”を選ぶ(122ページ)
2. シャッターを押して撮影する

暗い場所でフラッシュを使わずに明るく撮影する (HSナイトショット)

複数の画像を連続撮影し、合成することで、フラッシュを使用せずに、暗い環境でも明るく撮影することができます。



フラッシュを発光させずに
“プログラムオート”で撮影



“HSナイトショット”で撮影

1. ベストショットモードで“HSナイトショット”を選ぶ(122ページ)

2. シャッターを押して撮影する

- 手ブレと被写体ブレに注意して撮影してください。
- 液晶モニターで被写体が確認できる程度の明るさで撮影してください。

参考

- この機能での撮影では、“ISO感度” (78ページ) は“オート”に固定されます。
- この機能での撮影では、手ブレをしている場合は手ブレ補正処理を行うため、通常より撮影範囲が狭くなることがあります。
- この機能での撮影では、画像サイズを“16M”、“3:2”、“16:9”に設定することはできません。他のモードですでに設定していた場合は、“10M”で撮影されます。

デジタル処理で白とびや黒つぶれのない写真を撮影する(HDR)

露出の異なる複数の画像を連写して合成することで、明暗差の大きな被写体でも白とびや黒つぶれのない写真が撮影(HDR撮影:ハイダイナミックレンジ撮影)できます。

1. ベストショットモードで“HDR”を選ぶ(122ページ)


2. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“” (HDRレベル) を選ぶ

3. 【◀】【▶】でHDRレベルを設定し、【SET】を押し

- HDRレベルは“レベル1”、“レベル2”、“レベル3”の3つから設定できます。

4. シャッターを押して撮影する

参考

- 三脚で固定して撮影すると、より大きな効果が得られます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“”（発光禁止）になります。
- この機能の撮影では、手ブレをしている場合は手ブレ補正処理を行うため、通常より撮影範囲が狭くなる場合があります。
- 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られない場合があります。


デジタル処理で手ブレ補正をする(HS手ブレ補正)

光学的に手ブレ補正を行うとともに、1回シャッターを押すと連写をし、連写した画像を自動的に合成することで、光学手ブレ補正で補正できないような場面でも手ブレが軽減された撮影ができます。

1. ベストショットモードで“HS手ブレ補正”を選ぶ(122ページ)

2. シャッターを押して撮影する

参考

- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“”（発光禁止）になります。
- この機能の許容範囲以上の手ブレがあったり、被写体が動いていたるときは、補正できずにブレた画像となることがあります。
- この機能での撮影では、“ISO感度”（78ページ）と“ISO感度上限”（159ページ）は“オート”に固定されます。

背景をぼかした写真を撮影する(背景ぼかし)

連写で撮影した複数の画像を解析して、主な被写体の背景をぼかし、一眼レフカメラで撮影したように被写体が浮き上がって見える写真を撮影することができます。また、ぼかし効果を三段階で調節することができます。




“プログラムオート”で撮影



“背景ぼかし”で撮影

1. ベストショットモードで“背景ぼかし”を選ぶ(122ページ)

2. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“” (ぼかし効果)を選ぶ

3. 【◀】【▶】でぼかし効果レベルを設定し、【SET】を押し
 - ぼかし効果レベルは“レベル1”、“レベル2”、“レベル3”の3つから設定できます。


4. シャッターを押して撮影する

- 被写体になるべく近寄って撮影してください。また、ぼかしたい背景と被写体との距離は、できるだけ離すようにしてください。この距離はズームの倍率によって異なります。

例:ズームがW端の場合 被写体までの距離:30cm

被写体から背景までの距離:1m以上

参考

- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に「」(発光禁止)になります。
- この機能での撮影では、手ブレ補正(163ページ)が自動的に「標準」になりますが、手ブレや被写体ブレが大きい場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- カメラがぼかし処理できないと判断した場合、「ぼかし処理できませんでした 通常記録します」と表示されます。ぼかし処理できない場合でも画像は保存されます。

画像全体にピントを合わせて撮影する(全焦点マクロ)

連写で撮影した複数の画像を解析して、近景から遠景まですべての領域にピントが合った写真を撮影できます。



“プログラムオート”で撮影




“全焦点マクロ”で撮影

1. ベストショットモードで“全焦点マクロ”を選ぶ(122ページ)

2. シャッターを押して撮影する

- 被写体になるべく近寄り、手ブレと被写体ブレに注意して撮影してください。

参考

- この機能での撮影では、ズームはワイド端に固定されます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“” (発光禁止) になります。
- この機能での撮影では、手ブレ補正(163ページ)が自動的に“標準”になりますが、手ブレや被写体ブレが大きい場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- カメラが処理できないと判断した場合、“合成できませんでした 通常記録します”と表示されます。処理できない場合でも画像は保存されます。

オートフォーカスしながら連写撮影する(AF連写)

被写体に常にピントを合わせながら、最大30枚連写します。動きの速い子どもを撮影するときなどに便利です。連写速度は、撮影環境に合わせて自動で1秒間に3~6枚に設定されます。

1. ベストショットモードで“AF連写”を選ぶ(122ページ)

2. シャッターを全押しし続ける

シャッターを押し続けている間、最大で30枚連続撮影されます。

参考

- 連写中は、ズーム操作はできません。
- この機能での撮影では、画像サイズを“3:2”、“16:9”に設定することはできません。他のモードですでに設定していた場合は、“16M”で撮影されます。
- この機能での撮影では、以下の機能は使用できません。
モーションシャッター、トリプルセルフタイマー、超解像ズーム
- この機能での撮影では、以下の設定に固定されます。

静止画画質	標準-N
フラッシュ	発光禁止
フォーカス方式	AF
AFエリア	スポット


良い顔の画像だけ撮影する(いち押しショット)

1回シャッターを押すと、連写した画像の中から自動的に、ブレていない画像、被写体の人物すべての目が開いている画像、被写体の人物すべてができるだけ笑顔の画像を選んで、最良の1枚を保存します。

1. ベストショットモードで“いち押しショット”を選ぶ(122ページ)

2. シャッターを押して撮影する

参考

- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“” (発光禁止)になります。
- 連写した画像がすべてブレた画像の場合は、ブレた画像が保存されてしまいます。
- 以下のようなときは目をつぶっているかどうかや、笑っているかどうかの認識がされませんので、笑っていない被写体の画像や、目をつぶった被写体の画像が保存されることがあります。
 - 顔の一部、もしくは全面が、影などの影響で暗くなっている場合
 - 髪の毛が、目に被っている、もしくは接近している場合
 - 眼鏡をかけている場合
 - 顔が小さい場合
 - 顔が正面を向いていない場合
- 撮影される被写体の人数が多くなると、撮影後の処理に時間が多くかかります。


パノラマ画像を撮影する(スライドパノラマ)

カメラを動かしている間、複数の画像を撮影し、画面上で合成することで、レンズの広角度を超えた最大360度のパノラマ画像を撮影することができます。



- 合成した画像は、下記のサイズで保存されます。
スライド方向が右/左方向の場合:最大11520×1080 pixels
スライド方向が上/下方向の場合:最大1920×7296 pixels
- スライドパノラマ撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
- パノラマ画像は最大で、横方向で約360度、縦方向で約180度の角度で撮影できます。
- 横方向の撮影角度が360度に満たなかった場合は、撮影できた領域によって60度、120度、180度、240度、300度のいずれかのパノラマ画像になります。

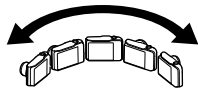
1. ベストショットモードで“スライドパノラマ”を選ぶ(122ページ)

2. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“” (スライド方向) を選ぶ

-
- 3. 【◀】【▶】でスライド方向(カメラを動かす方向)を選び、【SET】を押す**
スライド方向は、右/左/上/下の4種類があります。
-


- 4. 被写体の端にカメラを向けてシャッターを半押しし、ピントを合わせる**
-

- 5. シャッターを全押しし、画面上に表示されるスライドカーソルが画面の端(スライド方向が右の場合は右端)に着くまで、カメラを矢印の方向にゆっくり動かす**
- スライドカーソルが画面の端に着くまでカメラを動かすと、画像の合成が始まります。
 - カメラを動かすのを止めると、自動的に画像の合成が始まります。



スライドカーソル

参考

- 以下の場合は、スライドパノラマ撮影に適していません。
 - 電灯や太陽など、周囲と明るさの差が大きい被写体
 - 川、波、滝など、模様が常に変化する被写体
 - 空や砂浜など、似たような模様が続く被写体
 - 主な被写体とカメラとの距離が近い
 - 動いている被写体
 - 周囲が暗い場合
- 以下の場合、スライドパノラマ撮影が中断されることがあります。
 - 被写体ブレ、または手ブレが大きい場合
 - カメラを動かす速度が早すぎた、または遅すぎた場合
- 撮影時にシャッターを半押ししてピント合わせをした場所の画像と、合成した他の画像で明るさや色合い、ピント位置が極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このような場合は、ピント合わせの位置を変えてみてください。
- 複数の画像を合成するため、合成後のつなぎ目が滑らかにならないことがあります。
- ちらつきのある光源（蛍光灯など）がある場所で撮影した場合、合成された画像の明るさや、色合いが一定でなくなることがあります。
- スライドパノラマ撮影時の露出とホワイトバランスは、シャッターを半押ししたときの状態に固定されます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に「」（発光禁止）になります。

超広角画像を撮影する(ワイドショット)

複数の画像を連続して撮影し、つなぎ合わせることで、搭載されているレンズの制限(ワイド端)を上回る超広角画像を撮影することができます。35mmフィルム換算で焦点距離が約14mm、または18mmの広角画像を撮影することができます。




24mm(レンズのワイド端)



18mm

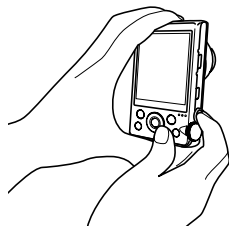
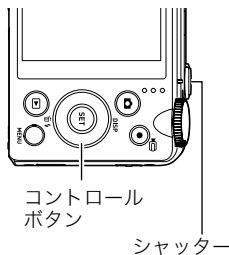


14mm

1. ベストショットモードで“ワイドショット”を選ぶ(122ページ)
2. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“” (ワイドレベル)を選ぶ
3. 【◀】【▶】で撮影したいワイドレベル(広角サイズ)を選び、【SET】を押し
“18mm”と“14mm”の2種類があります。“18mm”より“14mm”のほうが広く撮影できます。

4. コントロールボタンとシャッターの位置が下側になるように、カメラを縦に構える

- このときにレンズを地面（真下）に向けないでください。カメラ内部の縦横位置を感知するセンサーが誤動作し、撮影が開始できないことがあります。

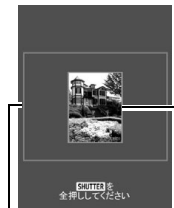


5. 画像の中央にしたい被写体にカメラを向けてシャッターを半押しし、ピントを合わせる

- 画面上の外側の青い枠までが撮影できる範囲です。



撮影予定の画像

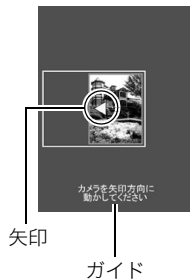


青い枠

撮影を始めるときの中央部分


6. シャッターを全押しし、画面上に表示されるガイドと矢印に従って、カメラを矢印の方向にゆっくり動かす

- カメラを両手でしっかり持ち、ガイド表示に従って水平、垂直に体を中心に弧をえがくように、ゆっくり一定の速度でスライドさせて撮影してください。
 - 左右にスライドさせるときは、体を左右に平行移動するのではなく、体を軸にして左右に撮影してください。
 - 上下にスライドさせるときは、体を上下に平行移動するのではなく、肩を軸に上下に撮影してください。
 - 斜めにスライドさせたり、ゆれたりしないようにご注意ください。
- ガイド表示が終わるまでカメラを動かすと、画像の合成が始まります。
- カメラを動かすのを止めると、自動的に画像の合成が始まります。



参考

- “14mm”や“18mm”という画角を表す数値は、あくまで参考値であり、画角自体を保証するものではありません。
- ワイドショット撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
- この機能では、画角が最大14mmまたは18mmの広角画像が撮影できますが、撮影状況によってはこの画角より狭くなることがあります。
- 以下の場合、ワイドショット撮影に適していません。
 - 電灯や太陽など、周囲と明るさの差が大きい被写体
 - 川、波、滝など、模様が常に変化する被写体
 - 空や砂浜など、似たような模様が続く被写体

- 主な被写体とカメラとの距離が近い
- 動いている被写体
- 周囲が暗い場合
- 高層ビルなど、高い建物を近くで見上げるような場合
- 以下の場合、ワイドショット撮影が中断されることがあります。
 - 被写体ブレ、または手ブレが大きい場合
 - カメラを動かす速度が早すぎた、または遅すぎた場合
 - 撮影ルートから外れた場合
 - 指定された方向に撮影しなかった場合
- 撮影時にシャッターを半押ししてピント合わせをした場所の画像と、合成した他の画像で明るさや色合い、ピント位置が極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このような場合は、ピント合わせの位置を変えてみてください。
- 複数の画像を合成するため、合成後のつなぎ目が滑らかにならないことがあります。
- ちらつきのある光源（蛍光灯など）がある場所で撮影した場合、合成された画像の明るさや、色合いが一定でなくなることがあります。
- ワイドショット撮影時の露出とホワイトバランスは、シャッターを半押ししたときの状態に固定されます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に「」（発光禁止）になります。

スナップ写真を撮影する(スナップ撮影)

シャッターを半押しした瞬間に露出が調整されて撮影されるので、撮りたいシーンを逃さずに撮影できます。日常の姿や風景を自然な状態を撮影するときに便利です。

1. ベストショットモードで“スナップ撮影”を選ぶ(122ページ)

2. シャッターを半押しする

露出が調整されて撮影されます。

- 画面左上に表示される数字(PF -〇.〇m-)付近から遠方の被写体に、ピントが合います。

参考

- この機能での撮影では、フォーカスフレームが表示されません。
- この機能での撮影では、以下の設定に固定されます。

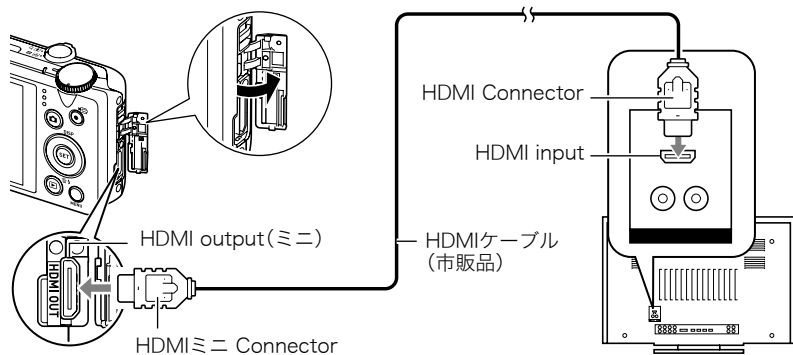
フォーカス方式	パンフォーカス
ISO感度	Auto
メイクアップレベル	0(切)
フラッシュ	発光禁止

- この機能での撮影では、ズーム操作は2倍まで拡大できます。
- 被写体が近すぎる、またはカメラを振ったり、衝撃を与えたりすると、ピントが合わないことがあります。

テレビに映しながら静止画を撮影する(HDMIテレビ出力)

液晶モニターに表示される内容をテレビに映しながら、アスペクト比が16:9の静止画を撮影できます。

1. カメラの電源を切り、市販のHDMIケーブルでカメラとテレビをつなぐ



2. カメラの電源を入れる

3. ベストショットモードで“HDMIテレビ出力”を選ぶ(122ページ)

液晶モニターの表示が消え、テレビに被写体が表示されます。

4. テレビで確認しながら、シャッターを押して撮影する

参考

- カメラとの詳しい接続方法、接続時の注意などについては、192ページをご覧ください。
- デジタルビデオ信号の形式を変更する場合は、HDMIケーブルをカメラから抜いてから行ってください(194ページ)。
- この機能での撮影は、以下の設定に固定されます。

静止画サイズ	16:9
AFエリア	スポット
コンティニュアスAF	切
顔検出	切
メイクアップレベル	0(切)
ホワイトバランス	オートWB
測光方式	マルチ

よりよい撮影のための設定(REC MENU)

本機では、メニューを操作しているいろいろな設定ができます。

- メニュー画面で操作できる機能の一部は、操作パネル(68ページ)からも設定できます。両方で設定できる機能については、操作パネルからの操作方法を別途記載していますので、該当するページをご覧ください。

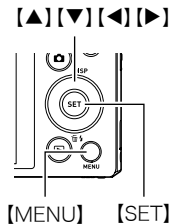
撮影設定を変更する

■ メニュー画面の操作例

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

メニュー画面(📷 REC MENU)が表示されます。

- メニューの内容は、撮影モード(📷 REC MENU)と再生モード(▶ PLAY MENU)で異なります。



2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で設定したい項目のあるタブを選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を押す

- ・ズームレバーをスライドすると、次のページが表示されます。

4. 【▲】【▼】で設定したい内容を選ぶ

- ・以下の項目の場合は、【◀】【▶】で内容を選びます。
マイクアップレベル、EVシフト、ホワイトバランス

例：“📷 REC MENU”タブ、“セルフタイマー”選択時

タブ



設定項目

5. 【SET】を押して決定する

- ・【MENU】を押すと、選んだ内容がキャンセルされ、メニュー画面に戻ります。
- ・他のタブを選ぶときは、青枠を設定項目に移動してから【◀】を押し、【▲】【▼】で切り替えたあと、【▶】を押します。
- ・【🔊】(連続撮影切替)を押すと、メニュー操作を中断し、メニューを消します。

参考


- ・撮影モードによっては、使用できないメニューがあります。プレミアムオートPROでは、設定できる機能のみメニュー画面に表示されます。

■ メニュー操作の本書記載について

本書ではメニュー操作の手順を下記のように記載します。前記の「メニュー画面の操作例」(145ページ)の操作手順を例とすると次のような表記になります。




被写体の動きを感知してセルフタイマーを動かす (モーションシャッター)

操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** →  REC MENU タブ →
モーションシャッター

液晶モニターで設定したアイコン付近でカメラが動きを感知すると、設定したタイミングで撮影できます。



設定項目	設定内容
1秒	カメラが動きを感知してから1秒後に撮影します。
0.5秒	カメラが動きを感知してから0.5秒後に撮影します。
切	モーションシャッター機能は動作しません。



1. **[▲]****[▼]**で“1秒”または“0.5秒”を選び、**[SET]**を押す
2. 撮影モードをプログラムオート、プレミアムオート PRO、またはベストショットの“いち押しショット”に設定する
 - “いち押しショット”の場合は、動画撮影はできません。
3. 静止画を撮影する場合はシャッターを、動画の場合は**[●]**(ムービー)を押すセルフタイマー起動アイコンがに変わり、撮影待機状態になります。

4. カメラに向かって手を振るなどして、セルフタイマー起動アイコン“”付近で動く

設定したアイコン付近で被写体の動きを感知すると、設定したタイミングで撮影されます。


- 動画の撮影をやめるには、再度【】(ムービー)を押してください。

参考

- 静止画の場合は、撮影後に撮影待機状態に戻ります。モーションシャッターでの静止画撮影を30回連続で撮影すると、撮影待機状態は自動的に解除されます。
- 撮影待機状態のときにシャッターを押すと、撮影待機状態は解除されます。
- アイコン付近の背景と被写体の色の差が少ないときや、被写体が離れすぎて小さいときは、正常に撮影できない場合があります。
- この機能での撮影では、AFエリアを“ 追尾”に設定できません。他のモードですでに設定していた場合は、“ スポット”で撮影されます。
- モーションシャッターで動画撮影中に、シャッターを押して静止画を撮影する(スチルインムービー)ことはできません。

動きを感知する場所を設定する(モーション位置)

操作手順: 撮影モードにする → **【MENU】** →  **REC MENU** タブ →
モーション位置

モーションシャッターで撮影時に表示されるセルフタイマー起動アイコン“”の位置を変更できます。





1. **【▲】【▼】【◀】【▶】**でアイコンの位置を変更する

2. 希望の位置に移動したら、**【SET】**を押す
アイコンの位置が変更されます。


左右キーに機能を割り当てる(左右キー)

操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** →  **REC MENU** タブ →
左右キー

[◀][▶]キーに以下の6つのうちどれか1つの機能を割り当てる(キーカスタマイズ)と、**[◀][▶]**を押すだけで割り当てた機能を変更できます。

設定項目	設定内容
 →  →  → 	ピントの合わせ方を変える → 74ページ ・ただし、“MF”(マニュアルフォーカス)は選択できません。
AFエリア	オートフォーカスの測定範囲を変える → 161ページ
測光方式	光の測りかたを変える → 170ページ
セルフタイマー	セルフタイマーの時間を設定する → 69ページ
ISO感度	ISO感度を変える → 78ページ
ホワイトバランス	色合いを調整する → 71ページ
EVシフト	明るさを補正する → 80ページ
切	[◀][▶] キーに機能を割り当てない




HDRアートでの撮影で効果なしの画像も保存する (ダブル保存(HDRアート))



操作手順: 撮影モードにする → 【MENU】 →  REC MENUタブ →
ダブル保存(HDRアート)

詳しくは101ページをご覧ください。

静止画の画像サイズを設定する(静止画サイズ)

操作手順: 撮影モードにする → 【MENU】 →  REC MENUタブ →
静止画サイズ

画素数(pixels)	撮影画面の アイコン表示	プリント時の用紙 サイズの目安や用途	特徴
16M (4608×3456)		ポスタープリント	精細な画像が得られ、トリミング (211ページ)しても画像が粗くなり にくいです。
3:2 (4608×3072)		ポスタープリント	
16:9 (4608×2592)		HDTVサイズ	

画素数(pixels)	撮影画面のアイコン表示	プリント時の用紙サイズの目安や用途	特徴
10M (3648×2736)		ポスタープリント	精細な画像が得られます。
5M (2560×1920)		A4プリント	
3M (2048×1536)		L判プリント	画質より、撮影枚数を優先したいときに有効です。
VGA (640×480)		Eメール	データ量が少ないので、Eメールに添付するのに有効です。ただし、画像は粗くなります。

- お買い上げいただいたときは、“16M”で撮影するように設定されています。
- “3:2”を選ぶと、プリント用紙の一般的な横縦の比率(3:2)に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。
- HDTVとはHigh Definition TeleVision(高精細テレビ)の略です。HDTVの画面の横縦比は16:9で、従来のテレビの画面(4:3)より横長(ワイド画面)になります。本機はこのHDTVの画面(ワイド画面)の横縦比に合わせて撮影することができます。
- プリント用紙のサイズは、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。

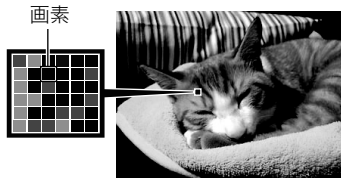
- 一部機能では画像サイズの制限があります。

16M	“HSナイトショット”では選択できません。他のモードで“16M”を選んでいた場合は、“HSナイトショット”に切り替えると“10M”になります。
3:2、 16:9	“高速連写”と“HSナイトショット”では選択できません。他のモードで“3:2”または“16:9”を選んでいた場合は、“高速連写”に切り替えると“16M”に、“HSナイトショット”に切り替えると“10M”になります。

■ 画素数と画像サイズについて

デジタルカメラの画像は、小さな点(画素・pixels)の集まりでできています。

画素数は、数が多いほど精細な写真が撮れますが、サービスサイズ(L版)へのプリント、Eメールに添付して送る、パソコンの画面で見る、などの用途では画素数が少なくても良い場合があります。その画像がいくつの画素でできているかを示すものが画像サイズで、横×縦の画素数で表します。



例:

画像サイズ	画素数
16M	4608×3456(約1600万画素)
3M	2048×1536(約300万画素)

- 画像サイズが大きいほど画素数が多くなり、メモリーに保存できる枚数が少なくなります。
- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→289ページ
- 動画の画像サイズについて→157ページ
- 撮影済み静止画の画像サイズを小さくする(リサイズ)→210ページ

静止画の画質を設定する(静止画画質)

操作手順: 撮影モードにする → 【MENU】 →  REC MENU タブ → 静止画画質


設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
高精細-F		画質を優先
標準-N		標準







- 枝や木の葉が密集しているようなきめ細かい自然画や複雑な模様を撮影するときは、“高精細-F”にすることで、緻密な画質で撮影できます。
- 画質によって、撮影できる枚数が異なります(289ページ)。

動画の画質を設定する(動画画質)

操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** →  **REC MENU**タブ → **動画画質**

動画の画質と撮影方法を設定することができます。

設定項目 (画質 (pixels))	撮影画面の アイコン表示	転送レート (フレームレート)	設定内容
FHD		14.2メガビット/秒 (30フレーム/秒)	高精細な動画(FHD動画)を撮影するときに選びます。アスペクト比が16:9の画像になります(108ページ)。
HD		10.9メガビット/秒 (15、20、30フレーム/秒)	高精細な動画(HD動画)を撮影するときに選びます。アスペクト比が16:9の画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• アートショット(98ページ)またはタイムラプス(115ページ)のアートショット系シーンでの撮影時のみ“FHD”の代わりに“HD”が選択できます。また、フレームレートはシーンによって異なります。
STD		3.9メガビット/秒 (30フレーム/秒)	標準的な動画を撮影するときに選びます。アスペクト比が4:3で撮影されません(STD動画)。

設定項目 (画質(pixels))	撮影画面の アイコン表示	転送レート (フレームレート)	設定内容
HS1000		40.0メガビット/秒 (1000フレーム/秒)	ハイスピード動画を撮影するときに選 びます。動画の画像サイズはフレーム レート(動画の撮影速度)によって異な ります(109ページ)。
HS480		40.0メガビット/秒 (480フレーム/秒)	
HS240		40.0メガビット/秒 (240フレーム/秒)	
HS120		40.0メガビット/秒 (120フレーム/秒)	
HS30-240		5.4メガビット/秒 (30フレーム/秒) 40.4メガビット/秒 (240フレーム/秒)	
HS30-120		10.4メガビット/秒 (30フレーム/秒) 40.4メガビット/秒 (120フレーム/秒)	






ISO感度を変える (ISO感度)

操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** →  REC MENUタブ → ISO感度

詳しくは操作パネルからの操作方法(78ページ)をご覧ください。

ISO感度の上限を設定する (ISO感度上限)

操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** →  REC MENUタブ → ISO感度上限

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
オート	なし	“ISO感度” (78ページ) の設定のとおりISO感度で撮影されます。
ISO 200		“ISO感度” (78ページ) の設定が“Auto(オート)” の場合、ここで選んだISO感度が上限となります。
ISO 400		
ISO 800		
ISO 1600		
ISO 3200		

参考

- “ISO感度” (78ページ) の設定が “Auto(オート)” 以外の場合は “ISO感度上限” の設定は無効となり、“ISO感度” で選択した設定で撮影されず。
- “HSナイトショット” (127ページ) では下記の中からの設定になります。
オート、ISO1600、ISO3200、ISO6400、ISO12800、ISO25600
- 下記の撮影では、“ISO感度上限” は設定できません。
プレミアムオート PRO、Mモード、ベストショット撮影の一部
- プレミアムズームの場合は、“ISO3200” に設定できません。他の撮影モードで “ISO3200” を選んでいた場合は、プレミアムズームに切り替えると “ISO1600” になります。

静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる(超解像ズーム)

操作手順: 撮影モードにする → 【MENU】 →  REC MENU タブ → 超解像ズーム

詳しくは91ページをご覧ください。

オートフォーカスの測定範囲を変更する(AFエリア)

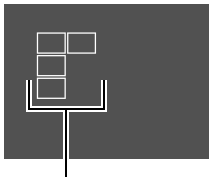
操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** → **📷 REC MENU** タブ →
AFエリア

静止画撮影時のオートフォーカスの測定範囲を変更することができます。

- 動画撮影時の設定は“**📷 スポット**”に固定になります。

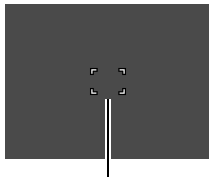
設定項目	設定内容
📷 インテリジェント	画面の中でピントを合わせるべき場所をカメラが自動的に判断し、そこへピントを合わせます(自動認識AF)。 • 顔検出(166ページ)も自動的に動作します。
📷 スポット	中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(77ページ)を活用した撮影に便利です。
📷 マルチ	シャッターを半押しすると、9つの測距点の中から、自動的に最適な測距点を選びます。ピントが合った場所のフォーカスフレームが緑色で表示されます。
📷 追尾	シャッターを半押しすると、ピントを被写体に合わせるとともに、被写体の動きに合わせてフォーカスフレームが追尾します。

“**[i]** インテリジェント”
の場合



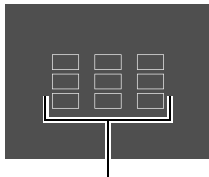
フォーカスフレーム

“**[s]** スポット”、
“**[t]** 追尾”の場合



フォーカスフレーム

“**[m]** マルチ”の場合



フォーカスフレーム



重要


- フォーカス方式(74ページ)で“MF”(マニュアルフォーカス)を選んでいると、どのAFエリアを選んででもオートフォーカスは動作しません。
- “**[t]** 追尾”で追尾しているときはレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。
- 一部のベストショット撮影では、選んだAFエリアが使用できなったり、選択できない等の制限があります。
- 顔検出(166ページ)の使用中は、“AFエリア”の設定にかかわらず、顔が検出できない場合は画面中央でピントを合わせます(**[s]** スポット)。

手ブレや被写体ブレを軽減する(手ブレ補正)

操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** →  **REC MENU**タブ →
手ブレ補正

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに画像がぼやけたり流れて見えることがあります。これはシャッターを押すときにカメラが動いたり(手ブレ)、被写体の動きが速すぎる(被写体ブレ)ことが原因です。手ブレ補正の機能を使って、このようなブレを少なくすることができます。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
強		手ブレ補正に加えて、“標準”よりもシャッター速度を速めることで、被写体ブレもさらに低減します。なお、“標準”よりもISO感度が上がる場合があります。 “強”は(高速連写を除く)プログラムオート、プレミアムオートPRO、ベストショット撮影の“HS手ブレ補正”で使用できます。
標準		手ブレ、被写体ブレを軽減します。
切	なし	ブレ軽減は行いません。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
手ブレDEMO		シャッターを半押ししている間、画面上で手ブレ補正の効果を確認することができます。ただし、実際に撮影することはできません。プログラムオート時のみ使用できます。

参考

- FHD動画/STD動画撮影時は手ブレ補正だけが動作します。
- ハイスピード動画・HDRアートムービー・タイムラプス撮影時は手ブレ補正機能は動作しません。
- “手ブレ補正”を使用時に“ISO感度”を“Auto”(78ページ)にしていたときは、シャッターを半押ししても、画面上にISO感度、絞り、シャッター速度が表示されません(撮影直後の画像確認画面に表示されません)。
- “手ブレ補正”を使用して撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
- 手ブレや被写体ブレが大きい場合、ブレを軽減できない場合があります。
- 三脚使用時は、手ブレ補正が正常に動作しません。“手ブレ補正”の設定を“切”に設定してください。
- “手ブレ補正”を“強”に設定しても、撮影状況によっては効果がない場合があります。

画像の明るさを最適化する(ライティング)

操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** → **📷 REC MENU** タブ → **ライティング**

明るい所と暗い所の明るさのバランスを最適に調整して撮影できます。

設定項目	設定内容
入	明るさが補正されます。ただし撮影後、画像の保存までに時間がかかります。
切	明るさの補正は行いません。

参考

- 動画撮影時は、ライティング機能は無効になります。

常にオートフォーカスを動作させる(コンティニュアスAF)

操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** → **📷 REC MENU** タブ → **コンティニュアスAF**

“入”にすると、静止画撮影時はシャッターを半押しするまで常にオートフォーカス動作を行い、ピントを合わせ続けます。

- シャッターを半押しする前は画面の中央にピントを合わせ続けます。シャッターの半押し中は、“顔検出”が“入”の場合は顔検出したエリアにピントを合わせます。
- コンティニュアスAFで撮影中はレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。

人物の顔にピントと明るさを合わせて撮影する(顔検出)

操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** → **📷 REC MENU**タブ → **顔検出**
人物を撮影するときに、一度に最大10人まで人物の顔を検出し、ピントと明るさを合わせて撮影します。

1. [▲][▼]で“入”を選び、[SET]を押す

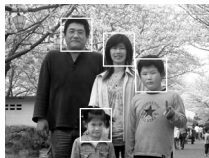
2. 人物にカメラを向ける

人物の顔を検出すると、顔にフレームが表示されます。

3. シャッターを半押しする

ピントと明るさが合った顔に、緑色のフレームが表示されます。

4. シャッターを全押しして撮影する



よりよい顔検出撮影のために

- 顔が検出できない場合は、中央にピントを合わせます。
- フォーカス方式は必ずオートフォーカス(AF)となります。
- 次のような場合、顔が検出できません。
 - 顔の一部が頭髮、サングラス、帽子などでさえぎられている人物、または顔に濃い影が落ちている人物
 - 顔が横を向いていたり斜めに傾いていたりする人物
 - 距離が遠すぎて顔が小さすぎる人物、または距離が近すぎて顔が大きすぎる人物
 - 極端に暗い場所での人物
 - ペットなど人物以外の被写体

重要

- 下記の撮影では、顔検出撮影はできません。
 - ベストショット撮影の一部
 - アートショットの一部
 - 動画撮影(ハイスピード動画撮影を行う一部のベストショットを含む)
 - 高速連写でパスト連写を行っているとき(高速連写撮影を行う一部のベストショットを含む)
- “顔検出”を使用すると“フォーカス方式”は必ず“AF”(オートフォーカス)に固定されます。“フォーカス方式”を切り替えたいときは“顔検出”を“切”にしてください。

デジタルズームを設定する(デジタルズーム)

操作手順: 撮影モードにする → 【MENU】 →  REC MENUタブ → デジタルズーム

デジタルズーム(86ページ)を使用したいときは“入”にしてください。

- 下記の撮影では、デジタルズームは使用できません。
 - ハイスピード動画撮影中、ベストショット撮影の一部

動画撮影時の風の音を低減する(風音低減)

操作手順: 撮影モードにする → 【MENU】 →  REC MENUタブ → 風音低減

動画撮影時に録音される風の音を低減したいときは“入”にしてください。ただし、音質が多少変化します。

人物の顔を美しく撮影する(メイクアップレベル)

操作手順: 撮影モードにする → 【MENU】 →  REC MENUタブ → メイクアップレベル

詳しくは操作パネルからの操作方法(79ページ)をご覧ください。

明るさを補正する(EVシフト)

操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** →  REC MENUタブ → EVシフト

詳しくは操作パネルからの操作方法(80ページ)をご覧ください。

色合いを調整する(ホワイトバランス)

操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** →  REC MENUタブ → ホワイトバランス

詳しくは操作パネルからの操作方法(71ページ)をご覧ください。

ピントの合わせ方を変える(フォーカス方式)

操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** →  REC MENUタブ → フォーカス方式

詳しくは操作パネルからの操作方法(74ページ)をご覧ください。

セルフタイマーを使う(セルフタイマー)

操作手順: 撮影モードにする → 【MENU】 →  REC MENUタブ → セルフタイマー

詳しくは操作パネルからの操作方法(69ページ)をご覧ください。

光の測りかたを変える(測光方式)

操作手順: 撮影モードにする → 【MENU】 →  REC MENUタブ → 測光方式

詳しくは操作パネルからの操作方法(85ページ)をご覧ください。

フラッシュの明るさを変える(フラッシュ光量)

操作手順: 撮影モードにする → 【MENU】 →  REC MENUタブ → フラッシュ光量

+2(フラッシュの明るさが最も強い)から-2(フラッシュの明るさが最も弱い)までの5段階から選べます。

- 被写体が遠すぎたり近すぎたりする場合、強さが変わらないことがあります。

鮮鋭さを変える(シャープネス)

操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** →  REC MENUタブ → シャープネス

+2(もっとも鮮鋭度が高い)から-2(もっとも鮮鋭度が低い)までの5段階から選べます。

色の鮮やかさを変える(彩度)

操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** →  REC MENUタブ → 彩度

+2(色の鮮やかさがもっとも高い)から-2(色の鮮やかさがもっとも低い)までの5段階から選べます。

明暗の差を変える(コントラスト)

操作手順: 撮影モードにする → **[MENU]** →  REC MENUタブ → コントラスト

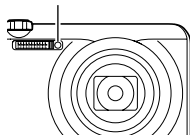
+2(明暗の差がもっとも大きい)から-2(明暗の差がもっとも小さい)までの5段階から選べます。

ピント合わせを補助するライト (AF補助光)

操作手順: 撮影モードにする → 【MENU】 →  REC MENUタブ → AF補助光

暗い場所での撮影のときなど、ピント合わせをしやすいするために、シャッター半押し時に必要に応じて前面ランプがAF補助光として発光します。至近距離で人物撮影をするときなどは“切”に設定することをおすすめします。

前面ランプ



重要

- 前面ランプをのぞいたり、人の目に当てないでください。
- 前面ランプに指がかからないようにしてください。

撮影直後の画像を表示する (撮影レビュー)

操作手順: 撮影モードにする → 【MENU】 →  REC MENUタブ → 撮影レビュー

撮影直後の画像が、約1秒間表示されます。

タイプ1	撮影した画像が、液晶モニターの全面に表示されます。
タイプ2/タイプ3	撮影した画像が、液晶モニターの一部に表示されます。タイプによって撮影レビューが出るときや消えるときの効果が異なります。
切	撮影した画像は表示されません。

- “撮影レビュー”を“タイプ1”にした場合、一部の機能での撮影では、シャッターを押したあとに“処理中です しばらくお待ちください”とメッセージが表示され、メッセージ表示中は撮影できなくなります。処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。
- 撮影モードによって、撮影レビューが表示されない場合があります。
- 高速連写、AF連写、トリプルショットで“タイプ1”を選んでも、“タイプ2”で撮影レビューが表示されます。
- ダブル保存(HDRアート)を“入”にしてアートショットを撮影した場合は、アート効果がかかった画像と通常の画像の両方が表示されます。

画面上のアイコンの意味を確認する(アイコンガイド)

操作手順: 撮影モードにする → [MENU] →  REC MENUタブ → アイコンガイド

“入”にすると、各種撮影機能を切り替えるときに、アイコンの意味が表示されます。

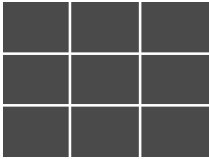
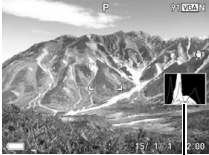
アイコンの意味を確認できる機能

- 撮影モード
- “左右キー”で設定できる項目
- シャッター半押し時の露出警告

撮影時の液晶モニター表示を変更する(アシスト表示)

操作手順: 撮影モードにする → 【MENU】 →  REC MENU タブ → アシスト表示

撮影時に、液晶モニターにグリッドやヒストグラム、動画撮影範囲を表示します。

グリッド	<p>“入”にすると、液晶モニターに基準線が表示されます。カメラを水平や垂直に保つ目安線になります。</p>	
ヒストグラム	<p>“入”にすると、液晶モニターにヒストグラムが表示されます。露出を確認しながら撮影できます。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none">フラッシュ撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムでチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。ハイスピード動画の撮影時は、ヒストグラムは表示されません。	 <p>ヒストグラム</p>

動画撮影範囲

“入”にすると、液晶モニターに半透明のグレーの枠が表示されます。動画の場合は、枠の内側の範囲で撮影されます。



半透明のグレーの枠

■ ヒストグラムの見かた

ヒストグラム(輝度成分分布表)とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。ヒストグラムが片寄っていた場合は、露出補正(EVシフト)すると、ヒストグラムを左右に移動させることができます。グラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。さらに静止画ではR(赤)、G(緑)、B(青)の色成分が独立したヒストグラムも同時に表示されるので、色ごとのオーバー・アンダー状況を把握することができます。

典型的なヒストグラムの例

全体的に暗い画像は左寄りのヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎていると、黒つぶれを起こしている可能性もあります。



全体的に明るい画像は右寄りのヒストグラムになります。右に寄り過ぎていると、白飛びを起こしている可能性もあります。



全体的に適切な明るさの画像は中央寄りのヒストグラムになります。



参考

- 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となるわけではありません。
- 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。

各種設定を記憶させる(モードメモリー)

操作手順: 撮影モードにする → [MENU] →  REC MENUタブ →
モードメモリー

“入”にすると電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。“切”にすると電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機能	切(初期設定)	入
高速連写	切	最後の状態
フラッシュ	オート	
フォーカス方式	AF	
ISO感度	Auto	
ホワイトバランス	オートWB	
EVシフト	0.0	
AFエリア	スポット	
測光方式	マルチ	
セルフタイマー	切	
フラッシュ光量	0	
超解像ズーム	シングル	
デジタルズーム	入	
MF位置	MF(マニュアルフォーカス)に切り替える 前の位置	
ズーム位置※	ワイド端	

※ズーム位置では光学ズームの位置だけを記憶します。

静止画や動画を再生する

撮影した静止画を見る

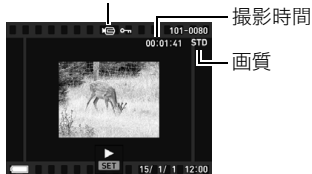
操作方法については59ページを参照してください。

撮影した動画を見る

1. **【▶】**(再生)を押して、**【◀】****【▶】**で再生したい動画(ムービー)を表示させる
2. **【SET】**を押して、再生を始める

動画のアイコン:

▶ / **▶** (タイムラプス)



動画の再生中にできること

早送り/早戻しする	【◀】 【▶】 <ul style="list-style-type: none">• 押すごとに、早送り、早戻しのスピードが速くなります。• 通常の再生に戻るときは【▼】を押します。
再生と一時停止を切り替える	【SET】

一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】 <ul style="list-style-type: none"> 押し続けると、連続してコマ送りします。
音量を調節する	【▼】 を押したのち 【▲】【▼】 を押す <ul style="list-style-type: none"> 音量調節は、再生中にだけできます。
情報表示のあり/なしを切り替える	【▲】 (DISP)
ハイスピード動画の再生中に通常の動画の再生速度にする	【●】 (ムービー) <ul style="list-style-type: none"> 再度【●】(ムービー)を押すと、もとのスロー再生の速度に戻ります。ただし、“HS30-120”、“HS30-240”で撮影した画像はできません。
拡大する	ズームレバーを 【Q】 (Q)側にスライド <ul style="list-style-type: none"> 拡大中は、【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大部分を移動できます。動画は4.5倍まで拡大できます。
再生をやめる	【MENU】

- このカメラで撮影した動画以外は、再生できない場合があります。
- “回転表示”(209ページ)や“縦画像回転再生”(252ページ)で回転させた状態の動画は、拡大できません。

撮影したパノラマ画像を見る

1. **【▶】**(再生)を押して、**【◀】****【▶】**で再生したいパノラマ画像を表示させる
2. **【SET】**を押して、パノラマ画像を再生する
パノラマ画像が、左右または上下にスクロールして再生されます。



再生中にできること

再生と一時停止を切り替える	【SET】
一時停止中にコマ送りする	【◀】 【▶】 (スライド方向が右方向、左方向の場合) 【▲】 【▼】 (スライド方向が上方向、下方向の場合) • 押し続けると、連続してコマ送りします。
情報表示のあり/なしを切り替える	【▲】 (DISP)
再生をやめる	【MENU】

- パノラマ画像は下記の機能が使用できません。
モーションプリント、ムービーカット、トリミング、リサイズ、ライティング、ホワイトバランス、明るさ編集、回転表示

連写した静止画を見る

本機では、1回の連写で撮影した複数の画像は1つのグループにまとまった形(連写グループ)で再生されます。

1. 【▶】(再生)を押して、【◀】【▶】で再生したい連写グループを表示させる





2. 【SET】を押して、連写画像を再生する

表示中の画像番号/グループ内の画像総数



※ “高速連写”で撮影した画像の場合に表示されます。

再生中にできること

【◀】【▶】	再生中は再生方向と再生スピードの調整 一時停止中はコマ送り、コマ戻し ・画像の拡大中は再生スピードの調整はできません。
【SET】	一時停止、再生の切り替え
ズームレバー	拡大、縮小 ・拡大中は、【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大部分を移動できます。 ・拡大していないときにズームレバーを【  】(【  】)側にスライドさせると、この連写グループ内の画像を一覧表示します。
【MENU】	連写グループの再生終了
【▲】(DISP)	情報表示の切り替え
【▼】	“連写フレーム編集”メニューの表示

連写画像の消去

再生中または一時停止中に消去できます。

■ 1ファイルずつ消去する

1. 連写画像を再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す
“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す

3. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させる

4. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す

- 続けて別のファイルを消去する場合は手順3~4を繰り返します。
- 消去をやめるには、【MENU】を押してください。

■ 選択したファイルを消去する

1. 連写画像を再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“選択フレーム消去”を選び、【SET】を押す

消去ファイル選択用の一覧画面が表示されます。

4. 【▲】【▼】【◀】【▶】で消去したいファイルに青枠を移動し、【SET】を押す

- 選択したファイル左下の□にチェックが入り、青枠が次の画像に移動します。
 - ズームレバーを【◀】(Q)側にスライドさせると画像を拡大して表示します。
-

5. 消去したいファイルの選択が終了したら、【MENU】を押す

6. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

- 選択したファイルが消去されます。
- 消去をやめるには、手順6で“いいえ”を選び、【SET】を押してください。

■ 連写グループ内のすべてのファイルを消去する

1. 連写画像を再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“グループ内全消去”を選び、【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

連続画像をグループ解除する(連写グループ解除)

グループ内の画像を通常の静止画のように1枚ずつの画像にできます。

■ 1グループずつグループ解除する

1. 再生モードにして、【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“▶ PLAY MENU”タブを選んで【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“連写グループ解除”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“選択ファイル”を選び、【SET】を押す

5. 【◀】【▶】でグループ解除したい連写グループを表示する

6. 【▲】【▼】で“解除”を選び、【SET】を押す
 - ・ 続けて別のファイルを解除する場合は手順5～6を繰り返します。

■ すべてのグループを解除する

重要

・一度、連写グループを解除すると再グループ化はできません。

1. 再生モードにして、【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“▶ PLAY MENU”タブを選んで【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“連写グループ解除”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“全ファイル”を選び、【SET】を押す

5. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

連写画像をコピーする(コピー)

連写画像内の画像を1枚ずつ選んでグループ外にコピーすることができます。

1. 連写画像を再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す
“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“コピー”を選び、【SET】を押す

3. 【◀】【▶】でグループ外にコピーしたいファイルを表示させる

4. 【▲】【▼】で“コピー”を選び、【SET】を押す

参考

- 連写グループ内の静止画は下記の機能が使用できません。“コピー”で1枚の静止画として保存してから下記の機能をご使用ください。
ホワイトバランス、明るさ編集、トリミング、回転表示、リサイズ

画像を拡大して表示する

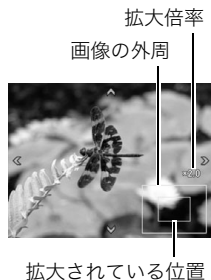
1. 再生モードにして【◀】【▶】で再生したい画像を表示させる

2. ズームレバーを【(Q)】(Q)側にスライドさせて、画像を拡大表示させる

【▲】【▼】【◀】【▶】で、拡大表示される位置を変えることができます。ズームレバーを【(M)】側にスライドさせると、縮小表示されます。

- 液晶モニターに情報を表示しているときは、画像の右下に拡大されている位置が表示されます。
- 元の表示に戻るには【MENU】を押します。
- 最大8倍まで拡大できますが、画像のサイズによっては、8倍まで拡大できないことがあります。
- 拡大中に【SET】を押すと、静止画拡大倍率を保ったまま、【◀】【▶】で次の画像を見ることができます。もう一度【SET】を押すと、画像の拡大表示される位置を移動できる状態へ戻ります。

ただし、この機能は連写した画像や動画では使用できません。また、拡大した状態での【◀】【▶】では連写した画像、動画が表示されません。



画像を一覧表示する

1. 再生モードにしてズームレバーを【】(【】)側にスライドさせる

【▲】【▼】【◀】【▶】を押していくと、前後の画像を表示します。通常表示(1枚表示)で見たいときは【▲】【▼】【◀】【▶】を押して、見たい画像に枠を合わせて【SET】を押します。

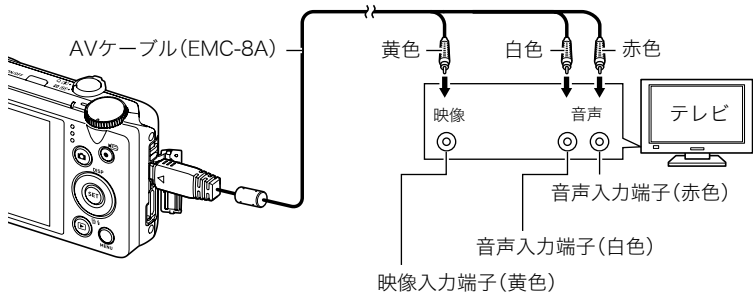
- 動画や連写した画像は先頭の画像が表示されます。
- 再生できない画像には“?”が表示されることがあります。



テレビで静止画や動画を見る

1. 別売品のAVケーブル(EMC-8A)でカメラとテレビをつなぐ

- カメラとの詳しい接続方法、接続時の注意などについては、36ページをご覧ください。



- ケーブルの抜き差しは、カメラ本体の電源を切ってから行ってください。テレビは、テレビの取扱説明書に従って設定をしてから、ケーブルの抜き差しを行ってください。

2. テレビの映像入力を“ビデオ入力”に切り替える

テレビに映像入力が2つ以上ある場合は、カメラをつないだ映像入力を選んでください。

3. 電源を入れ、【▶】(再生)を押す

テレビの画面に画像が表示されます(液晶モニターには何も表示されません)。

- 画面の横縦比とビデオ出力の方式を変更できます(258ページ)。

4. 以後、カメラで再生の操作を行う

重要

- 音声は最大で出力されます。はじめにテレビの音量を小さくしておき、テレビ側で音量を調節してください。

参考

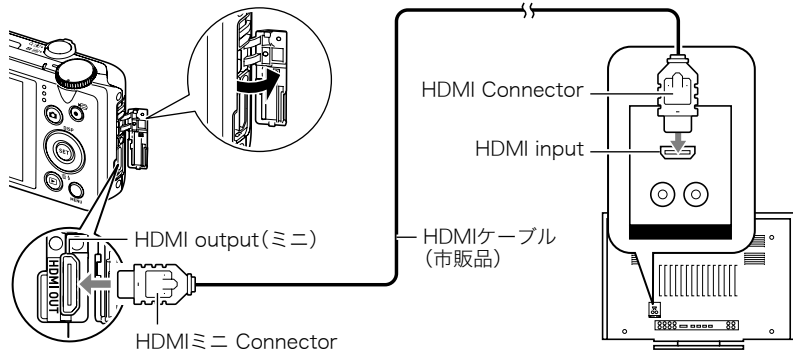
- 音声はステレオになります。
- お使いのテレビによっては、映像や音声が出ないことがあります。
- 液晶モニターに表示されるアイコンなどは、そのままテレビ画面に表示されます。また、【▲】(DISP)で表示内容を切り替えることもできます。
- 撮影時にテレビにカメラを接続すると、液晶モニターの表示が消え、テレビに映像が表示されます。ただし、“ワイドショット”(138ページ)の撮影時のみ、映像はテレビには表示されず、液晶モニターに表示されます。いずれの状態でも撮影は可能です。

ハイビジョンテレビで高画質で見たいときは

市販のHDMIケーブルでカメラとテレビをつなぎます。再生の方法は191ページの手順2以降の操作をご覧ください。

- HDMIケーブル(市販品)は右記のロゴのあるものをお使いください。

HDMI™
HIGH DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE



重要

- 撮影モードではテレビ出力できません。

参考

- カメラ本体側はHDMIミニConnector、テレビ側はテレビのHDMI Connectorに合ったHDMIケーブルをご使用ください。
- 一部の機器では、映像や音声がでないなど正常に動作しない場合があります。
- カメラ本体と接続機器のHDMI output(出力端子)同士での接続は故障の原因となりますので行わないようにしてください。
- ケーブルの抜き差しは、カメラ本体の電源を切ってから行ってください。テレビは、テレビの取扱説明書に従って設定をしてから、ケーブルの抜き差しを行ってください。
- USB/AV端子とHDMI output(出力端子)の両方にケーブルが差し込まれている場合は、HDMI output(出力端子)を優先に出力します。
- HDMI出力を行わない場合は、接続したHDMIケーブルを抜いてください。カメラ本体の表示が正常に動作しない場合があります。
- 音声はステレオになります。
- 音声は最大で出力されます。はじめにテレビの音量を小さくしておき、テレビ側で音量を調節してください。

■ HDMI出力の出力方法を変える (HDMI出力)

操作手順: 【MENU】→ SETTINGタブ→HDMI出力

HDMIケーブルでテレビに接続するときのデジタルビデオ信号の形式が変更できます。

オート	接続したテレビに合った形式に自動的に切り替わります。 通常はこの設定でご使用ください。
1080i	1080i形式で出力します。*
480p	480p形式で出力します。
576p	576p形式で出力します。

※1080iは、1080 60iに対応していますが、1080 50iには対応していません。そのため、1080iの60iに対応していないPAL受信地域でのデジタルTVをご使用の際には、576p出力となる場合があります。PAL受信地域で、オートで表示されない場合は、576pに設定を変更してください。

- “オート”でテレビに表示されない場合には、テレビに合わせて他の設定に変更してください。


重要

- テレビとカメラがHDMIケーブルで接続された状態では“HDMI出力”の設定は変更できません。いったんカメラからHDMIケーブルを抜いて“HDMI出力”の設定を変更してください。

カメラの画像をDVDレコーダーやビデオデッキに録画する

例として、AVケーブル(別売品)を次のように接続します。

- DVDレコーダーやビデオデッキ側:映像入力端子、音声入力端子
- カメラ側:USB/AV接続端子

このとき、カメラでスライドショーを実行すれば、静止画や動画を記録した思い出のDVDやビデオテープが簡単に作れます。スライドショーの設定を“のみ”にすれば、動画だけの録画もできます(196ページ)。

DVDレコーダーやビデオデッキから出力される画像の見方や録画方法については、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。





再生時のその他の機能(PLAY MENU)



ここでは再生モードで操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

メニューの操作方法については、145ページをご覧ください。

自動的にページ送りして楽しむ(スライドショー)

操作手順: **[▶]**(再生) → **[MENU]** → **[▶]** PLAY MENUタブ →
スライドショー

開始	スライドショーを開始します。
表示画像	スライドショーで再生させるものを選びます。 全画像: 静止画、動画、連写画像  除く全画像: 連写画像以外の画像  のみ: 静止画のみ  のみ: 動画のみ  のみ: タイムラプスのみ
時間	スライドショー開始から終了までの時間を設定します。 3分、5分、10分、15分、30分、60分

間隔	<p>切り替わりの間隔を設定します。 1秒、3秒、5秒、10秒、15秒、20秒、30秒、または“最速”を【▲】【▼】で選びます。</p> <p>“最速”以外を選ぶと、動画は最初から最後まで再生されます。 “最速”を選ぶと、動画は最初の1コマだけ表示されます。</p>
エフェクト	<p>希望のエフェクト(特殊効果)を選びます。 パターン1~5:特殊効果をまじえながら画像を切り替えて表示します。 BGMも再生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • “パターン2~4”の特殊効果は同じですが、BGMがそれぞれ異なります。 • “パターン5”は静止画(連写画像、動画を除く)のみの再生となります。また“間隔”の設定も無効になります。 • 下記の場合は、特殊効果が無効になります。 <ul style="list-style-type: none"> - 表示画像を“のみ”または“のみ”にした場合 - 間隔を“最速”、“1秒”にした場合 - 動画の再生の前後 - 連写グループ再生時(パターン1を除く) <p>切:特殊効果とBGMの再生をしません。</p>

- 【SET】を押すとスライドショーを中断します。また、【MENU】を押すと中断してメニューに戻ります。
- 音量を調節するには、再生中に【▼】を押したのち【▲】【▼】を押します。
- 画面の切り替え中はボタン操作ができません。
- 本機以外で撮影した画像では、切り替わる間隔が長くなる場合があります。

好みのBGMをパソコンからメモリーへコピーする

スライドショーの“エフェクト”を実行したときの内蔵BGMを、好みのBGMに切り替えることができます。

使用可能なファイル

- PCM形式(16ビット、モノラル/ステレオ)のWAVファイル
- サンプリング周波数: 11.025kHz/22.05kHz/44.1kHz

使用可能なファイル数:9ファイル

ファイル名:SSBGM001.WAV~SSBGM009.WAV

- パソコンには、上記の名称で保存してください。
- どのエフェクトパターンを選んでも、切り替えたBGMをファイル名の順で繰り返し連続再生します。

1. カメラとパソコンを接続する(228、236ページ)

メモリーカードにBGMファイルを入れたいときは、あらかじめカメラにメモリーカードを入れておいてください。

2. 次のように操作して、メモリーカードまたは内蔵メモリーを開く

「リムーバブルディスク(ドライブ)」として認識します。

- Windows
 - ① Windows 8: “デスクトップ” → “エクスプローラー”の順でクリック
Windows 7/Windows Vista: “スタート” → “コンピューター”の順でクリック
Windows XP: “スタート” → “マイコンピュータ”の順でクリック
 - ② “リムーバブルディスク”をダブルクリック
- Macintosh
 - ① 表示されたドライブをダブルクリックする

3. “SSBGM”フォルダーを作成する

4. 作成した“SSBGM”フォルダーをダブルクリックし、好みのBGMファイルをコピーする

- ファイルのコピーのしかたは、パソコンに付属の取扱説明書を参照してください。
- メモリーカードと内蔵メモリーの両方にBGMファイルを入れた場合は、メモリーカードが優先されます。
- フォルダーについては245ページを参照してください。

5. カメラをパソコンから取り外す(231、237ページ)

動画から静止画を作成する(モーシヨンプリント)

操作手順: **【▶】**(再生)→素材にしたい動画を表示→**【MENU】**→
▶ PLAY MENUタブ→モーシヨンプリント

1. **【◀】【▶】**で静止画にしたい場面を探す
【◀】【▶】を押し続けると、早戻し/早送りができます。
2. **【▲】【▼】**で“作成”を選び、**【SET】**を押す
 - このカメラで撮影した動画以外は、モーシヨンプリントできません。

動画をカットする(ムービーカット)

操作手順: **【▶】**(再生)→カットしたい動画を表示→**【MENU】**→
▶ PLAY MENUタブ→ムービーカット

以下の3通りの方法で動画の一部をカット(削除)できます。

前をカット	選択した場面から前をカットします。
中間をカット	選択した場面と場面の間をカットします。
後をカット	選択した場面から後をカットします。

1. 【▲】【▼】でカット方法を選び、【SET】を押す

2. 以下の操作で、カットしたい位置(境界のコマ)を探す

【◀】【▶】	再生中は、再生方向と再生スピードの調整 一時停止中はコマ送り、コマ戻し
【SET】	一時停止、再生切り替え



カットされる範囲
(青い部分)

3. カットしたい位置が決まったら、【▼】を押す

前をカット	カットしたい最後の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す
中間をカット	① カットしたい先頭の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す ② カットしたい最後の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す
後をカット	カットしたい先頭の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す

4. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

カットには、しばらく時間がかかります。“処理中です しばらくお待ちください”の表示が消えるまで待ってください。カットする動画が長いときは時間がかかることがあります。

重要

- カット編集すると、元の動画は残りません。一度カットすると、カットした場面を元に戻すことはできません。

参考

- 5秒未満の短い動画は、カットできません。
- このカメラで撮影した動画以外は、ムービーカットできません。
- カットしようとしている動画ファイルよりも残りのメモリー容量が少ない場合は、ムービーカットできません。不要なファイルを消去するなどして、残りのメモリー容量を増やしてください。
- 動画を二つに分けたり、二つの動画の一つにすることはできません。
- 動画再生中に【SET】を押して一時停止し、【▼】を押してカットすることもできます。

2つの動画をつなぎ合わせて1つの動画にする(ムービー結合)

操作手順: **【▶】(再生) → 結合させたい動画を表示 → 【MENU】 →
▶ PLAY MENUタブ → ムービー結合**

再生時間が10分未満で、動画画質とフレームレートが同じ2つの動画をつなぎ合わせて、1つの動画に加工できます。ただし、ハイスピード動画は、結合できません。

1. 【◀】【▶】で結合したい動画を選ぶ

【MENU】を押す前に表示していた動画に結合できる動画だけが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“作成”を選び、【SET】を押す

手順1で選んだ動画が、【MENU】を押す前に表示していた動画の後に結合されます。

- 結合する前の2つの動画は、元のまま残ります。

参考

- 動画画質がFHDまたはHDの場合、撮影モードやシーンによってフレームレートが異なるため(157ページ)、選んだ動画によっては結合できないことがあります。
- 本機以外のカメラで撮影した動画は、結合できません。
- 結合前の動画も残るので、空き容量が十分にあるメモリーカードを使用してください。
- 動画によっては、結合に時間がかかることがあります。

画像の明るさを最適化する(ライティング)

操作手順: **【▶】(再生) → 静止画を表示 → 【MENU】 →**
▶ PLAY MENUタブ → ライティング

撮影した画像の明るい所と暗い所の明るさのバランスを+2(明るい)から0(補正なし)で調整できます。







参考

- 撮影時にライティング補正をした方が、より良好な結果が得られます(165ページ)。
- 補正した画像は、補正する前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の色味を変える(ホワイトバランス)

操作手順: **[▶]**(再生)→静止画を表示→**[MENU]**→
▶ PLAY MENUタブ→ホワイトバランス

撮影した静止画像の色味を、さまざまな光源下で撮影したような色味に変えることができます。

 太陽光	晴天時の野外で撮影したような色味
 曇天	薄雲～雨天の野外や木陰などで撮影したような色味
 日陰	ビルや木の陰など極端に色温度が高いところで撮影したような色味
 昼白色	白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
 昼光色	昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
 電球	電球の雰囲気を通して撮影したような色味
キャンセル	色味の変更を中止

参考

- 撮影時にホワイトバランスを補正することもできます(71ページ)。
- 補正前の画像はそのまま残ります。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の明るさを変える(明るさ編集)

操作手順: **【▶】(再生)** → 静止画を表示 → **【MENU】** →
▶ PLAY MENUタブ → 明るさ編集

+2(画像がもっとも明るい)から-2(画像がもっとも暗い)までの5段階から選べます。

参考

- 補正前の画像はそのまま残ります。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。


印刷する画像を選ぶ(プリント設定)

操作手順: **【▶】(再生)** → 静止画を表示 → **【MENU】** →
▶ PLAY MENUタブ → プリント設定(DPOF)

詳しくは219ページをご覧ください。

ファイルを消去できないようにする(プロテクト)

操作手順: **[▶](再生)**→**[MENU]**→**▶ PLAY MENU**タブ→**プロテクト**

選択ファイル	<p>ファイルごとにプロテクトをかけます。</p> <p>① [◀][▶]でプロテクトをかけたいファイルを選ぶ</p> <ul style="list-style-type: none">・ズームレバーをスライドすると、1枚表示に切り替わります。 <p>② [SET]を押す</p> <p>プロテクトがかかり、“On”が表示されます。</p> <p>③ 続けて別のファイルにプロテクトをかける場合は手順①、手順②を繰り返す</p> <p>プロテクトの設定をやめるには、[MENU]を押します。プロテクトを解除するにはプロテクトがかかっているファイルを選び、[SET]を押します。</p>	
全ファイル	<p>すべてのファイルにプロテクトをかけます。</p> <p>① [▲][▼]で“全ファイル オン”を選び、[SET]を押す</p> <p>② [MENU]を押す</p> <p>すべてのファイルのプロテクトを解除するには、手順①で“全ファイル オフ”を選んで[SET]を押します。</p>	

重要

- ・プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(259ページ)を行うと、消去されてしまいます。

■ 連写グループ内の画像ごとにプロテクトする

連写グループ内の画像を1枚ずつ選んで消去できないようにすることができます。


1. 連写画像を再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“プロテクト”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“選択フレーム”を選び、【SET】を押す

4. 【◀】【▶】でプロテクトしたい画像を選び、【SET】を押す

プロテクトがかかり、“”が表示されます。

- ズームレバーをスライドすると、1枚表示に切り替わります。
- プロテクトを解除するには、プロテクトがかかっているファイルを選んで【SET】を押します。
- この操作を終えるには【MENU】を押します。

重要

- プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(259ページ)を行うと、消去されてしまいます。

■ 連写グループ内のすべての画像をプロテクトする

連写グループ内のすべての画像が消去できないようにすることができます。


1. 連写画像を再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“プロテクト”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“グループ内全フレーム”を選び、【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で“全フレーム オン”を選び、【SET】を押す

プロテクトがかかり、“”が表示されます。

- すべてのファイルのプロテクトを解除するには、“全フレーム オフ”を選んで【SET】を押します。

重要

- プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(259ページ)を行うと、消去されてしまいます。

撮影画像の日時を修正する(日時編集)

操作手順: **【▶】(再生)** → 静止画を表示 → **【MENU】** →
▶ PLAY MENUタブ → 日時編集

【▲】【▼】	カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】	カーソル(選択枠)を移動します。

日時を変更した後は“決定”にカーソルを合わせ、**【SET】**を押して修正結果を確定させます。
• 12時間表示と24時間表示を切り替えるには、“am(pm)” / “24h”にカーソルを合わせ、
【▲】【▼】を押します。

参考

- タイムスタンプ機能(251ページ)で写し込んだ日付と時刻は修正できません。
- プロテクトのかかったファイルは、日時を修正できません。
- 入力できる日付は、1980年~2049年です。

画像を回転させる(回転表示)

操作手順: **【▶】(再生)** → 静止画または動画を表示 → **【MENU】** →
▶ PLAY MENUタブ → 回転表示

1. **【▲】【▼】**で“回転”を選び、**【SET】**を押す
【SET】を押すごとに、90° 左回りに回転します。

2. 希望の表示状態になったら【MENU】を押す

参考

- 連写画像はグループ単位で一括して回転されます。連写グループ内の画像を個別に回転することはできません。
- パノラマ画像は回転できません。
- 画像データそのものが回転するわけではありません。液晶モニターでの表示のしかたを変えているだけです。
- プロテクトをかけた画像、拡大表示された画像を回転させることはできません。
- 画像一覧表示では、回転前の画像が表示されます。

画像サイズを小さくする(リサイズ)

**操作手順: 【▶】(再生) → 静止画を表示 → 【MENU】 →
▶ PLAY MENUタブ → リサイズ**

撮影した静止画のサイズを小さくして、新しい静止画として保存できます。元の静止画も残ります。リサイズ後の画像は10M/3M/VGAの3種類が選択できます。

- “3:2”、“16:9”の画像をリサイズすると、画像の両脇が削られ、画像の横縦比が4:3になります。
- リサイズした静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。

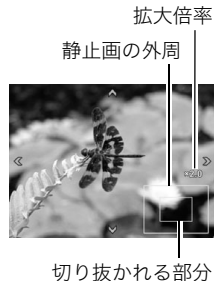
静止画の一部を切り抜く(トリミング)

操作手順: **【▶】(再生) → 静止画を表示 → 【MENU】 →
▶ PLAY MENUタブ → トリミング**

撮影した静止画の一部を切り抜いて、新しい静止画として保存
できます。元の静止画も残ります。

ズームレバーで静止画を拡大/縮小、**【▲】【▼】【◀】【▶】**で表示
位置を変えるなどして、切り抜く部分を決めて**【SET】**を押しま
す。

- “3:2”、“16:9”の画像をトリミングすると、画像の横縦比が
4:3になります。
- トリミング後の静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付
になります。



ファイルをコピーする(コピー)

操作手順: **【▶】(再生)** → 静止画または動画を表示 → **【MENU】** →
▶ PLAY MENU タブ → **コピー**

内蔵メモリーからメモリーカードへ、またはメモリーカードから内蔵メモリーへ、ファイルをコピーすることができます。

内蔵 → カード	内蔵メモリーからメモリーカードにコピーします。 この操作では、すべてのファイルがコピーされます。1ファイルずつ指定してコピーすることはできません。
カード → 内蔵	カード内のファイルをひとつずつ内蔵メモリーにコピーできます。ファイルは、内蔵メモリーの一番大きい番号のフォルダーにコピーされます。 ・ 連写グループ画像はコピーできません(187ページ) ① 【◀】【▶】 でコピーしたいファイルを選ぶ ② 【▲】【▼】 で“コピー”を選び 【SET】 を押す

参考

- ・ コピーできるのは、カメラで撮影した静止画、動画ファイルだけです。

連写画像をグループ解除する(連写グループ解除)

操作手順: **【▶】(再生) → 【MENU】 → ▶ PLAY MENUタブ → 連写グループ解除**

詳しくは185ページをご覧ください。

連写画像を1枚の静止画にまとめる(連写マルチプリント)

操作手順: **【▶】(再生) → 素材にしたい連写グループを表示 → 【MENU】 → ▶ PLAY MENUタブ → 連写マルチプリント**

1. **【▲】【▼】**で“作成”を選ぶ

- ・ **【◀】【▶】**で他の連写グループを選ぶことができます。

2. **【SET】**を押す

縦5コマ、横6コマの最大30コマの画像(16M(4608×3456))に変換します。

- ・ このカメラで撮影した連写グループ以外は、連写マルチプリントできないか、正しく変換されないことがあります。
- ・ 変換後の静止画の日付は、元の画像を撮影した日付になります。
- ・ 縦方向に再生される連写グループと横方向に再生される連写グループとでは、変換後の画像の配置順と向きが異なります。

連写画像を編集する(連写フレーム編集)

操作手順: **【▶】(再生)→【MENU】→▶ PLAY MENUタブ→
連写フレーム編集**

詳しくは下記をご覧ください。

プリント設定(DPOF):219ページ

プロテクト:206ページ

コピー:187ページ

消去:182ページ

プリント(印刷)する

静止画のプリント方法

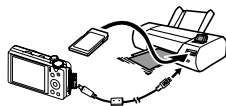
お店で プリントする※

画像が入ったメモリーカードを、プリントサービスのお店に持参してプリントします。



プリンターで プリントする※

メモリーカードスロット付のプリンターで印刷する
プリンターのスロットにメモリーカードを直接セットしてプリントできます。詳しくは、プリンターに付属の説明書に従って操作してください。

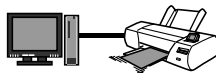


カメラを直接プリンターにつないで印刷する

PictBridgeに対応しているプリンターでプリントします。

パソコンを使って プリントする

画像をパソコンに取り込んだ後、市販のプリントソフトを使ってプリントします。




※ プリントしたい画像や枚数、日付の情報を設定しておくことができます。→219ページ

カメラをPictBridge対応のプリンターにつないでプリントする

付属のUSBケーブルでPictBridge対応のプリンターとカメラを接続し、カメラの液晶モニター上でプリントする画像を選んでプリントできます。

■ 接続前の設定

1. カメラの電源を入れ、【MENU】を押す

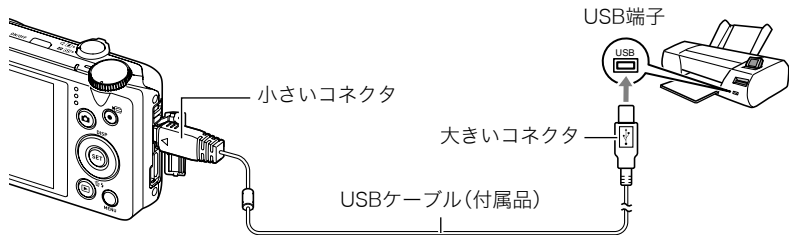
2. “ SETTING” タブ→ “USB” と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で “PictBridge” を選び、【SET】を押す

■ プリンターとの接続

付属のUSBケーブルでカメラとプリンターのUSB端子を接続します。

- カメラとの詳しい接続方法、接続時の注意などについては、38ページをご覧ください。



- USBケーブルからは電源は供給されません。電池残量が十分な電池をカメラに入れてから接続してください。
- ケーブルの抜き差しは、カメラ本体の電源を切ってから行ってください。プリンターは、プリンターの取扱説明書に従って設定をしてから、ケーブルの抜き差しを行ってください。

■ プリントする

1. プリンターの電源を入れ、印刷用紙をセットする

2. カメラの電源を入れる

プリントメニュー画面が表示されます。

3. 【▲】【▼】で“用紙サイズ”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】でプリントする用紙サイズを選び、【SET】を押す

- 用紙サイズは次のとおりです。
L判、2L判、はがき、A4、Letter、プリンタで設定
 - “プリンタで設定”を選ぶと、プリンター側で設定した用紙サイズでプリントされません。
 - 用紙について設定できる内容は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。
-

5. 【▲】【▼】でプリントの方法を指定する

1枚プリント : 1枚ずつプリントする場合に選び、【SET】を押します。続けて【◀】
【▶】でプリントしたい画像を選びます。

DPOFプリント : 複数の画像やすべての画像をプリントする場合に選び、【SET】を押します。DPOF機能(219ページ)で設定した画像がプリントされます。

- 日付印刷の有無を切り替えるには、【●】(ムービー)を押します。“あり”を表示させると、日付がプリントされます。

6. 【▲】【▼】で“プリント”を選び、【SET】を押す

プリントが始まり、液晶モニターに“処理中です しばらくお待ちください”と表示されます。しばらくすると表示が消えますが、プリントは終了していません。カメラのいずれかのボタンを押すと、プリントの状況が再び表示されます。プリントが終了すると、プリントメニュー画面に戻ります。

- “1枚プリント”で別の画像をプリントする場合は、手順5から同様の操作を行ってください。

7. プリントが終了したらカメラの電源を切り、カメラとUSBケーブルを外す

プリントする画像や枚数を指定しておく(プリント設定(DPOF))

■ DPOF(Digital Print Order Format)とは

プリントしたい「画像の種類」「枚数」「日付印刷の有無」を設定し、メモリーカードなどの記録媒体に記録するための規格です。DPOF対応の家庭用プリンターやプリントサービス店でプリントすることができます。

- プリンターによっては、DPOFに対応していない場合があります。
- お店でプリントをする場合、DPOF機能を利用できない場合があります。



■ 画像ごとにプリント枚数を指定する

操作手順: **[▶]**(再生) → 静止画を表示 → **[MENU]** →
[▶] PLAY MENUタブ → プリント設定(DPOF) → 選択画像

1. **[◀][▶]**でプリントしたい画像を表示させる

2. **[▲][▼]**でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 日付をプリントしたい場合は、**[●]**(ムービー)を押して日付印刷を“あり”にします。
 - 他の画像をプリントする場合は、手順1～2を繰り返してください。
-

3. **[SET]**を押す

■ すべての画像に同じプリント指定をする

操作手順: **[▶]**(再生) → 静止画を表示 → **[MENU]** →
[▶] PLAY MENUタブ → プリント設定(DPOF) → 全画像

1. **[▲][▼]**でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 連写グループ内のすべての画像も指定した枚数で印刷されます。
 - 日付をプリントしたい場合は、**[●]**(ムービー)を押して日付印刷を“あり”にします。
-

2. **[SET]**を押す

■ 連写グループ内の画像ごとにプリント枚数を指定する

連写グループ内の画像を1枚ずつ選んでプリントする枚数を指定することができます。

1. 連写画像を再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“プリント設定(DPOF)”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“選択フレーム”を選び、【SET】を押す

4. 【◀】【▶】でプリントしたい画像を表示させる

5. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 日付をプリントしたい場合は、【●】(ムービー)を押して日付印刷を“あり”にします。
 - 他の画像をプリントする場合は、手順4～5を繰り返してください。
-

6. 【SET】を押す

■ 連写グループ内のすべての画像に同じプリント指定をする

連写グループ内のすべての画像に同じプリント指定をすることができます。

1. 連写画像を再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“連写フレーム編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“プリント設定(DPOF)”を選び【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“グループ内全フレーム”を選び【SET】を押す

4. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- ・ 日付をプリントしたい場合は、【●】(ムービー)を押して日付印刷を“あり”にします。
-

5. 【SET】を押す

プリントが完了してもDPOFの設定は解除されません

次回プリント時に前回設定した画像がある場合は、前回設定のままプリントされます。設定を解除する場合は、全画像プリントの枚数設定を“00”にしてください。

お店でプリントするときに気をつけていただきたいこと

お店にプリントを注文する場合は、注文時に「DPOFでプリントする画像、枚数、日付を設定済みです」とお伝えください。お伝えいただかないと、設定された内容(画像、枚数、日付)が反映されず、すべての画像がプリントされたり、日付がプリントされないことがあります。

■ 日付プリントについて

以下の方法で、画像に撮影時の日付を入れてプリントできます。

カメラで 設定する	DPOF機能で設定する(219ページ) 印刷するごとに、日付印刷の有無を指定できます。 日付を入れて印刷する画像と日付を入れない画像に分けることができます。
	タイムスタンプ機能で設定する(251ページ) <ul style="list-style-type: none">撮影時点ですべての画像に日付が写し込まれますので、印刷時には必ず日付が印刷されます(写し込まれた日付は消去できません)。タイムスタンプ機能で日付を写し込んだ画像には、DPOF機能で日付印刷を設定しないでください。日付が二重に印刷されてしまいます。
パソコンで 設定する	市販の画像編集ソフトで日付を入れてプリントする
お店に 依頼する	プリントを注文するとき、お店に日付をプリントするよう依頼する

■ 本機の対応規格

- PictBridge

カメラ映像機器工業会(CIPA)制定の規格です。本製品はPictBridge対応プリンターに直接接続し、デジタルカメラのモニター上で写真選択や印刷開始を指示することができます。



- PRINT Image Matching III

PRINT Image Matching III対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。PRINT Image MatchingおよびPRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。



- Exif Print

Exif Printは、対応プリンターをお使いの場合に画像ファイルに記録された撮影情報を印刷出力に反映させることを可能にします。Exif Print対応プリンターの機種名やプリンターのバージョンアップ等については、各プリンターメーカーにお問い合わせください。



パソコンを利用する

パソコンを使ってできること

カメラをパソコンに接続して、次のことができます。

パソコンに画像
を保存して見る



- 手動でパソコンに保存して見る (USB接続) (227、235ページ)。
- 無線LAN経由で自動的にパソコンに転送して見る (Eye-Fi) (240ページ)。

動画を再生・
編集する



- 動画を再生することができます (233、238ページ)。
再生ソフトは、使用するパソコンの動作環境に合わせてください。
- 動画を編集する場合は、必要に応じて、市販のソフトをご利用ください。

操作のしかたは、Windowsパソコンの場合とMacintoshの場合で異なります。

- Windowsパソコンの場合→「Windowsパソコンを利用する」(226ページ)
- Macintoshの場合→「Macintoshを利用する」(234ページ)

Windowsパソコンを利用する

使用目的	OSのバージョン	必要なソフト	参照ページ
パソコンに 手動で画像を 保存して表示	Windows 8/ Windows 7/ Windows Vista/ Windows XP(SP3)	インストールする必要はありません。	227
動画の再生	Windows 8/ Windows 7	Windows Media Player 12 (パソコンにインストール済)	233
	Windows Vista/ Windows XP(SP3)	QuickTime 7 • 必要に応じて、ダウンロードして ご利用ください。	

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

カメラをパソコンに接続して、画像(静止画や動画などのファイル)をパソコンに保存したり、パソコンで見ることができます。

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。

画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要


- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

参考

- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

1. カメラの電源を入れ、【MENU】を押す

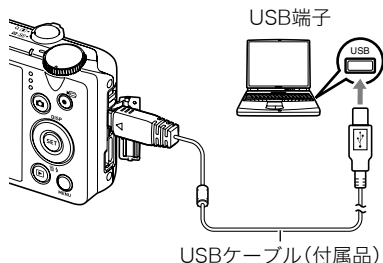
2. “ SETTING” タブ→ “USB” と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“Mass Storage”を選び、【SET】を押す

4. カメラの電源を切り、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

カメラの電源が自動的に入り、電池の充電も始まります(38ページ)。

- パソコンの種類や接続環境により、カメラの電源が自動的に入らない場合があります。その場合は、【ON/OFF】(電源)を押してカメラの電源を入れてください。
- カメラとの詳しい接続方法、接続時の注意などについては、38ページをご覧ください。
- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。



5. Windows 8:

“デスクトップ”→“エクスプローラー”の順でクリックする
Windows 7/Windows Vista:
“スタート”→“コンピューター”
の順でクリックする
Windows XP: “スタート”→
“マイコンピュータ”の順で
クリックする

Windows 7



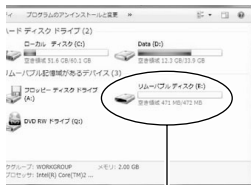
Windows XP



6. “リムーバブルディスク” をダブルクリックする

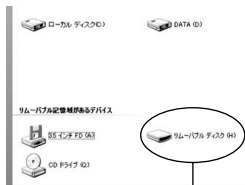
- ・メモリーカードまたは
内蔵メモリーは、「リ
ムーバブルディスク」と
して認識されています。

Windows 7



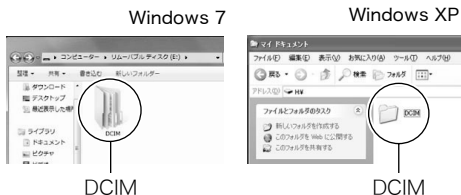
リムーバブルディスク

Windows XP



リムーバブルディスク

7. “DCIM”フォルダーを右ボタンでクリックする



8. メニューの“コピー”をクリックする

9. Windows 8: “ドキュメント”をクリックする

Windows 7/Windows Vista: “スタート” → “ドキュメント”の順でクリックする

Windows XP: “スタート” → “マイドキュメント”の順でクリックする

- すでに“DCIM”フォルダーが保存されている場合は、上書きされてしまいます。すでに保存されている“DCIM”フォルダーの名前を変えるなどしてからコピーしてください。

10. Windows 8: “ドキュメント”メニューで、“ホーム”→“貼り付け”の順でクリックする

Windows 7: “ドキュメント”メニューで、“整理”→“貼り付け”の順でクリックする

Windows Vista: “ドキュメント”メニューで、“編集”→“貼り付け”の順でクリックする

Windows XP: “マイドキュメント”メニューで、“編集”→“貼り付け”の順でクリックする

“DCIM”フォルダー(画像ファイルが保存されているフォルダー)が“ドキュメント”(Windows 8/Windows 7/Windows Vista)または“マイドキュメント”(Windows XP)フォルダーにコピーされ、画像も一緒にパソコンに保存されます。

11. コピーが終了したらカメラをパソコンから外す

■ パソコンに保存した画像を見る

1. コピーした“DCIM”フォルダーをダブルクリックして、フォルダーを開く



2. 見たい画像が入ったフォルダーをダブルクリックして開く



3. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダー構造」(246ページ)を参照ください。
- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。
- 連写グループをパソコンで見た場合、個別の画像で表示されます。グループ単位では表示されません。



動画を再生する

パソコンに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。ご使用のOSによっては再生できない場合があります。その際は別途ソフトをインストールする必要があります。

- Windows 8/Windows 7では、Windows Media Player 12で再生することができます。
- 動画が再生できない場合は、下記アドレスからQuickTime 7をダウンロードし、パソコンにインストールして再生してください。
<http://www.apple.com/jp/quicktime/download/>

■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS : Windows 8/Windows 7/Windows Vista/Windows XP(SP3)
CPU : 画質FHD、HDの場合:Core 2 Duo 3.0GHz以上
画質STD、HSの場合:Pentium 4 3.2GHz以上

必要なソフトウェア:QuickTime 7(Windows 8/Windows 7の場合は不要です。)

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

■ 動画再生のご注意

- 動画データは必ずパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。
- お使いのパソコンの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は以下をお試してください。
 - 動画の画質を“STD”に設定して撮影する。
 - 開いている他のソフトウェアを閉じたり、常駐ソフトを止める。

なお、パソコンで正しく動作しない場合でも、AVケーブル(別売品)を使って映像入力端子を持ったテレビやパソコンで再生することができます。

Macintoshを利用する

使用目的	OSのバージョン	必要なソフト	参照ページ
パソコンに手動で画像を保存して表示	OS X	インストールする必要はありません。	235
パソコンに自動的に画像を保存／画像の管理	OS X	一部のMac製品本体に付属のiPhoto	—
動画の再生	OS X	OS X 10.4.11以降で、QuickTime 7	238

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。

画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要

- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。
- Mac OS Xの10.0ではご使用できません。10.1、10.2、10.3、10.4、10.5、10.6、10.7、10.8のみで使用できます(OS標準のUSBドライバーを使用)。

参考

- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

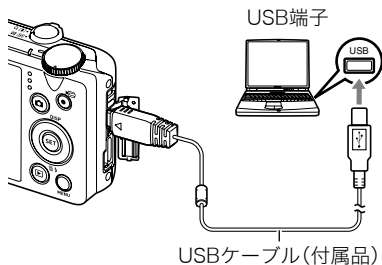
■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

1. カメラの電源を入れ、【MENU】を押す

2. “ SETTING” タブ→ “USB” と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で “Mass Storage” を選び、【SET】を押す

4. カメラの電源を切り、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する
 - カメラとの詳しい接続方法、接続時の注意などについては、38ページをご覧ください。



5. 【ON/OFF】(電源)を押して、カメラの電源を入れる

- カメラの電源が入ると、カメラの後面ランプが赤点灯から緑点灯またはオレンジ点灯に切り替わりますので、確認してください(37ページ)。パソコンは、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを「ドライブ」として認識します。Mac OSのバージョンにより、表示されるアイコンが異なる場合があります。
- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。

6. 表示されたドライブをダブルクリックする

7. “DCIM”フォルダーをデスクトップにドラッグアンドドロップして、画像をパソコンにコピーする



8. コピーが終了したらドライブを“取り出し”または“ゴミ箱”へドラッグアンドドロップする

9. カメラをパソコンから外す

後面ランプが赤く点滅していないのを確認してから、USBケーブルを外してください。

■ パソコンに保存した画像を見る

1. 表示されたドライブをダブルクリックする

2. “DCIM”フォルダーをダブルクリックして、フォルダーを開く

3. 見たい画像が入ったフォルダーをダブルクリックして開く

4. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダー構造」(246ページ)を参照ください。
- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。
- 連写グループをパソコンで見た場合、個別の画像で表示されます。グループ単位では表示されません。

動画を再生する

動画はMacintoshにすでにインストールされているQuickTimeで再生することができます。Macintoshに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。

■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS : 画質FHD、HDの場合:Mac OS X 10.4.11以降
画質STD、HSの場合:Mac OS X 10.3.9以降

必要なソフトウェア:QuickTime 7以降

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

■ 動画再生時のご注意

お使いのMacintoshの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は、以下をお試しください。

- STD動画で撮影する
- 最新のQuickTimeにバージョンアップする
- 実行中の他のソフトウェアを終了する

なお、Macintoshで正しく動作しない場合でも、AVケーブル(別売品)を使って映像入力端子を持ったテレビやMacintoshで再生することができます。

重要

- 動画データは必ずパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。

無線LAN内蔵SDメモリーカードを使う

Eye-Fiカードを使って画像を転送する(Eye-Fi)

市販のEye-Fiカードをカメラに入れて撮影すると、無線LAN経由で画像データを自動的にパソコンなどに転送することができます。

1. Eye-Fiカードに付属の取扱説明書に従って、Eye-Fiカードに無線LANアクセスポイントや転送先などを設定する

2. 設定の終了したEye-Fiカードをカメラに入れ、撮影する

撮影した画像が、無線LANにより自動的にパソコンなどに送信されます。




- 具体的な使用方法は、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書を参照ください。
- 新しいEye-Fiカードを初めて使用するときは、カードをフォーマットする前にカード内に書き込まれているEye-Fiのインストールファイルをパソコン上にコピーしてからフォーマットしてください。

重要

- 撮影した画像は無線LANにより転送されるので、航空機内など無線通信の使用が制限または禁止されている場所では、Eye-Fiカードを使用しないか、Eye-Fiカードによる通信を切ってください(249ページ)。

- Eye-Fiカードをカメラに入れると、画面上にEye-Fiアイコン“Eye-Fi”が表示されます。



半透明		アクセスポイントが見つからない。 または、転送すべき画像データがない。
不透明		画像転送中
点滅		アクセスポイント検索中

- 画像データ転送中は、画面上に転送アイコン“▶▶▶▶▶▶”が表示されます。
- 画像転送中、オートパワーオフ機能(253ページ)は作動しません。
- 画像転送中に電源を切ろうとすると、画面にメッセージが表示されます。その場合は、メッセージに対応した処置をしてください(286ページ)。
- 多数の画像データを転送すると、転送に時間がかかる場合があります。
- Eye-Fiカードの種類、設定によっては、画像データ転送後、Eye-Fiカードに保存された画像データは消去されてしまいます。
- Eye-Fiカードで動画を撮影・再生すると、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。
- カメラの設定や電池の電圧、環境によって、Eye-Fiカードが正しく通信できない場合があります。

FlashAirカードに保存された画像をスマートフォンなどから再生する (FlashAir)

市販のFlashAirカードをカメラに入れて撮影した画像を、無線LAN経由でスマートフォンやパソコンで再生したりコピーしたりできます。

- 詳しい操作方法は、FlashAirカードに付属の取扱説明書をご覧ください。

1. パソコンなどでFlashAirカードの設定を行う

- 個人情報保護のためにも、FlashAirカードのパスワードを再設定することをおすすめします。具体的な内容については、FlashAirカードの取扱説明書をご覧ください。
- FlashAirカードの設定を“自動で起動する”にしているときは、カメラの電源を入れたときに自動的に無線LAN接続が行われます。
- カメラで“FlashAir” (250ページ)の“入”、“切”を設定したい場合は、FlashAirカードの設定を“無線LAN起動画面を使って起動する”に変更してください。

2. 設定したFlashAirカードをカメラに入れ、撮影する

- FlashAirカードをカメラでフォーマットすると、FlashAirカード内の通信関連のファイルが消去されてしまいます。フォーマットについては、FlashAirカードに付属の取扱説明書をご覧ください。


3. スマートフォンなどから、FlashAirカードにアクセスする




重要


- 航空機内など無線通信の使用が制限または禁止されている場所では、FlashAirカードを使用しないか、カメラの“FlashAir” (250ページ)とFlashAirカードを以下の設定にしてください。

FlashAir:切

FlashAirカードの設定:無線LAN起動画面を使って起動する

- FlashAirカードをカメラに入れると、画面上にFlashAirアイコン“

半透明		無線LAN切断中
不透明		通信可能
点滅		起動中(通信できません)

- FlashAirカード内にある画像データをスマートフォンなどから操作している間は、カメラは以下の動作になります。
 - 画面上に通信アイコン“

パソコンを利用する 243

- FlashAirカードで動画を撮影・再生すると、画像が一瞬途切れたり、音声が中断したりする場合があります。
- カメラの設定や電池の電圧、環境によって、FlashAirカードが正しく通信できない場合があります。
- FlashAirカードの起動中は、カメラの設定変更の操作などに時間がかかります。

ファイルとフォルダーについて

本機では、撮影した静止画などのひとつひとつが個別のデータとして記録されます。個別のデータのことを「ファイル」と呼びます。各ファイルは、「フォルダー」と呼ばれるまとまりにグループ分けされます。ファイル、フォルダーには、区別のための名前が自動的に付きます。

- フォルダー構造の詳細は、「メモリー内のフォルダー構造」(246ページ)をご覧ください。

	名前と最大作成数	例
ファイル	“CIMG0001”から“CIMG9999”までで、最大9999個のファイルが1つのフォルダーに作成されます。拡張子は記録したファイルの形式によって異なります。	26番目に記録した ファイル名: CIMG0026.JPG └┬ └┬ 連番(4桁) 拡張子
フォルダー	“100CASIO”から“999CASIO”までで、最大900のフォルダーが作成されます。 ・ベストショットにはYouTubeサイトへアップロードするのに最適な動画を撮影する“YouTube”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、フォルダー名は「100YOUTB」となります。	連番100のフォルダー名: 100CASIO └ 連番(3桁)

- ・フォルダー名、ファイル名は、パソコンで見ることができます。カメラの液晶モニターでの表示については、28ページをご覧ください。
- ・保存できるフォルダー数、ファイル数は、サイズや画質、メモリーカードの容量によって異なります。

メモリー内のデータについて

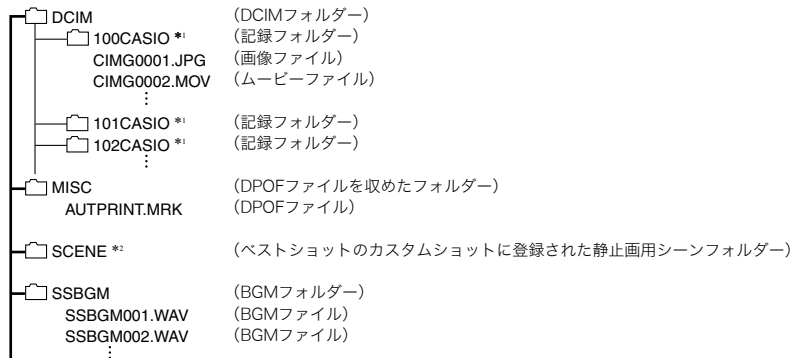
本機で撮影された画像は、DCF(Design rule for Camera File system)規格に準拠した方法でメモリーへ保存されます。

■ DCF規格について

- 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見ることができます。
- 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のプリンターで印刷することができます。
- DCF規格対応の他社のカメラの画像を本機で見ることができます。

ただし、上記項目の動作はすべて保証するものではありません。

■ メモリー内のフォルダー構造



*1 ベストショットにはYouTubeサイトへアップロードするのに最適な動画を撮影する“YouTube”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した場合、記録フォルダー名は「100YOUTB」となります。

*2 内蔵メモリー内にもみ作成されるフォルダー、ファイルです。

■ このカメラで扱える画像ファイル

- 本機で撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

DCF規格の画像ファイルでも、使用できない機能がある場合があります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

■ パソコン上で内蔵メモリー／メモリーカードを扱うときのご注意

- メモリーの内容をパソコンに保存する際は“DCIM”フォルダーごと保存してください。その際“DCIM”フォルダーの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンに保存したファイルをカメラに戻す場合は、フォルダー名をパソコン上で“DCIM”に戻しておいてください。本機では“DCIM”以外の名前のフォルダーは認識されません。“DCIM”フォルダー内の他のフォルダー名を変えた場合も同様です。
- フォルダーやファイルをカメラで正しく認識させるためには、メモリー内のフォルダー構造が246ページのフォルダー構造のとおりである必要があります。

その他の設定について (SETTING)

ここでは撮影モードと再生モードのどちらでも操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

メニューの操作については、145ページをご覧ください。

省電力状態にして、撮影可能枚数を増やす (エコモード)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ SETTINGタブ→エコモード

液晶モニターの明るさを低くするなど、一部の機能を低い電力で動作するように切り替えることにより、電池の消耗を抑えることができます。

“入”を選ぶとエコモードに入り、画面上に“ECO”が表示されます。エコモードは撮影モードが“プログラムオート”のときに省電力の効果が高くなります。撮影モードは“プログラムオート”に設定することをおすすめします。

参考

- オートパワーオフ機能やスリープ機能と組み合わせることで、さらに電力の消費を抑えることができます (253、253ページ)。

液晶モニターの明るさを変える(液晶設定)

操作手順: **【MENU】** → **⚙️ SETTINGタブ** → **液晶設定**

オート	周囲の環境を判断して、明るい環境下では自動的に液晶が明るくなります。
+2	“+1”に比べてさらに液晶が明るくなり、見やすくなります。反面、消費電力が大きくなります。
+1	屋外などの明るい場所で使用する場合の設定です。“0”に比べて液晶が明るくなり、見やすくなります。
0	屋内などの明るすぎない場所で使用する場合の設定です。
-1	夜間や屋内などの暗い場所で使用する場合の設定です。

- “+2”または“+1”に設定した状態で“エコモード”(248ページ)を“入”にすると、液晶設定は“0”に固定されます。

Eye-Fiカードによる通信を切る(Eye-Fi)

操作手順: **【MENU】** → **⚙️ SETTINGタブ** → **Eye-Fi**

Eye-Fiカードを使った通信(240ページ)を完全に切りたいときは“切”にしてください。

FlashAirカードの通信を設定する(FlashAir)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ **SETTING**タブ→FlashAir

FlashAirカードを“無線LAN起動画面を使って起動する”に設定し、“FlashAir”を“入”にすると、FlashAirの無線LAN接続(242ページ)が行われます。

- FlashAirカードの設定を“自動で起動する”にしているときは、カメラの電源を入れたときに自動的に無線LAN接続が行われます。

カメラの音を設定する(操作音)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ **SETTING**タブ→操作音

起動音	
ハーフシャッター	音色を設定します。
シャッター	サウンド1~5:内蔵されたサンプル音が鳴ります。 切:音は鳴りません。
操作音	
操作音量	操作音の音量を設定します。テレビ出力時(190ページ)の音量にも反映されます。
再生音量	動画の音量を設定します。テレビ出力時(190ページ)の音量には反映されません。

- 音量を“0”に設定すると、音は鳴りません。

画像保存用のフォルダーを作成する(フォルダー作成)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ SETTINGタブ→フォルダー作成

フォルダー作成	新しい番号のフォルダーを作ります(244ページ)。次回撮影時から、このフォルダーにファイルが保存されます。
キャンセル	フォルダーを作成しません。

- ベストショットの“YouTube”のシーンで撮影したファイルは専用フォルダーに保存されるため、この操作で作成したフォルダーにファイルは保存されません。
- フォルダー内のファイルをすべて消去すると、作成したフォルダーも削除されます。

日付や時刻を写し込む(タイムスタンプ)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ SETTINGタブ→タイムスタンプ

撮影時に静止画の右下に、日付や時刻を写し込むことができます。

例)2015年7月10日 午後1時25分

日付	2015/7/10
日付+時刻	2015/7/10 1:25pm
切	日付/時刻は写し込まれません。

- いったん画像に写し込まれた日付や時刻を変更したり、消すことはできません。
 - タイムスタンプ機能を使用しなくてもDPOF機能や印刷用ソフトで、日付や時刻を入れてプリントすることができます(223ページ)。
- 写し込む内容は、日時設定(256ページ)と表示スタイルの設定(257ページ)に従って写し込みます。

- ベストショット撮影の一部のシーンでは、タイムスタンプは無効となります。

撮影時のカメラの向きに合わせて画像を表示する(縦画像回転再生)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ SETTINGタブ→ 縦画像回転再生

画像を再生時に、撮影時のカメラの向きを判断して正しい向きで表示できます。

入	撮影時のカメラの向きに合わせて画像が回転します。
切	縦画像回転再生が作動しません。

画像の連番のカウント方法を切り替える(ファイルNo.)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ SETTINGタブ→ ファイルNo.

撮影時に画像に付く連番(244ページ)のカウント方法を切り替えます。

メモリーする	今まで撮影したファイルの連番を記憶します。ファイルを消去したり、何も記録されていないメモリーカードに交換しても、記憶した連番からファイル名を付けます。メモリーカードにファイルが残っている場合で、残っているファイルのファイル名がカメラの記憶した連番より大きい場合は、残っているファイルの最大の連番+1からファイル名が付きます。
メモリーしない	ファイルをすべて消去したり、何も記録されていないメモリーカードに交換すると、ファイルの連番を継続せずに、0001番からファイル名を付けます。メモリーカードにファイルが残っている場合は、残っているファイルの最大の連番+1からファイル名を付けます。

電池の消耗を抑える(スリープ)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ SETTINGタブ→スリープ

一定時間操作しないと液晶モニターの表示が消え、後面ランプが緑色に点灯します。何かボタンを押すと、表示が戻ります。

設定できる値: 30秒/1分/2分/切(切を選ぶと、スリープ機能が作動しません)

- 以下の状態のときは、スリープ機能は働きません。
 - 再生モード
 - カメラをパソコンやテレビなどの機器に接続しているとき
 - 動画撮影・再生中
- スリープ機能とオートパワーオフ機能の設定が同じ時間の場合、オートパワーオフ機能が優先されます。

電池の消耗を抑える(オートパワーオフ)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ SETTINGタブ→オートパワーオフ

電池消耗を抑えるため、一定時間操作しないと電源が切れます。

設定できる値: 2分/5分/10分(再生モードでは5分に固定されます)

- 以下の状態のときは、オートパワーオフ機能は働きません。
 - カメラをパソコンなどの機器に接続しているとき
 - スライドショー中
 - 連写グループ画像再生中
 - 動画撮影・再生中

【📷】の動作を設定する(REC)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ SETTINGタブ→REC

パワーオン	【📷】(撮影)を押すと、電源が入ります。
パワーオン/オフ	【📷】(撮影)を押して、電源を入れたり切ったりできます。
切	【📷】(撮影)を押しても、電源は入りません。

- “パワーオン/オフ”に設定しているときは、撮影モードで【📷】(撮影)を押した場合に電源が切れます。

【▶️】の動作を設定する(PLAY)


操作手順: 【MENU】→ ⚙️ SETTINGタブ→PLAY

パワーオン	【▶️】(再生)を押すと、電源が入ります。
パワーオン/オフ	【▶️】(再生)を押して、電源を入れたり切ったりできます。
切	【▶️】(再生)を押しても、電源は入りません。

- “パワーオン/オフ”に設定しているときは、再生モードで【▶️】(再生)を押した場合に電源が切れます。

画像の消去操作ができないようにする(消去キー)

操作手順: **[MENU]** → **⚙️ SETTING**タブ → **消去キー**

[▼]()**[⚡]**を押しても、画面の消去操作に入らないようにすることができます。誤操作などにより、誤って画像を消去したくないときは、“無効”にしてください。

- ・フォーマット(259ページ)すると、“消去キー”を“無効”に設定していても、画像は消去されません。

海外旅行先での時刻を設定する(ワールドタイム)

操作手順: **[MENU]** → **⚙️ SETTING**タブ → **ワールドタイム**

自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示することができます。世界162都市(32タイムゾーン)に対応しています。

1. **[▲]****[▼]**で“訪問先”を選び、**[▶]**を押す

- ・通常の時刻表示の地域・都市を変更するときは“自宅”を選びます。

2. **[▲]****[▼]**で“都市”を選び、**[▶]**を押す

- ・“訪問先”の設定でサマータイムを設定するときは、**[▲]****[▼]**で“サマータイム”を選び、“入”に設定します(サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うため、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです)。

3. **[▲]****[▼]**で地域を選び、**[SET]**を押す

4. 【▲】【▼】で都市を選び、【SET】を押す

5. 【SET】を押す



- ワールドタイムを設定する前に、自宅の都市が自分の住んでいる地域になっているかどうかを確認してください。自分の住んでいる地域になっていない場合は、手順1で“自宅”を選んで自宅の都市を変更し、続けて日時を設定し直してください(256ページ)。

カメラの日時を設定し直す(日時設定)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ SETTINGタブ→日時設定

日時を変更した後は、“決定”を選び【SET】を押して修正結果を確定させます。

【▲】【▼】	カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】	カーソル(選択枠)を移動します。

- 12時間表示と24時間表示を切り替えるには、“am(pm)” / “24h” にカーソルを合わせ、【▲】【▼】を押します。
- 入力できる日付は、2001年～2049年です。
- 日時を設定する前にワールドタイムの自宅の設定(255ページ)を自分の住んでいる地域にししないと、ワールドタイムの日時が正しく表示されません。

日付の表示の並びを変える(表示スタイル)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ SETTINGタブ → 表示スタイル

画面に表示される日付の表示スタイルを3つの中から選ぶことができます。

例) 2015年7月10日

年/月/日	15/7/10
日/月/年	10/7/15
月/日/年	7/10/15

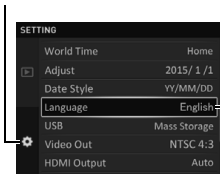
表示言語を切り替える(Language)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ SETTINGタブ → Language

画面のメッセージの言語を設定します。

■ 画面が外国語表示になってしまったとき

① 下のタブ“⚙️”を選ぶ



② 「Language」の項目を選ぶ

③ 「日本語」を選ぶ

USBの通信方法を切り替える(USB)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ SETTINGタブ→USB

パソコンやプリンターなどの外部機器と接続するときの、USB通信の方法を切り替えることができます。

Mass Storage	パソコンを接続する場合に選びます(228、236ページ)。パソコンにカメラを外部記憶装置として認識させる方法です。通常、パソコンへの画像の保存の操作時はこちらを選んでください。
PictBridge	PictBridge対応のプリンターを接続する場合に選びます(216ページ)。

画面の横縦比とビデオ出力の方式を変更する(ビデオ出力)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ SETTINGタブ→ビデオ出力

本機では、ビデオ信号をNTSCまたはPAL、テレビ画面のアスペクト比(横縦比)を4:3または16:9のいずれかで出力できます。

NTSC	日本のほか、アメリカなどでも使用されています。
PAL	ヨーロッパなどで使用されています。
4:3	画面比率4:3
16:9	ワイド画面のテレビ用

- お使いのテレビ画面のアスペクト比(4:3または16:9)に合わせて設定してください。このとき、テレビ側のアスペクト比の設定も正しく設定されていないと、画面が正常に表示されない場合があります。
- 本機のビデオ方式とテレビのビデオ方式が合わないと正しく表示されません。
- NTSC、PAL以外の方式のテレビでは、画像は正しく表示されません。

HDMI端子の出力方法を変える(HDMI出力)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ **SETTING**タブ→HDMI出力

詳しくは192ページをご覧ください。

メモリーをフォーマットする(フォーマット)

操作手順: 【MENU】→ ⚙️ **SETTING**タブ→フォーマット

カメラにメモリーカードが入っている場合はメモリーカードを、メモリーカードが入っていない場合は内蔵メモリーをフォーマットできます。

- フォーマットすると、メモリーの内容がすべて消去され、元に戻すことはできません。本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- 内蔵メモリーをフォーマットした場合、次の画像も同時に消去されます。
 - プロテクトされた画像
 - カスタムショットに登録した内容
- メモリーカードをフォーマットした場合、次の画像も同時に消去されます。
 - プロテクトされた画像

- フォーマットすると、“消去キー”(255ページ)を“無効”に設定していても、画像は消去されます。
- フォーマットするときは、電池残量が十分な電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると、正しくフォーマットされず、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- フォーマット中は、絶対に電池カバーを開けないでください。カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。

各種設定を購入直後の設定に戻す(リセット)

操作手順: [MENU] → ⚙️ SETTINGタブ → リセット

購入直後の設定(初期値)については、273ページを参照ください。

下記の項目は、リセットしても初期値に戻りません。

ワールドタイムの詳細設定、日時設定、表示スタイル、Language

付録

使用上のご注意

■ 取扱上のご注意

本機は精密機器です。特にレンズ部に無理な力が加わると故障や破損の原因となりますので、下記の点に特にご注意ください。



撮影するときに、レンズ部をぶついたり、落下させるなどの強い衝撃を与えないようにご注意ください。



カメラ本体をレンズで支えるような撮影方法など、レンズに強い力がかかるようなことはしないでください。



レンズ部をぶついたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。

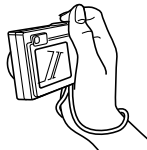
外圧や衝撃、落下など取り扱い上の過失による、レンズや液晶モニター、内部基板などの破損が原因の故障修理は保証期間内でも有償となります。



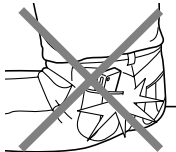
カバンなどの中に入れる場合はカメラに無理な力が加わらないようにご注意ください。



落下防止のため、ストラップに手を通して撮影してください。



ズボンやスカートのポケットに入れたまま座らないでください。



落下させるなど強い衝撃をカメラに与えないでください。
また、カメラが落下しやすいようなポケットに、カメラを入れないでください。胸ポケットに入れると、かがんだときなどにカメラが落下することがあります。



- 絵と製品本体が異なる場合があります。

■ データエラーのご注意

本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると画像データが壊れたり、カメラ本体が動作不能になったりする恐れがあります。

- カメラの動作中に電池やメモリーカードを抜いた
- 電源を切ったときに後面ランプが緑色に点滅している状態で電池やメモリーカードを抜いた
- 通信中にUSBケーブルが外れた
- 充電してもすぐに消耗してしまう電池を使用し続けた
 - 充電してもすぐに消耗してしまう電池を使用し続けると、カメラが故障する場合があります。すみやかに新しい電池に交換してください。
- その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示される場合があります(285ページ)。メッセージに対応した処置をしてください。

■ 使用環境について

- 使用可能温度範囲:0~40°C
- 使用可能湿度範囲:10~85%(結露しないこと)
- 次のような場所には置かないでください。
 - 直射日光の当たる場所、湿気やホコリ、砂の多い場所
 - 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
 - 日中の車内、振動の多い場所

■ 結露について

真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付き（結露）、故障の原因となります。結露を防ぐには、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に十分慣らしてから取り出して、電池カバーを開けたまま数時間放置してください。

■ レンズについて

- レンズ面は強くこすったりしないでください。レンズ面に傷が付いたり、故障の原因となります。
- レンズの特性（歪曲収差）により、撮影した画像の直線が歪む（曲がる）場合がありますが、故障ではありません。

■ カメラのお手入れについて

- レンズ面やフラッシュ面には触れないでください。レンズ面やフラッシュ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、プロアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- 本機が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。

■ 充電式電池の取り扱いについて(リサイクルのお願い)



不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

Li-ion 00

<最寄りのリサイクル協力店へ>

詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。

- ホームページ <http://www.jbrc.com/>

■ 使用済み電池の取り扱い注意事項

- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

■ その他の注意

使用中、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。

■ 著作権について

カメラで記録した静止画や動画は、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。ただし、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますので、ご注意ください。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず、権利者の許可なく、ネット上のホームページや共有サイトなどに掲載したり、第三者に配布したりすることも著作権法や国際条約で固く禁じられています。たとえば、録画したTV番組やライブコンサートの映像、音楽ビデオなど自分で撮影や録画したものであっても、動画共有サイトなどに掲載したり配付したりすると、他者の権利を侵害する恐れがあります。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。なお、本文中には、™マーク、®マークを明記していません。

- SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Microsoft、Windows、Internet Explorer、Windows Media、Windows Vista、Windows 7、Windows 8、およびDirectXは、米国およびその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime、およびiPhotoは、Apple Inc.の商標です。
- YouTubeおよびYouTubeロゴは、Google Inc.の商標または登録商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。
- Eye-FiおよびEye-Fiロゴは、Eye-Fi, Inc.の商標です。
- FlashAirおよびFlashAirロゴは、株式会社東芝の商標です。
- EXILIMは、カシオ計算機(株)の登録商標です。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

本製品に弊社が提供しているソフトウェアを、無断で営業目的で複製(コピー)したり、頒布したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。

YouTube撮影機能は、YouTube, LLC社からのライセンスに基づいています。

電源について

充電について

■ 充電中にカメラの後面ランプが赤色に点滅したときは

充電中にカメラの後面ランプが赤色に点滅したときは、以下のいずれかの場合により充電できないことを示しています。説明に従って処置したあとに、再度充電してください。

周辺温度または電池の温度が、高温または低温状態である場合

USBケーブルを抜いて常温でしばらく放置したあと、周囲の温度が10°C～35°Cの温度範囲で充電を再開してください。

タイマーが働いた場合

電池の未使用期間が長期化した場合や、パソコンの種類や接続環境によっては充電時間が延びる場合があります。充電時間が最大6時間を越えると、タイマーが働き、フル充電でない場合でも充電を停止します。

また、電池の未使用期間が更に長期化した場合は約45分で充電を停止することもあります。

1) 長期間充電しなかった場合

USBケーブルを一度抜いて、再度差し込んで充電を再開してください。

2) パソコンで充電する際、接続環境によって十分な電力を供給できない場合

USB2.0準拠のUSB端子からのみ充電できます。500mA程度の電流供給ができるUSBポートに直接差し込んでください。

パソコンの給電能力については、ご使用のパソコンのメーカーにお問い合わせください。USBケーブルを一度抜いて、再度差し込んで充電を再開することもできますが、給電能力が低いパソコンの場合は、この動作を繰り返さないとフル充電にならない場合があります。

上記の処置をしてもエラーが起こる、または6時間を超えても充電が終了しない場合は、電池の不良が考えられます。「修理に関するお問い合わせ窓口」(308ページ)にお問い合わせください。

電池に関するご注意

■ 使用上のご注意

- 寒い場所では、電池の特性上、十分に充電されていても、使用時間が短くなります。
- 10°C～35°Cの温度範囲で充電してください。範囲外の温度では、充電時間が長くなったり、十分な充電ができないことがあります。
- 電池の外装ラベルを破ったり、はがしたりしないでください。
- 充電直後でも電池の使用時間が大幅に短くなった場合は、電池の性能寿命と思われるので、新しいものをお買い求めください。なお、古い電池は使用せずに充電式電池リサイクル協力店へお持ちください(265ページ)。

■ 保管上のご注意

- 充電された状態で長期間保管すると電池の特性が劣化することがあります。しばらく使わない場合は、使い切った状態で保管してください。
- 使用しないときは必ず電池をカメラから取り外してください。取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れていますので、電池が消耗し、充電に時間がかかったり、カメラが壊れたりします。
- 乾燥した涼しい場所(20℃以下)で保管してください。
- 過放電を防止するために、電池は半年に1回くらいの割合で一度フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。

■ 海外で使うときは

■ 使用上のご注意

- 付属のUSB-ACアダプター(AD-C54UJ)はAC100V~240V、50/60Hzの電源に対応していますが、使用する国・地域によってUSB-ACアダプターのプラグ形状等が異なるため、あらかじめ旅行代理店などにお問い合わせください。
- USB-ACアダプターの電源に、電圧変換器等はご使用にならないでください。故障の原因となります。

■ 予備の電池について

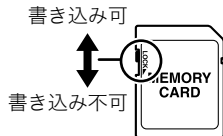
- 旅先で電池が切れて撮影ができなくなってしまうことを防ぐため、フルに充電した予備の電池(NP-130AまたはNP-130)をお持ちになることをおすすめします。
- 電池はお買い求めの販売店またはカシオ・オンラインショッピングサイト(e-カシオ)でご購入ください(e-カシオ: <http://www.e-casio.co.jp/>)。

メモリーカードについて

使用できるメモリーカード、メモリーカードの入れ方については44ページをご覧ください。

■ メモリーカードについて

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードには、書き込み禁止スイッチがあります。誤って消去する不安があるときは使用してください。ただし、撮影・フォーマット・消去時は解除しないと各操作が実行できません。
- 画像を再生したときに異常が発生した場合などは、フォーマット操作(259ページ)で復帰できますが、外出先などでこの操作ができない場合に備えて複数枚のメモリーカードをお持ちになることをおすすめします。
- メモリーカードは撮影/消去を繰り返すとデータ処理能力が落ちてくるので、定期的にフォーマットすることをおすすめします。
- 静電気、電氣的ノイズ等により、記録したデータが消失または破壊することがありますので、大切なデータは別のメディア(CD-R、CD-RW、ハードディスクなど)に控え(バックアップ)をとることをおすすめします。



■ メモリーカードのご使用上の注意

- メモリーカードの種類によっては処理速度が遅くなる場合がありますので、できるだけ超高速タイプのメモリーカードをご使用ください。ただし、超高速タイプのメモリーカードであっても、すべての動作を保証することはできません。動画の画質設定によっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、「REC」が黄色になります。
- 当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。詳しくは、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトの「デジタルカメラお客様サポートメニュー」(<http://casio.jp/support/dc/>)をご覧ください。また、「お客様相談窓口」(308ページ)にお問い合わせください。

■ メモリーカードやカメラ本体を廃棄／譲渡するときのご注意

本機の「フォーマット」や「消去」機能では、メモリーカード内のファイル管理情報だけが変更され、データそのものが変更されないことがあります。メモリーカード内のデータは、お客様の責任において管理してください。たとえば以下のような手法をおすすめします。

- 廃棄の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。
- 譲渡の際は、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。

また、内蔵メモリーのデータは「フォーマット」機能(259ページ)で完全に消去してからカメラ本体を廃棄・譲渡することをおすすめします。

リセット操作でリセットされる内容

【MENU】を押したときに表示されるメニューで、リセット操作(260ページ)でリセットされる(初期値になる)内容の一覧表です。

—:この記号の設定項目はリセット操作には影響がありません。

重要

- 撮影モードによっては、使用できないメニューがあります。

REC MENU

モーションシャッター	切
モーション位置	左上
左右キー	切
ダブル保存(HDRアート)	入
静止画サイズ	16M
静止画画質	標準-N
動画画質	FHD
ISO感度	オート
ISO感度上限	オート
超解像ズーム	シングル
AFエリア	 スポット

手ブレ補正	標準
ライティング	入
コンティニュアスAF	切
顔検出	切
デジタルズーム	入
風音低減	切
メイクアップレベル	撮影モードによって異なります。
EVシフト	0.0
ホワイトバランス	オートWB
フォーカス方式	AF
セルフタイマー	切

測光方式	マルチ
フラッシュ光量	0
シャープネス	0
彩度	0
コントラスト	0
AF補助光	入
撮影レビュー	タイプ2
アイコンガイド	入
アシスト表示	グリッド:切 ヒストグラム:切 動画撮影範囲:切

モードメモリー	高速連写:切
	フラッシュ:入
	フォーカス方式:切
	ISO感度:切
	ホワイトバランス:切
	EVシフト:切
	AFエリア:入
	測光方式:切
	セルフタイマー:切
	フラッシュ光量:切
超解像ズーム:入	
デジタルズーム:入	
MF位置:切	
ズーム位置:切	

■ PLAY MENU

スライドショー	表示画像:全画像 時間:30分 間隔:3秒 エフェクト:パターン1
モーションプリント	作成
ムービーカット	—
ムービー結合	—
ライティング	—
ホワイトバランス	—
明るさ編集	—
プリント設定 (DPOF)	—
プロテクト	—
日時編集	—
回転表示	—
リサイズ	10M
トリミング	—
コピー	—
連写グループ解除	—
連写マルチプリント	—
連写フレーム編集	—

■ SETTING



エコモード	切
液晶設定	オート
Eye-Fi	入
FlashAir	入
操作音	起動音:サウンド1 ハーフシャッター: サウンド1 シャッター:サウンド1 操作音:サウンド1 操作音量:3 再生音量:3
フォルダー作成	—
タイムスタンプ	切
縦画像回転再生	入
ファイルNo.	メモリーする
スリープ	1分
オートパワーオフ	5分
REC	切
PLAY	パワーオン
消去キー	有効
ワールドタイム	—







日時設定	—
表示スタイル	—
Language	—
USB	Mass Storage
ビデオ出力	—
HDMI出力	オート
フォーマット	—
リセット	—




故障かな？と思ったら


現象と対処方法

現象	考えられる原因と対処
電源について	
電源が入らない。	1) 電池が正しい向きに入っていない(34ページ)。 2) 電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(36ページ)。それでもすぐに電池が消耗するときは電池の性能寿命です。別売の当社のリチウムイオン充電電池(NP-130AまたはNP-130)をお買い求めください。
電源が勝手に切れた。	1) オートパワーオフが働いた可能性があります(253ページ)。電源を入れ直してください。 2) 電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(36ページ)。 3) カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。
電源が切れない。ボタンを押しても、カメラが動作しない。	カメラから電池をいったん取り出し、入れ直してください。
充電について	
後面ランプが赤く点灯せず、充電できない。	1) カメラに接続しているUSBケーブルを抜き差ししてください。 2) カメラから電池をいったん取り出し、入れ直してください(35ページ)。

現象	考えられる原因と対処
撮影について	
シャッターを押しても撮影できない。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 再生モードになっている場合は、シャッターを押して撮影モードにしてください。 2) フラッシュの充電中は、フラッシュの充電が終わるまで待ってください。 3) “メモリーがいっぱいです”と表示されている場合は、パソコンに画像を転送後、不要な画像を消去するか、別のメモリーカードをセットしてください。
オートフォーカスなのにピントが合わない。	<ol style="list-style-type: none"> 1) レンズが汚れている場合は、レンズの汚れを取ってください。 2) 被写体がフォーカスフレームの中央にありません。 3) ピントの合いにくい被写体の可能性があります(64ページ)。マニュアルフォーカスに切り替えて手動でピントを合わせてください(76ページ)。 4) 手ブレしている可能性がありますので、手ブレ補正の撮影状態に設定してください(163ページ)。または、三脚を使用してください。
撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない可能性があります。ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを合わせて撮影してください。
フラッシュが発光しない。	<ol style="list-style-type: none"> 1) フラッシュの発光方法が“” (発光禁止)になっている場合は、発光方法を他の方法に切り替えてください(82ページ)。 2) 電池が消耗している場合は、電池を充電してください(36ページ)。 3) ベストショットでフラッシュが“” (発光禁止)のシーンを選んでいる場合は、必要に応じてフラッシュの発光方法を切り替えるか(82ページ)、撮影したいシーンを選び直して(122ページ)ください。

現象	考えられる原因と対処
液晶モニター上に“  ”（発光禁止）が赤く点灯し、フラッシュが発光しない。	フラッシュが故障している恐れがありますので、「修理に関するお問い合わせ窓口」（308ページ）またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。なお、この状態でフラッシュは発光できませんが、撮影することはできます。
セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	電池が消耗している可能性があります。
液晶モニターに表示される画像のピントがあま	<ol style="list-style-type: none"> 1) マニュアルフォーカスでピント合わせがずれています。ピントを正しく合わせてください(76ページ)。 2) 被写体が風景や人物なのに“”（マクロ）または“”（スーパーマクロ）になっています。風景や人物を撮影する場合は、オートフォーカスにしてください(74ページ)。 3) 接写しているのに、オートフォーカスまたは“”（無限遠）になっています。接写撮影をする場合は“”（マクロ）または“”（スーパーマクロ）にしてください(74ページ)。

現象	考えられる原因と対処
画像にノイズが入る。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 被写体が暗いとカメラの感度が自動的に上がるため、ノイズが発生する場合があります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 2) 暗い場所でフラッシュを“” (発光禁止)にして撮影すると、ノイズが発生し、多少ざらついた感じになることがあります。その場合は、フラッシュの発光方法を切り替えるか(82ページ)、ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 3) 静止画撮影でライティング機能(165ページ)を使うと、ノイズが増えることがあります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 4) 高い気温など高温の環境で動画を長時間撮影した場合、撮影画像にノイズ(輝点)が入ることがあります。その場合はすずしい環境で撮影していただくか、カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからご使用ください。
撮影したのに画像が保存されていない。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 記録が終了する前に電池切れになった場合、画像は保存されません。電池残量表示が“”になったら、速やかに電池を充電してください(42ページ)。 2) 記録が終了する前にメモリーカードを抜いた場合、画像は保存されません。記録が終了する前にメモリーカードを抜かないでください。
風景が明るいのに人物の顔が暗くなってしまった。	人物が光量不足です。フラッシュを“  ” (強制発光)にしてください(日中シンク口撮影)(82ページ)。または、EVシフトを+側に調整してください(80ページ)。
夜景がきれいに撮影できない。	ベストショット(122ページ)のシーンを下記のように設定して撮影してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 夜景だけ撮影したいとき → “HS夜景” • 夜景と人物を撮影したとき → “HS夜景と人物”


現象	考えられる原因と対処
海岸やスキー場で撮影すると被写体が暗くなる。	海岸や雪面からの強い光の反射に露出が合っているため、露出不足になっています。フラッシュを「  」（強制発光）にしてください（日中シンクロ撮影）（82ページ）。または、EVシフトを+側に調整してください（80ページ）。
デジタルズームの倍率が最大値まで上がらない。	<ol style="list-style-type: none"> 1) デジタルズームの設定が“切”になっている可能性があります。設定を“入”にしてください（168ページ）。 2) “超解像ズーム”が“シングル”になっている場合は最大値まで上がりません。“切”にしてください（91ページ）。 3) 静止画の画像サイズが“VGA”以外になっている場合は最大値まで上がりません。他の設定に変更してください（152ページ）。
動画撮影中に画像がぼける。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 撮影範囲外のためピントが合っていません。撮影範囲内で撮影してください。 2) レンズが汚れている可能性があります。清掃してください（264ページ）。 3) ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめる前にシャッターを半押しするか、マニュアルフォーカスでピントを合わせてから撮影してください。
動画撮影が勝手に終了した。	カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの温度を下げてからご使用ください。
メニュー内の機能の設定が変更できない。設定項目が表示されない。	撮影モードによっては、使用できないメニューがあります。プレミアムオートPROでは、設定できる機能のみ表示されます。

現象	考えられる原因と対処
再生について	
再生した画像の色が撮影時に液晶モニターで見た色と違う。	太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている可能性があります。直接光がレンズに当たらないようにしてください。
画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードを使用した場合は、ファイル管理形式が異なるため再生できません。
画像編集(ホワイトバランス、明るさ編集、リサイズ、トリミング、回転)ができない。	次の画像は編集できません。 <ul style="list-style-type: none"> • モーションプリント機能で作成した画像 • 連写グループ内の画像 • 動画 • パノラマ画像 • 他のカメラで撮影した画像
消去について	
ファイルを消去することができない。	1) ファイルにプロテクトがかかっている可能性があります。プロテクトを解除してください(206ページ)。 2) “消去キー”の設定が“無効”になっている可能性があります。設定を“有効”にしてください(255ページ)。

現象	考えられる原因と対処
その他	
画面に表示される日時が正しくない。または、記録したデータの日付が正しくない。	日時の設定が間違っているので、日時を設定し直してください(256ページ)。
画面に表示される言葉が外国語になっている。	表示言語の設定が間違っているので、表示言語を設定し直してください(257ページ)。
パソコンにUSB接続しても画像が取り込めない。	<ol style="list-style-type: none"> 1) USBケーブルが確実に接続されていない可能性があります。コネクタ端子部を確認して、確実に接続してください。 2) USB通信の方法が正しく設定されていない可能性があります。USB通信の方法を接続する機器に合わせて正しく設定してください(228、236ページ)。 3) カメラの電源が入っていない場合は、電源を入れてください。 4) USBケーブルをUSBハブ等を経由してパソコンと接続をしていると、正常に認識しない場合があります。パソコンのUSB端子に直接接続してください。

現象	考えられる原因と対処
<p>カメラの電源を入ると、時計設定画面が表示される。</p>	<p>1) ご購入直後の初期設定をしていないか、電池が消耗した状態でカメラを放置しています。各設定を確実に行ってください(43、256ページ)。 2) カメラ内部のメモリー管理エリアが壊れている恐れがあります。この場合は、リセット操作によりカメラの設定内容を初期値に戻してください(260ページ)。その後、各設定を確実に行ってください。再度カメラの電源を入れたときに時計設定画面が表示されなければ、カメラ内部のメモリー管理エリアが修復されました。 再度電源を入れても時計設定画面が表示される場合は、「修理に関するお問い合わせ窓口」(308ページ)またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。</p>
<p>画面に色々なマークや数字などが表示される</p>	<p>画面には撮影に必要な表示や撮影した画像の情報などが表示されます。 【▲】(DISP)を押すごとに、画面に表示される情報表示の有無が選べます(25ページ)。</p>
<p>購入後、時計を設定したあと、すぐに電池を抜いたら、設定した時刻がリセットされた。</p>	<p>電池を入れ、時計を設定し直してください(43ページ)。その後、24時間以上は電池を入れたままにしておいてください。 • 24時間以上、電池を入れているのに、電池の抜き差しで時刻がリセットされる場合は、カメラの設定保持機能が壊れている恐れがあります。この場合は、「修理に関するお問い合わせ窓口」(308ページ)またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。</p>
<p>電源を入れた直後、ボタン操作ができない。</p>	<p>メモリーカードの容量が大きい場合、電源を入れてからボタン操作ができるまでの時間が長くなります。</p>

画面に表示されるメッセージ

圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可能状態のときに表示されます。ズーム操作などで構図を変えて撮影しなおしてください。
カードが異常です	<p>メモリーカードに異常が発生したときに表示されます。電源を切って、メモリーカードを差し直してください。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、フォーマットしてください(259ページ)。</p> <p>重要</p> <ul style="list-style-type: none">• フォーマットを行うとメモリーカード内のすべての内容(ファイル)が消えてしまいます。フォーマットを行う前にパソコン等を利用して、メモリーカード内の正常なファイルを保存してください。
カードがフォーマットされていません	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードをフォーマットしてください(259ページ)。
カードがロックされています	<p>SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードに付いているLOCKスイッチがロックされている状態です。この状態では、記録、消去などファイルを操作することができません。</p> <p>LOCKスイッチ</p> 

この機能は使用できません	機能の組み合わせなどにより使用できない機能を使用した場合、操作の途中で表示されます。
このファイルは再生できません	ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。
設定したファイルが見つかりません	スライドショーの“表示画像”で設定した画像が見つからないときに表示されます。スライドショーの設定をし直してください(196ページ)。
接続エラー	プリンター接続時に、カメラのUSB設定がプリンターのUSB接続方式と合っていない場合に表示されます(216ページ)。
電池容量が無くなりました	電池がなくなったときに表示されます。
電池容量が無くなりました ファイルが保存されませんでした	電池がなくなったため、撮影した画像ファイルが保存されませんでした。
登録可能な画像がありません	ベストショットのカスタムショットに登録できる画像がないときに表示されます。
ネットワーク接続中です	FlashAirカード、またはEye-Fiカードを使用して画像データをパソコンなどにコピーしている途中で、電源を切ろうとしたときに表示されます(240、242ページ)。

ファイルがありません	まだ何も記録していない状態、または記録内容をすべて消去して本機にファイルが一つもない状態です。
フォルダーが作成できません	999番のフォルダーの中に9999番のファイルが登録されている状態で、撮影しようとしたときに表示されます。撮影を続けるには、不要なファイルを消去する必要があります(60ページ)。
プリントする画像がありません DPOF設定してください	プリントする画像が指定されていないときに表示されます。DPOFの設定を行ってください(219ページ)。
プリントエラー	プリント中のエラー時に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • プリンター電源オフ、 • プリンター本体のエラー、など
メモリーがいっぱいです	撮影可能枚数を使い切った場合、または編集後のファイルを保存できるメモリーの空きがない場合に表示されます。パスト連写撮影時は、過去の画像をすべて記録できる容量がメモリーカードにない場合表示されます。不要なファイルを消去してください(60ページ)。
もう一度、電源を入れ直してください	レンズに障害物が当たると、このメッセージが表示され、電源が切れます。障害物がないことを確認して、再度電源を入れてください。
用紙を補充してください	プリント時に、プリンターの用紙が切れている場合に表示されます。

レンズエラー	レンズが予期せぬ動作をしたとき、このメッセージが表示され、電源が切れます。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、「修理に関するお問い合わせ窓口」(308ページ)またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
レンズエラー2	手ブレ補正ユニットが故障している可能性があります。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、「修理に関するお問い合わせ窓口」(308ページ)またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
ALERT	カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。
SYSTEM ERROR	カメラのシステムが壊れていますので、「修理に関するお問い合わせ窓口」(308ページ)またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

撮影可能枚数／撮影可能時間

静止画

画像サイズ (pixels)	撮影画質	ファイル サイズ	内蔵メモリー※1 での撮影枚数	SDメモリーカード※2 での撮影枚数
16M (4608×3456)	高精細-F	10.71MB	3	1072
	標準-N	5.57MB	5	1654
3:2 (4608×3072)	高精細-F	9.43MB	3	1214
	標準-N	4.92MB	6	1873
16:9 (4608×2592)	高精細-F	7.83MB	4	1466
	標準-N	4.1MB	7	2221
10M (3648×2736)	高精細-F	6.4MB	5	1787
	標準-N	3.38MB	8	2728
5M (2560×1920)	高精細-F	2.99MB	9	2990
	標準-N	1.72MB	14	4283
3M (2048×1536)	高精細-F	2.0MB	15	4669
	標準-N	1.25MB	21	6533
VGA (640×480)	高精細-F	430KB	64	19683
	標準-N	290KB	87	26809

動画

設定内容 (pixels)/ (音声)	転送レート (フレームレート)	1ファイル 最大 サイズ	内蔵メモリー での 記録時間※1	SDメモリー カードでの 最大記録 可能時間※2	1分録画時 のファイル サイズ	一回当たりの 連続撮影可能 時間※3
FHD (1920×1080) (ステレオ)	14.2メガビット/秒 (30フレーム/秒)	4GBまで	26秒	2時間13分	106.5MB	35分59秒
HD (1280×720) (ステレオ)	10.9メガビット/秒 (15、20、30フレーム /秒)		34秒※4	2時間53分 ※4	81.8MB ※4	46分54秒 ※4
STD (640×480) (ステレオ)	3.9メガビット/秒 (30フレーム/秒)		1分36秒	8時間12分	29.3MB	2時間12分 54秒
HS1000 (224×64) (無し)	40.0メガビット/秒 (1000フレーム/秒)		9秒	48分	300.0MB	13分10秒
HS480 (224×160) (無し)	40.0メガビット/秒 (480フレーム/秒)		9秒	48分	300.0MB	13分2秒
HS240 (512×384) (無し)	40.0メガビット/秒 (240フレーム/秒)		9秒	48分	300.0MB	12分58秒
HS120 (640×480) (無し)	40.0メガビット/秒 (120フレーム/秒)		9秒	47分	300.0MB	12分55秒

設定内容 (pixels)/ (音声)	転送レート (フレームレート)	1ファイル 最大 サイズ	内蔵メモリー での 記録時間※1	SDメモリー カードでの 最大記録 可能時間※2	1分録画時 のファイル サイズ	一回当たりの 連続撮影可能 時間※3
HS30-240 (512×384) (30fps時のみ 有り)	5.4メガビット/秒 (30フレーム/秒) 40.4メガビット/秒 (240フレーム/秒)	4GBまで	1分10秒※5	5時間59分 ※5	40.5MB※5	1時間36分 54秒※5
HS30-120 (640×480) (30fps時のみ 有り)	10.4メガビット/秒 (30フレーム/秒) 40.4メガビット/秒 (120フレーム/秒)		36秒※5	3時間5分※5	78.0MB※5	49分57秒※5

設定内容 (pixels)/ (音声)	転送レート (フレームレート)	1ファイル 最大サイズ	内蔵メモリー での 記録時間※1	SDメモリー カードでの 最大記録 可能時間※2	一回当たりの 連続撮影 可能時間※3
YouTube (FHD) (1920×1080) (ステレオ)	14.2メガビット/秒 (30フレーム/秒)	2048MB、 または 再生時間が 最大15分 まで。	26秒	2時間13分	15分
YouTube (STD) (640×480) (ステレオ)	3.9メガビット/秒 (30フレーム/秒)		1分36秒	8時間12分	15分
YouTube (HS1000) (224×64) (無し)	40.0メガビット/秒 (1000フレーム/秒)		9秒	48分	27秒
YouTube (HS480) (224×160) (無し)	40.0メガビット/秒 (480フレーム/秒)		9秒	48分	56秒
YouTube (HS240) (512×384) (無し)	40.0メガビット/秒 (240フレーム/秒)		9秒	48分	1分52秒
YouTube (HS120) (640×480) (無し)	40.0メガビット/秒 (120フレーム/秒)		9秒	47分	3分45秒
YouTube (HS30-240) (512×384) (30fps時のみ有り)	5.4メガビット/秒 (30フレーム/秒) 40.4メガビット/秒 (240フレーム/秒)		1分10秒※5	5時間59分 ※5	15分※5
YouTube (HS30-120) (640×480) (30fps時のみ有り)	10.4メガビット/秒 (30フレーム/秒) 40.4メガビット/秒 (120フレーム/秒)		36秒※5	3時間5分※5	15分※5

- ※1 内蔵メモリーをフォーマット後の容量(49.9MB)の場合です。
 - ※2 16GB SDHCメモリーカード(SanDisk Corporation製)の場合です。使用するメモリーカードによって撮影枚数・記録時間は異なる場合があります。
 - ※3 1ファイル最大サイズよりも容量の小さいSDメモリーカードを使用する場合は、記載の時間より短くなります。
 - ※4 “アートショット”撮影時の数値です。
 - ※5 30fpsで撮影した場合の撮影可能時間になります。撮影中、30fpsを120fpsまたは240fpsに切り替えると撮影可能時間は短くなります。
- メモリーカードの転送速度によっては記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。
 - 撮影枚数/撮影時間は目安(おおよその数値)であり、画像の内容によって少なくなることがあります。
 - ファイルサイズ/転送レートは目安(おおよその数値)であり、撮影対象によって変化することがあります。
 - 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおよその容量に比例した枚数が撮影できます。
 - ハイスピード動画撮影時は、撮影時間と再生時間が異なります。例えば240fpsのハイスピード動画撮影を10秒間行うと再生時間は80秒になります。

主な仕様／別売品

画像ファイル形式 静止画:JPEG(Exif Ver.2.3/DCF2.0準拠/DPOF対応)
動画:MOV形式、H.264/AVC準拠、IMA-ADPCM音声(ステレオ)

記録媒体 内蔵フラッシュメモリー
(画像記録エリア:49.9MB*)
SD/SDHC/SDXC
※ 内蔵メモリーをフォーマット後の容量

記録画素数 静止画:16M(4608×3456)/
3:2(4608×3072)/
16:9(4608×2592)/
10M(3648×2736)/
5M(2560×1920)/
3M(2048×1536)/
VGA(640×480)

動画:FHD(1920×1080 30fps)/
HD(1280×720 15fps/
20fps/30fps)*/
STD(640×480 30fps)/
HS1000(224×64 1000fps)/
HS480(224×160 480fps)/
HS240(512×384 240fps)/
HS120(640×480 120fps)/
HS30-240(512×384
30fps・240fps切替式)/
HS30-120(640×480
30fps・120fps切替式)
※ “アートショット”または一部の
“タイムラプス”のシーンの
撮影時のみ使用できます。

有効画素数 1610万画素

撮像素子 サイズ:1/2.3型正方画素高速
CMOS
総画素数:1679万画素

レンズ/焦点距離 F3.0(W)–5.9(T)/f=4.24~
53.0mm(35mmフィルム換算
24~300mm相当)

ズーム 光学ズーム12.5倍、プレミアム
ズーム併用時25.0倍
デジタルズーム4倍
HDズーム/デジタルズーム併用
時最大199.3倍(VGAサイズ)

フォーカス	コントラスト検出方式オートフォーカス、AF補助光付き <ul style="list-style-type: none"> フォーカス方式: オートフォーカス/マクロ/スーパーマクロ/無限遠/マニュアルフォーカス選択可能 AFエリア:インテリジェント/スポット/マルチ/追尾選択可能
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

撮影距離 範囲 (レンズ 先端から)	オートフォーカス: 約5cm~∞(W端) マクロ:約1cm~約50cm (W端から5段ズーム時) スーパーマクロ: 約1cm~約50cm 無限遠:∞(W端) マニュアルフォーカス: 約5cm~∞(W端) <ul style="list-style-type: none"> 光学ズームにより、撮影距離は変化します。
---------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

測光方式	撮像素子によるマルチパターン測光/中央重点測光/スポット測光
-------------	--------------------------------

露出制御	プログラムAE/絞り優先AE/シャッター速度優先AE/マニュアル露出
-------------	------------------------------------

露出補正	-2.0EV~+2.0EV (1/3EVステップ)
-------------	------------------------------

シャッター 方式	CMOS電子シャッター/ メカシャッター併用
---------------------	---------------------------

シャッター スピード	静止画(プログラムオート): 1/4~1/2000秒 静止画(プレミアムオート PRO): 4~1/4000秒 静止画(絞り優先AE): 1~1/2000秒 静止画(シャッター速度優先AE): 15~1/2000秒 静止画(マニュアル露出): 15~1/2000秒 <ul style="list-style-type: none"> 高速連写モードのシャッター速度優先AE/マニュアル露出時のみ1/25000秒まで可能。 カメラの設定により異なる場合があります。
-----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

絞り	F3.0(W)~F7.9(W) (NDフィルター併用) <ul style="list-style-type: none"> 光学ズームにより、絞り値は変化します。
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

ホワイト バランス	オート/太陽光/曇天/日陰/昼白色蛍光灯/昼光色蛍光灯/電球/マニュアルホワイトバランス
----------------------	----------------------------------------------

感度設定 (標準出力 感度)	静止画:オート/ISO80/ ISO100/ISO200/ISO400/ ISO800/ISO1600/ ISO3200相当 静止画(HS ナイトショット): 最大ISO25600相当 動画:オート
フラッシュ モード	フラッシュオート/発光禁止/ 強制発光/赤目軽減機能
フラッシュ 撮影範囲 (ISO感度 オート時)	約0.4~約4.7m(W端) 約0.9~約2.4m(T端) ・ 光学ズームにより範囲は変化 します。
フラッシュ 光量調整	-2、-1、0、+1、+2
フラッシュ 充電時間	約5秒
画像 モニター	3.0型TFTカラー液晶 (高性能クリア液晶) 460,800ドット
外部 接続端子	USB端子(Hi-Speed USB準拠/ USB充電対応)/AV出力端子 (NTSC/PAL) HDMI output(ミニ)
マイク	ステレオ

スピーカー	モノラル
電源	リチウムイオン充電電池 (NP-130A/NP-130)×1個

電池寿命

下記の電池寿命は温度23°Cで使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

静止画撮影枚数※1	約510枚
静止画撮影枚数 (ECO)※1	約610枚
動画実撮影時間 (FHD動画)※1	約1時間35分
動画連続撮影時間 (FHD動画)※2	約2時間35分
動画連続撮影時間 (ハイスピード動画 (HS240))※2	約2時間55分
タイムラプス 撮影時間※2 (FHD動画※3)	約4時間40分

**連続再生時間
(静止画)※4**

約6時間10分

- 温度:23°C
- 使用電池:NP-130A/NP-130
(定格容量:1800mAh)
- 記録メディア:16GB SDHCメモリー
カード(SanDisk Corporation製)

※1 CIPA(カメラ映像機器工業会)規格に
準ずる

※2 カシオ基準による

※3 その他設定
タイムラプスシーン:スタンダード、
撮影間隔:1/2秒、トータル時間:OFF、
スリープ:1分のとき

※4 約10秒に1枚ページ送り

- 前記は、新品の電池のフル充電状態での
数値です。繰り返し使用すると、電池寿
命は徐々に短くなります。
- この数値は実際の使用での電池寿命を
保証するものではありません。
- フラッシュ、ズーム、オートフォーカス、
高速連写の使用頻度や電源が入った状
態の時間、その他設定、使用時の温度に
より、撮影時間または枚数は大幅に異な
る場合があります。

消費電力 DC3.7V 約5.6W

外形寸法 幅104.8mm×高さ59.1mm×
奥行き28.6mm
(突起部除く奥行き24.2mm)

質量 約205g
(電池およびメモリーカード※含む)
約165g
(電池およびメモリーカード除く)
※ 16GB SDHCメモリーカード
(SanDisk Corporation製)の場合

■ リチウムイオン充電電池 (NP-130A/NP-130)

定格電圧	3.7V
定格容量	1800mAh
使用周囲温度	0~40°C
外形寸法	幅37.8mm×高さ44.8mm× 奥行き11.2mm(突起部除く)
質量	約38g

■ USB-ACアダプター (AD-C54UJ)

入力	AC100-240V 50/60Hz 90mA
出力	DC5.0V 650mA
使用周囲温度	5~35°C
外形寸法	幅64.6mm×高さ38.4mm× 奥行き24mm(突起部除く)
質量	約40g

■ 別売品

- 充電器 BC-130L
- リチウムイオン充電電池
NP-130A/NP-130
- USB-ACアダプター AD-C53U
- USBケーブル EMC-6U
- AVケーブル EMC-8A
- ソフトケース ESC-270
- ネックストラップ ENS-2

別売品は、お買い求めの販売店、または
カシオ・オンラインショッピングサイト
(e-カシオ)にご用命ください。
e-カシオ：<http://www.e-casio.co.jp/>

カシオデジタルカメラに関する情報は、
カシオデジタルカメラオフィシャルWeb
サイトでもご覧になることができます。
<http://casio.jp/dc/>

CEマーキングは、ヨーロッパ地域の基準適合マークです。



Manufacturer:
CASIO COMPUTER CO., LTD.
6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan

Responsible within the European Union:
CASIO EUROPE GmbH
Casio-Platz 1, 22848 Norderstedt, Germany

索引

英数字

AF エリア	161	ISO 感度	78
AF 補助光	172	ISO 感度上限	159
AF 連写	133	Language	257
A (絞り優先) モード	67	Mass Storage	228, 236, 258
DCF 規格	246	M (マニュアル露出) モード	66
DPOF	219	NTSC	258
DVD レコーダー	195	PAL	258
EV シフト	80	PictBridge	216, 224, 258
Exif Print	224	PLAY	254
Eye-Fi	240	PLAY MENU	196
Eye-Fi カード	240	PRINT Image Matching III	224
FHD 動画	108	REC	254
FlashAir	242, 250	REC MENU	145
FlashAir カード	44, 242, 250	SD メモリーカード	44
HDMI	143, 192	SDHC メモリーカード	44
HDMI 出力	194, 259	SDXC メモリーカード	44
HDMI テレビ出力	143	SETTING	248
HDR	128	STD 動画	103
HS (ハイスピード) 動画	109	S (シャッター速度優先) モード	67
HS 手ブレ補正	129	USB	258
HS ナイトショット	127	USB 通信	258
		USB ドライバー	235
		YouTube	118

あ

アートショット	98
アイコンガイド	173
赤目軽減	82
明るさ編集	205
アシスト表示	174
いち押しショット	134
印刷	215
インテリジェント	161
液晶設定	249
液晶モニター	25
エコモード	248
オート撮影	52
オートパワーオフ	253
オートフォーカス	64, 74
オートマクロ	76
音声	106
音量	250

か

回転表示	209
顔検出	166
拡大	188
カスタムショット	125

画素	154
キーカスタマイズ	151
強制発光	82
グリッド	174
高速連写	93
コピー	187, 212
コンティニューアス AF	165
コントラスト	171

さ

再生 (再生モード)	59, 178
彩度	171
撮影 (撮影モード)	52, 65, 103
撮影レビュー	172
左右キー	151
時刻	43, 251
シャープネス	171
シャッター	53
充電	34, 268
消去	60
消去キー	255
シングル超解像ズーム	86, 91
スーパーマクロ	74
ズーム	86

スチルインムービー	121
スナップ撮影	142
スライドショー	196
スライドパノラマ	135
スリープ	253
静止画	52, 59
静止画画質	156
静止画サイズ	152, 210
セルフタイマー	69
全焦点マクロ	132
操作音	250
操作パネル	68
測光方式	85

た

タイムスタンプ	251
タイムラプス	115
縦画像回転再生	252
ダブル保存 (HDR アート)	101
超解像ズーム	86, 91
追尾	161
デジタルズーム	86, 168
手ブレ	105, 163
手ブレ補正	163

テレビ	190
電源	34, 268
電池	34
電池残量	42
動画	103, 178
動画画質	157
動画撮影範囲	175
トリプルショット	101
トリミング	211

な

内蔵メモリー	44, 212
日時	43, 209, 255, 256
日時設定	256
日時編集	209

は

背景ぼかし	130
ハイスピード動画	109
パストムービー	112
パソコン	225
発光禁止	82
被写体ブレ	163
ヒストグラム	174
日付	251, 257

日付プリント	223
ビデオ出力	258
表示言語	257
表示スタイル	257
ピント	55, 64
ファイル	244
ファイル No.	252
風音低減	168
フォーカスフレーム	55, 162
フォーカス方式	74
フォーカスロック	77
フォーマット	47, 259
フォルダー	244, 246
フォルダー作成	251
フラッシュ	82
フラッシュ光量	170
プリンター	215
プリント	215
プリント設定	219
プレミアムオート PRO	52
プレミアムズーム	86, 92
プログラムオート	52
プロテクト	206
ベストショット	122

ホワイトバランス	71, 204
----------	---------

ま

マクロ	74
マニュアルフォーカス	75
マルチ超解像ズーム	86, 92
ムービー	103, 178
ムービーカット	200
ムービー結合	202
無限遠	74
メイクアップレベル	79
メッセージ	285
メッセージの言語	257
メニュー	145
メモリーカード	44, 259, 271
モーション位置	150
モーションシャッター	148
モーションプリント	200
モードダイヤル	53, 65
モードメモリー	177

や

夜景撮影	280
------	-----

ら

ライティング	165, 203
リサイズ	210
リセット	260
連写	93
連写グループ	181
連写グループ解除	185, 213
連写フレーム編集	214
連写マルチプリント	213
録音	106
露出補正	80, 176

わ

ワールドタイム	255
ワイドショット	138